
周南市子どもの生活に関する実態調査 結果報告書（別冊）

支援利用者編

平成30年3月

周 南 市

目 次

1. 生活困難層の集計結果	1
2. 保護者の状況（保護者調査から）	
(1) 生活の基盤形成に関する事	2
(2) 保護者の健康状態、成育環境に関する事	9
(3) 子どもの健康や教育、体験に関する現状・課題に関する事	17
(4) 保護者や子どもに対する支援に関する事	29
3. 子ども本人の状況（子ども調査から）	
(1) 持ち物・所有物に関する事	34
(2) 家庭生活に関する事	38
(3) 生活習慣・毎日の生活に関する事	42
(4) 学び・学習・学校生活に関する事	49
(5) 自分のこと、進路・自立に関する事	53

※ 内のグラフは、上段の支援利用者調査のグラフと同じ設問の全体調査の結果を、参考として表している。

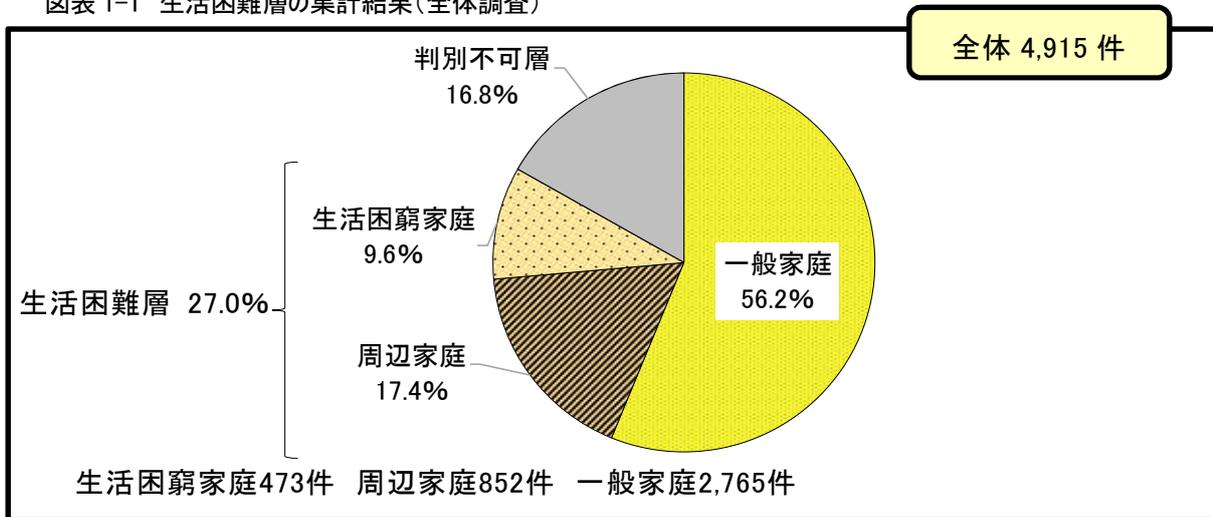
1. 生活困難層の集計結果

分類方法に基づいて集計した結果、全体調査では周南市の生活困窮家庭は全体の9.6%、周辺家庭は17.4%、一般家庭は56.2%、生活困窮家庭と周辺家庭を合わせた生活困難層は27.0%となっている。支援利用者調査では、生活困窮家庭は全体の47.8%、周辺家庭は28.5%、一般家庭は15.4%、生活困窮家庭と周辺家庭を合わせた生活困難層は76.3%となっている。

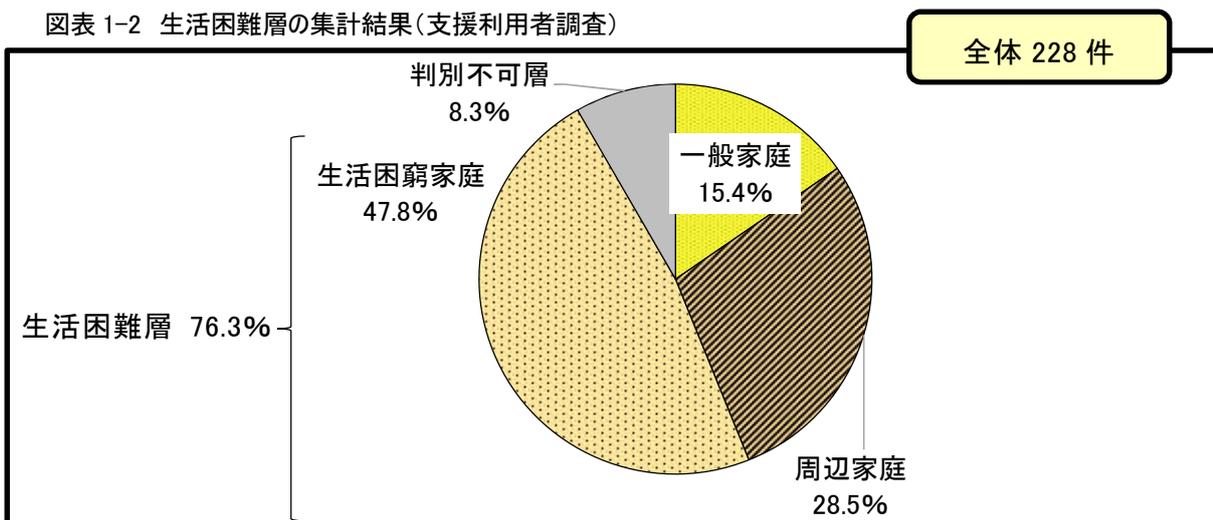
生活困難層を明確にするため、次ページ以降の各設問のグラフは、全体、生活困窮家庭、周辺家庭、一般家庭に分けて示している。なお、判定できなかった世帯はグラフに表記していないため、生活困窮家庭、周辺家庭、一般家庭の合計と全体は合致しない。

また、回答の少ない選択肢はその他としてまとめているものがある。

図表 1-1 生活困難層の集計結果(全体調査)



図表 1-2 生活困難層の集計結果(支援利用者調査)



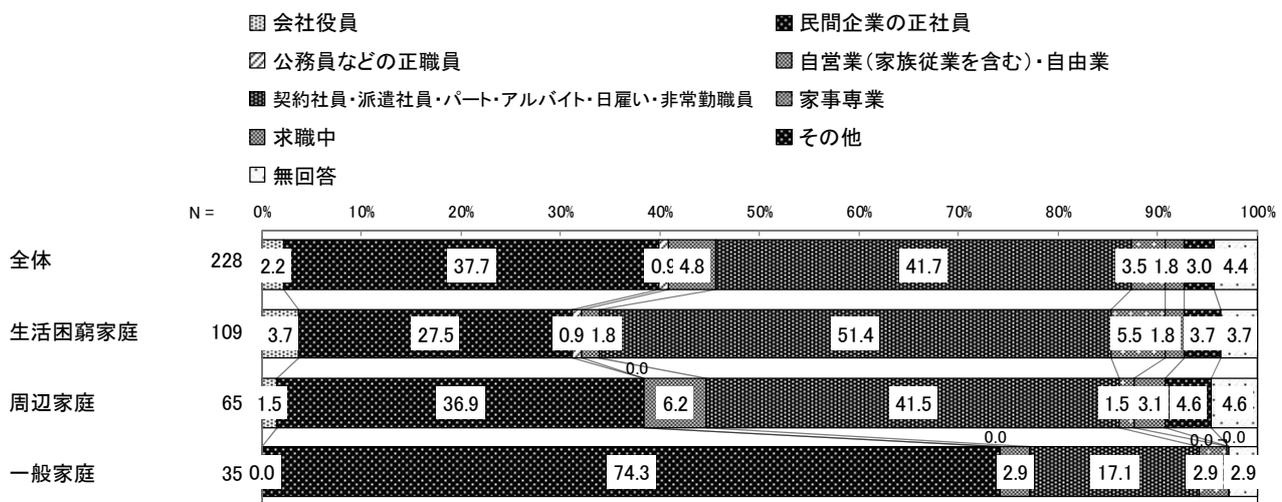
2. 保護者の状況（保護者調査から）

(1) 生活の基盤形成に関すること

① 就業状況【保護者に対する就労の支援】

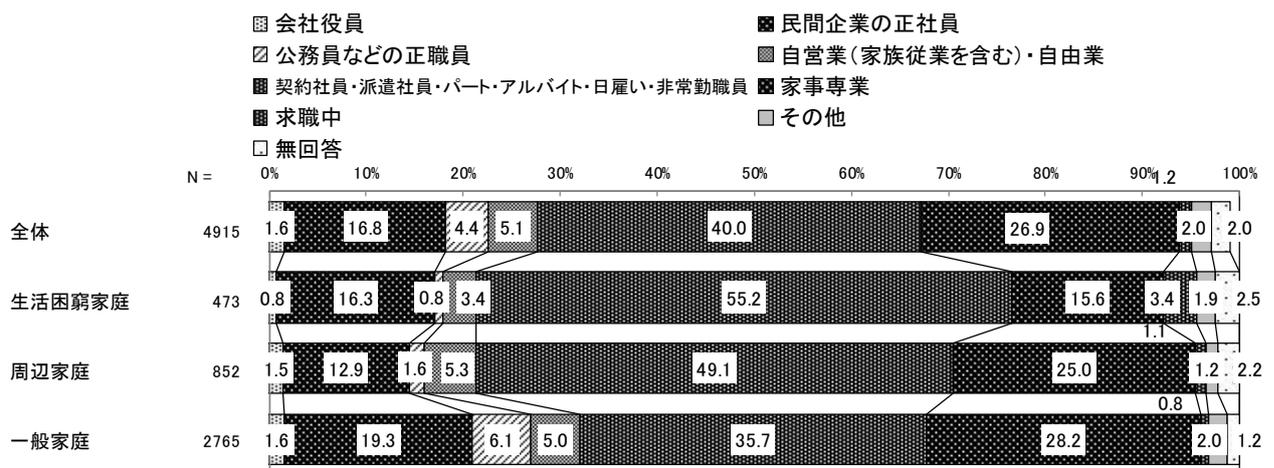
支援利用者調査では、全体調査と比べると、どの層も母親の正規雇用の割合が高い傾向にある。父親の職業については、母と子の世帯の回答者が多いことから、無回答の割合が高くなっている。（図表 2-1・2）。

図表 2-1 母親の職業(保護者 問9)

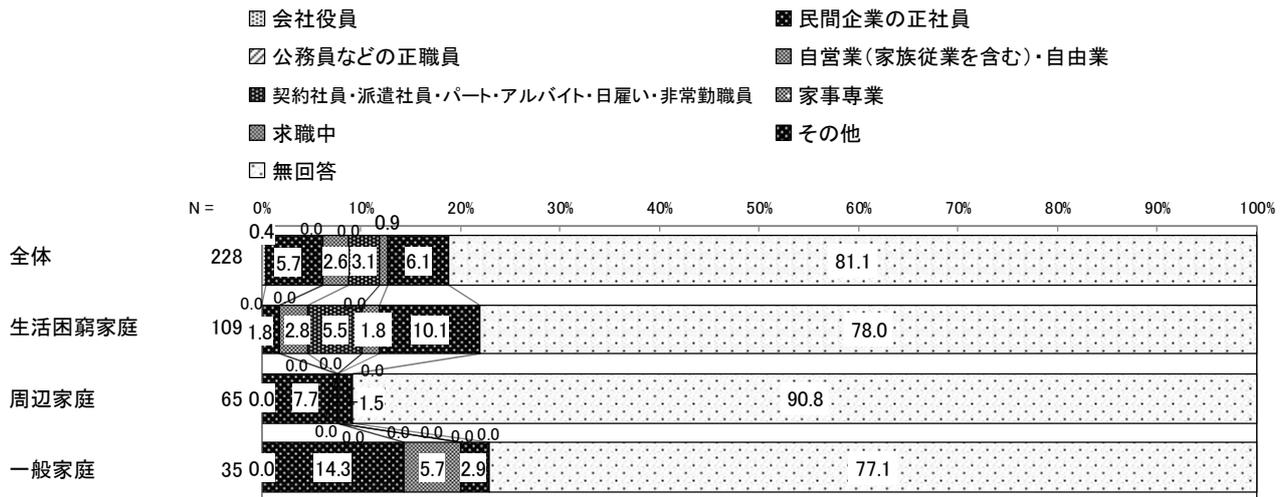


参考(全体調査)

図表 2-1 母親の職業(保護者 問9)



図表 2-2 父親の職業(保護者 問 10)



②世帯にないもの・暮らしぶり【生活の支援・経済的支援】

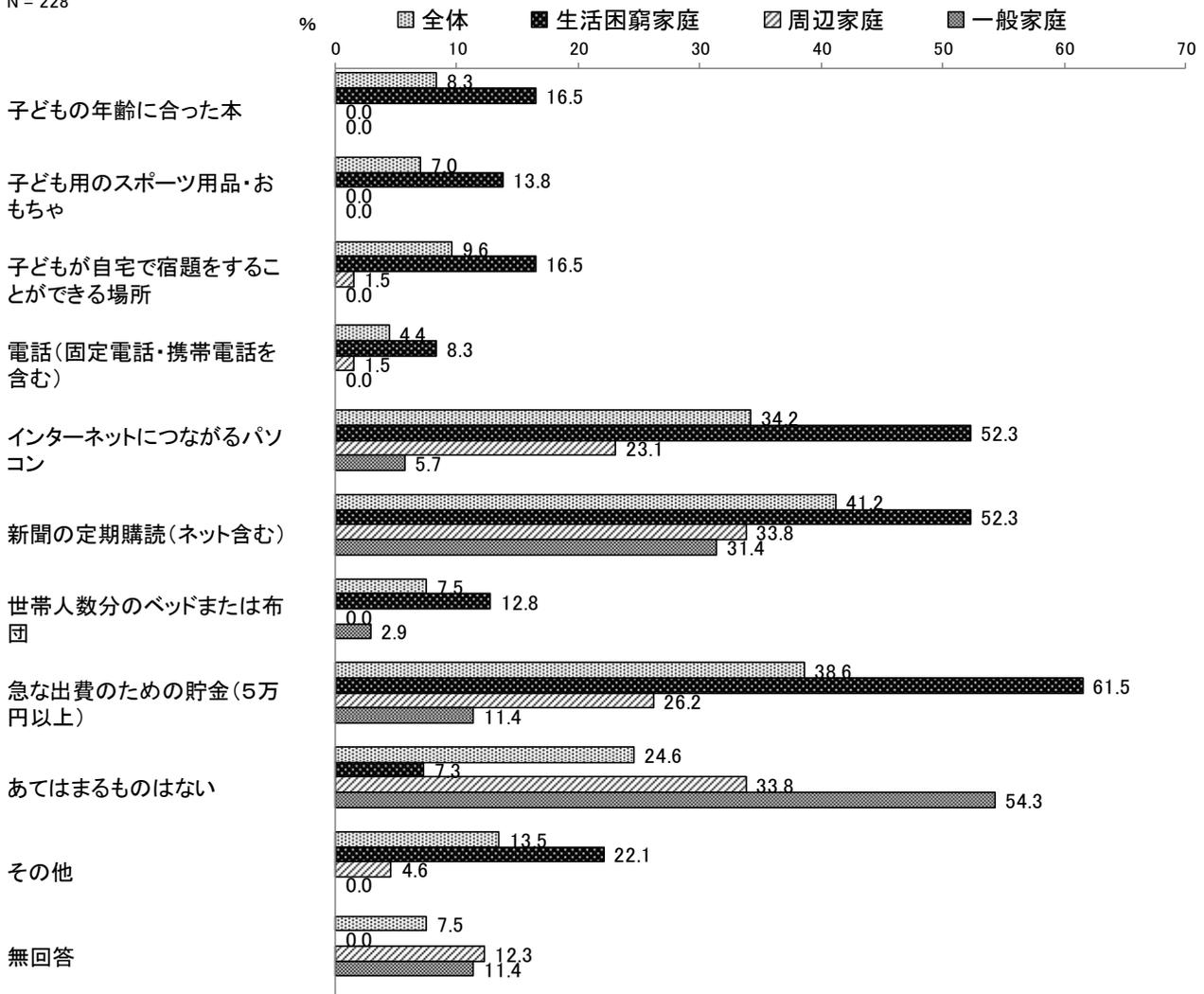
経済的な理由で世帯にないものとしては、全体調査と同様の結果が見受けられる(図表 2-3)。

『現在の暮らしの状況』についても、各層同様の傾向が出ているが、全体の「苦しい」割合が、全体調査に比べると半数を超え高くなっている。(図表 2-4)。

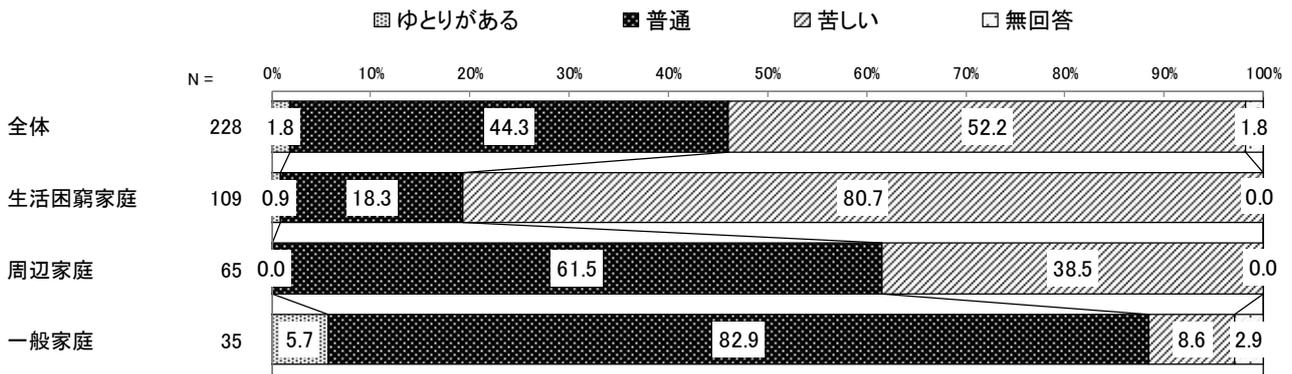
『家庭の家計の状況』では、全体と比べ、生活困窮家庭で「赤字であり、借金をして生活している」が多くなっている(図表 2-5)。

図表 2-3 経済的理由のために世帯にないもの(保護者 問 35)

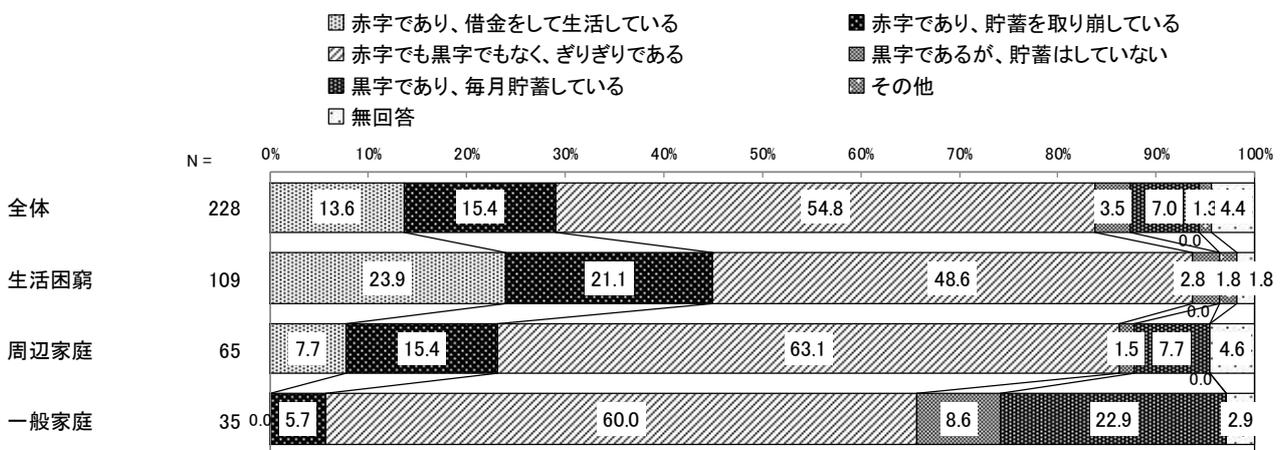
N = 228



図表 2-4 現在の暮らしの状況(保護者 問 28)



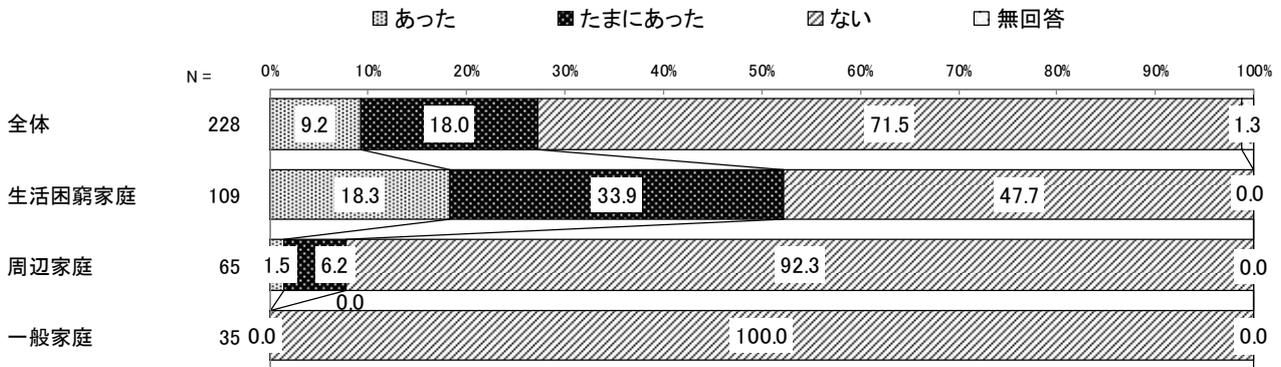
図表 2-5 家庭の家計の状況(保護者 問 29)



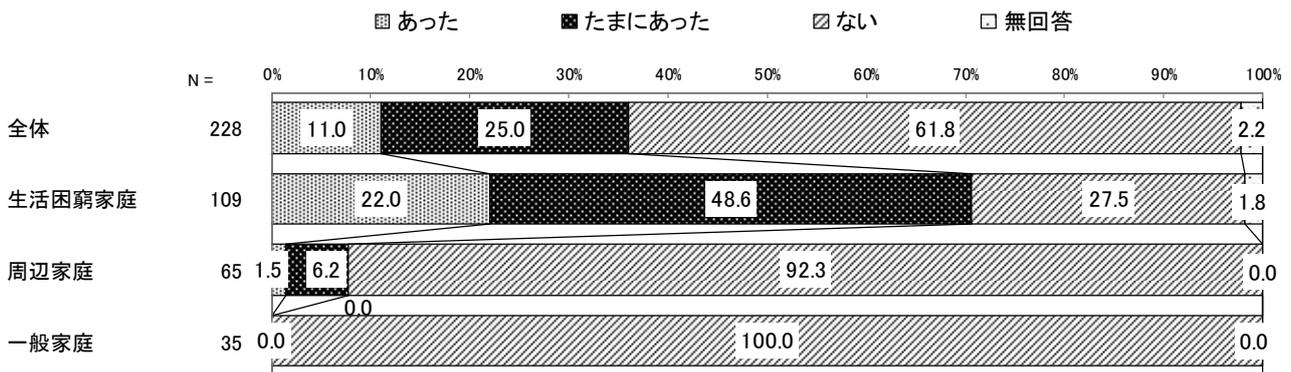
③家計に関する項目（主に生活困難状況別項目）【生活の支援・経済的支援】

各項目とも生活困窮家庭では、「あった」、「たまにあった」の割合が高くなっており、生活基盤が不安定なことが伺える(図表 2-6～14)。

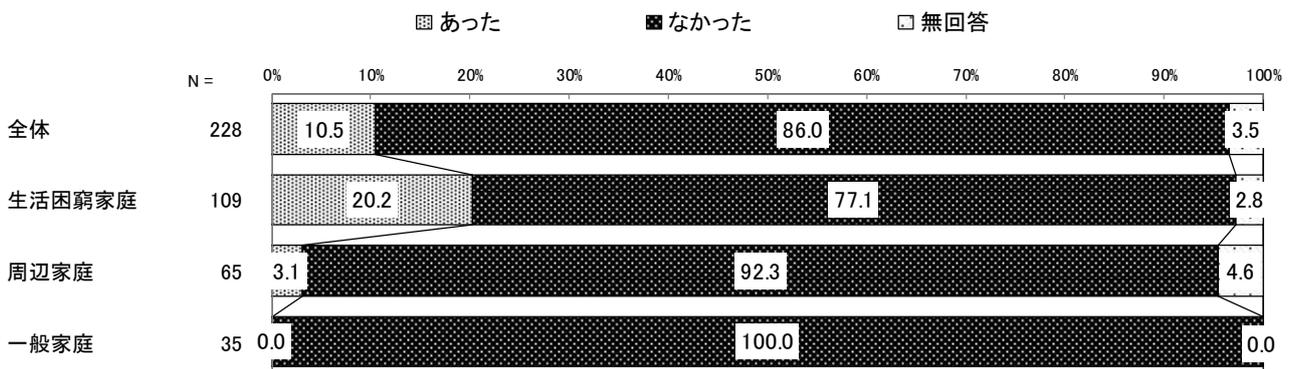
図表 2-6 過去1年の間に、経済的な理由で買えなかったことがあった 食料(保護者 問 30)



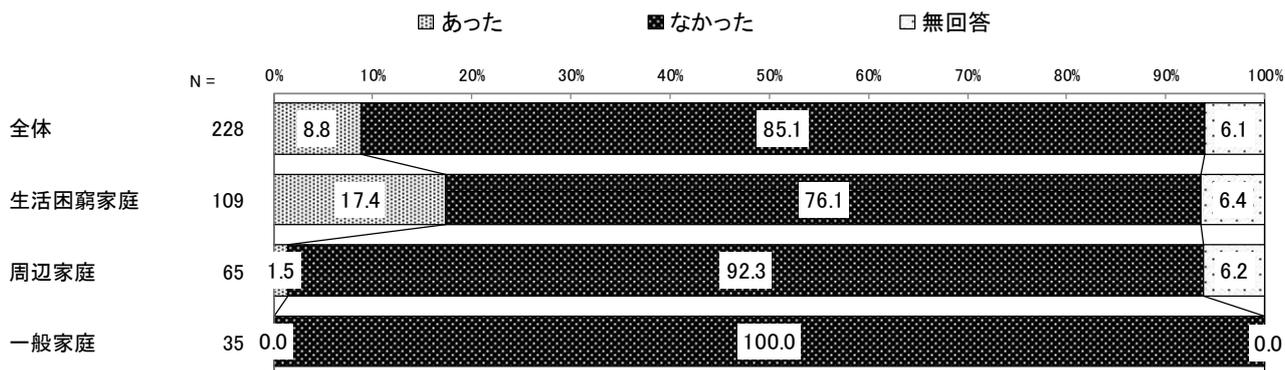
図表 2-7 過去1年の間に、経済的な理由で買えなかったことがあった 衣類(保護者 問 31)



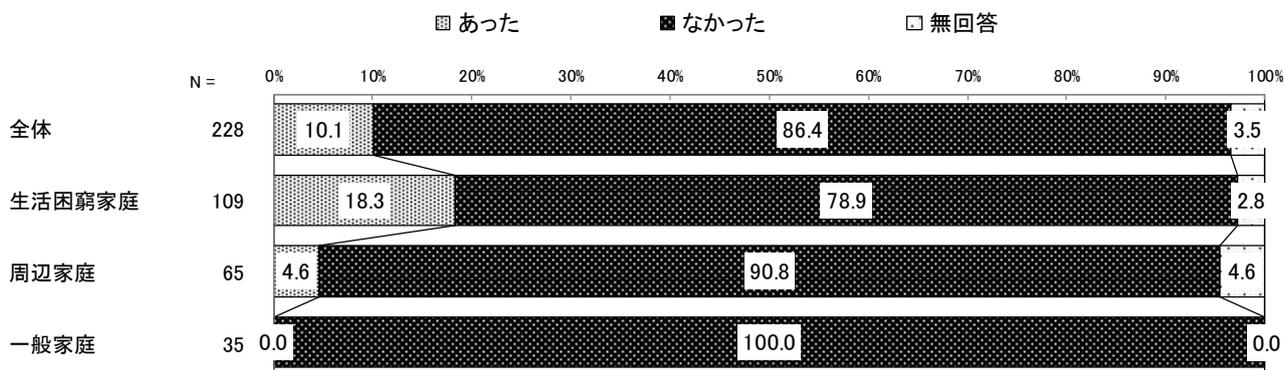
図表 2-8 過去1年の間に、経済的な理由で払えなかったことがあった 水道料金(保護者 問 32)



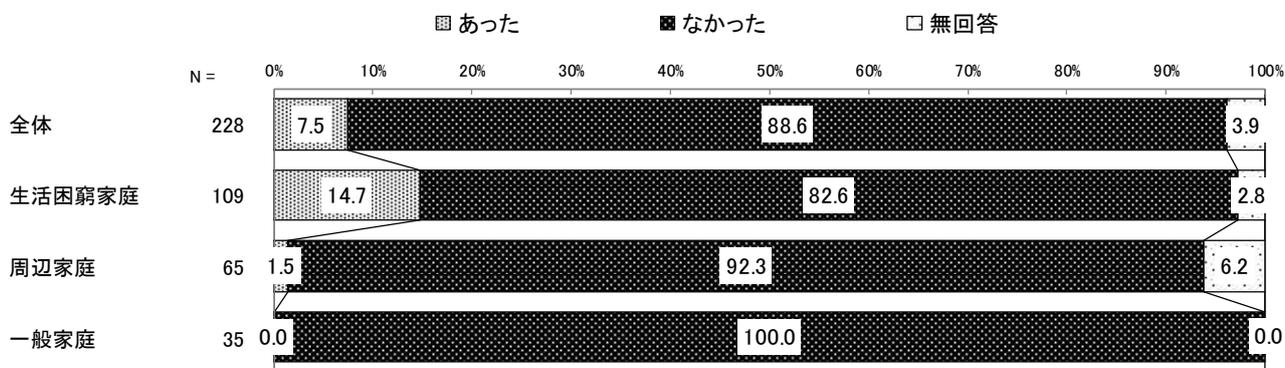
図表 2-9 過去1年の間に、経済的な理由で払えなかったことがあった 家賃(保護者 問 32)



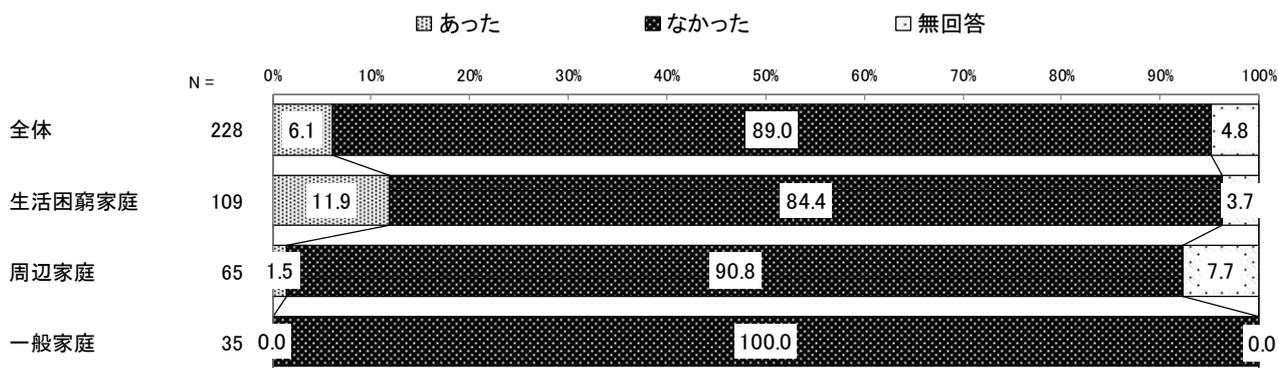
図表 2-10 過去1年の間に、経済的な理由で払えなかったことがあった 電話料金(保護者 問 32)



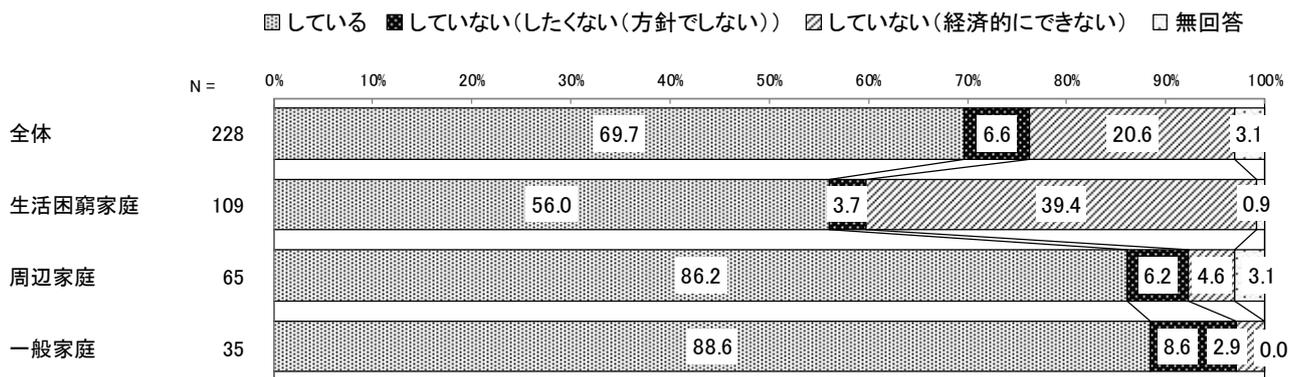
図表 2-11 過去1年の間に、経済的な理由で払えなかったことがあった 電気料金(保護者 問 32)



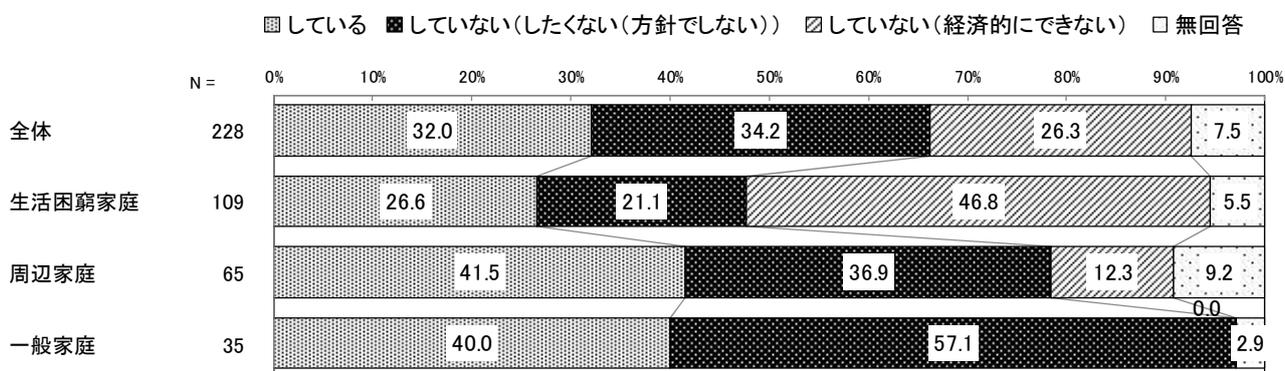
図表 2-12 過去1年の間に、経済的な理由で払えなかったことがあった ガス料金(保護者 問 32)



図表 2-13 家庭でしていること 新しい洋服・靴を買う(保護者 問 34)



図表 2-14 家庭でしていること 毎月のお小遣いを渡す(保護者 問 34)



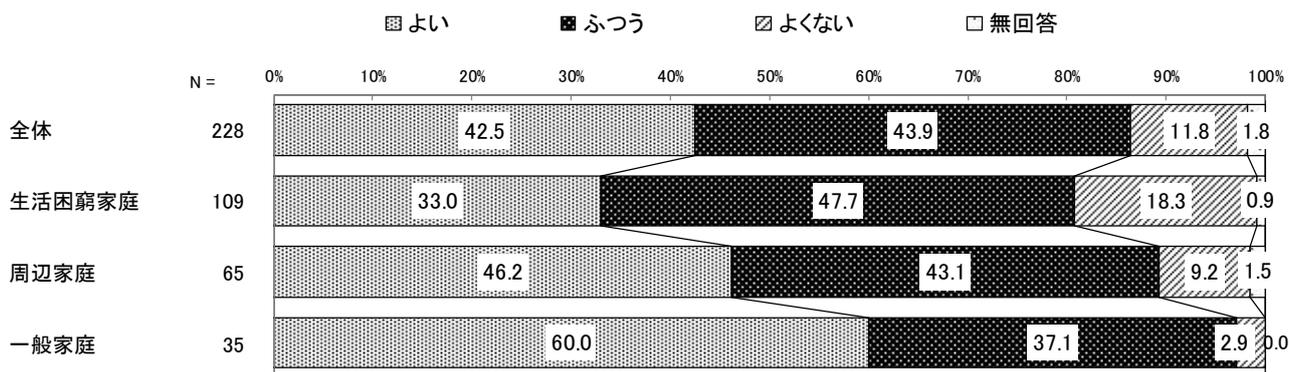
(2) 保護者の健康状態、成育環境に関すること

①心身の健康状態【生活の支援】

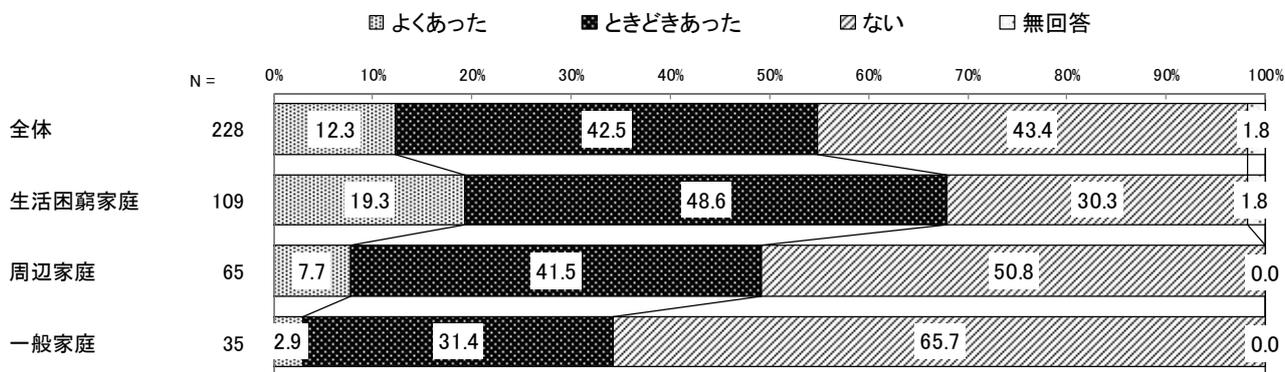
支援利用者調査においても健康状態は、生活困難度が上がるにつれて「よくない」の割合が高くなっている(図表 2-15)。

心理面においても同様の傾向が出ているが、全体調査と比べると「よくあった」、「ときどきあった」の割合が高くなっており、心理的な面での不安定感がより強く伺える(図表 2-16~21)。

図表 2-15 健康状態(保護者 問 14)

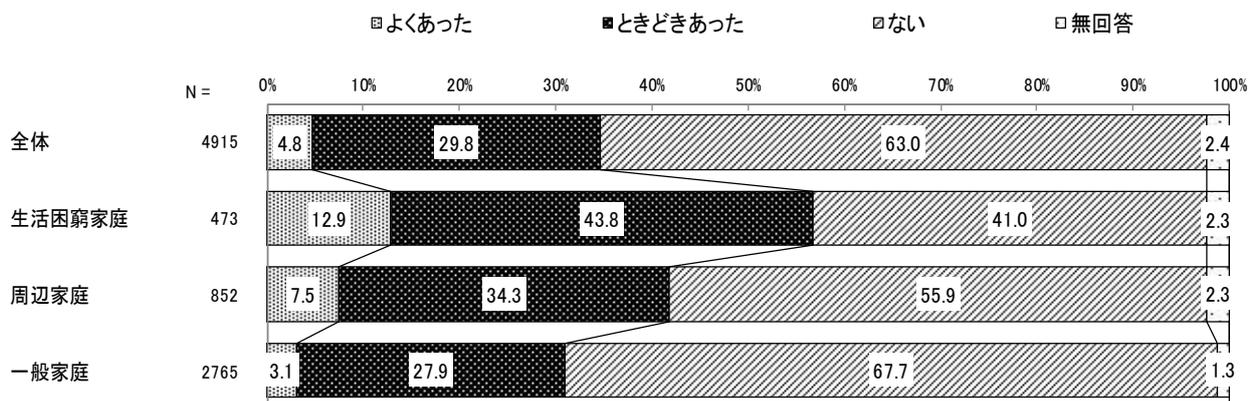


図表 2-16 気分が沈み込んで、気が晴れない(保護者 問 17)

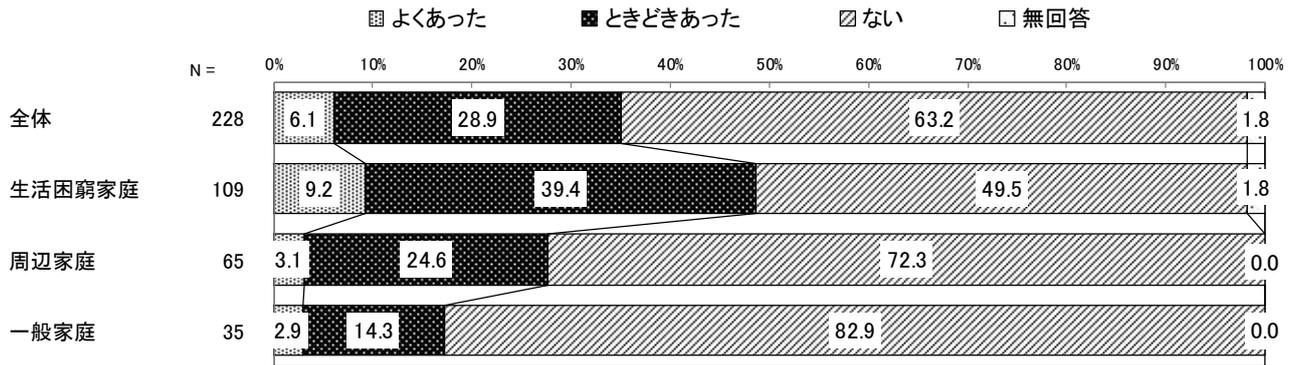


参考(全体調査)

図表 2-17 気分が沈み込んで、気が晴れない(保護者 問 17)

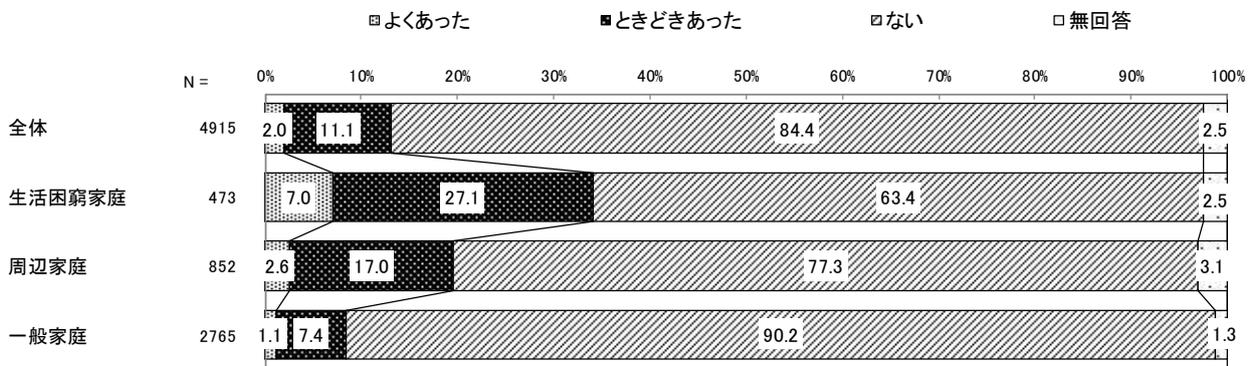


図表 2-17 絶望的だと感じた(保護者 問 17)

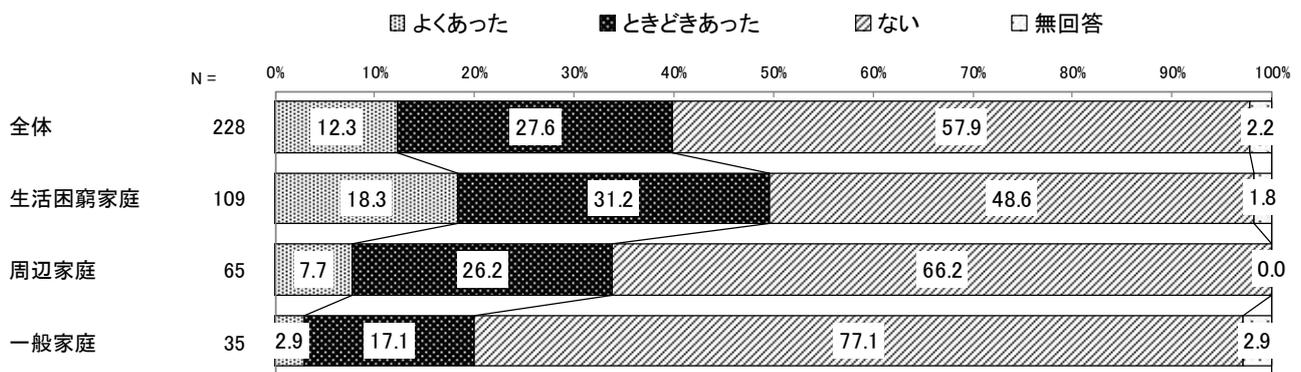


参考(全体調査)

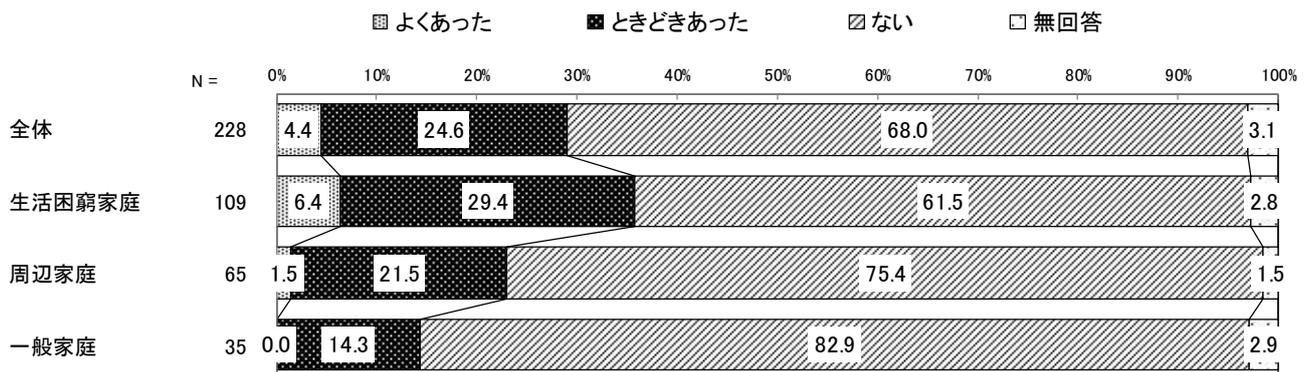
図表 2-18 絶望的だと感じた(保護者 問 17)



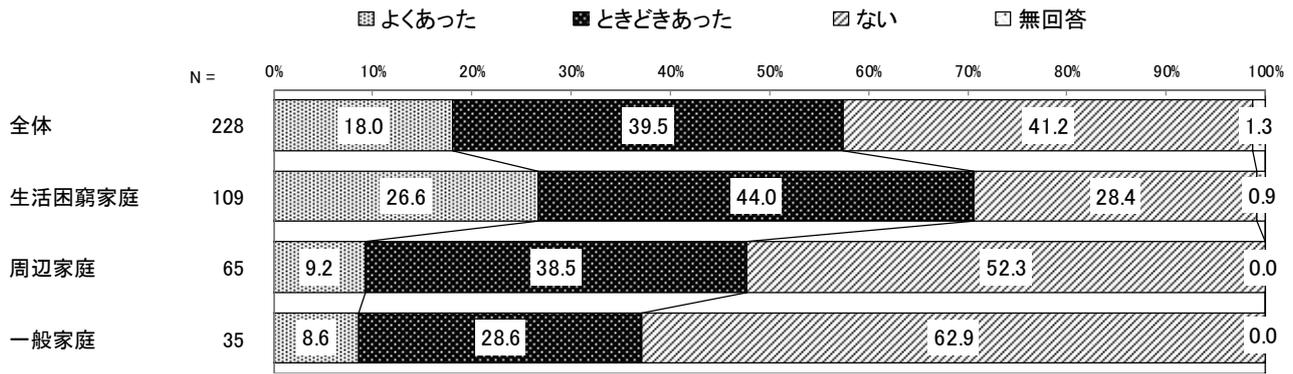
図表 2-18 過敏に反応する(保護者 問 17)



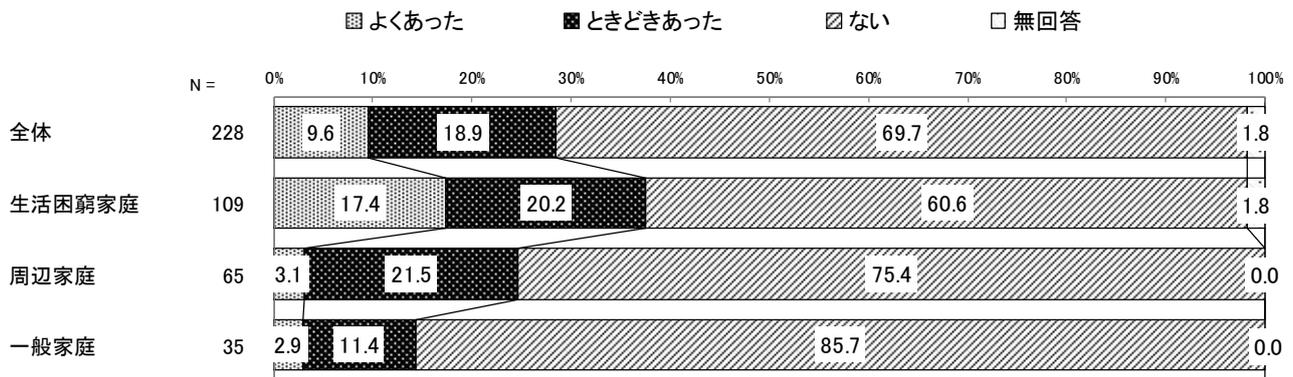
図表 2-19 そわそわ、落ち着かなく感じた(保護者 問 17)



図表 2-20 何をするにも大変を感じる(保護者 問 17)

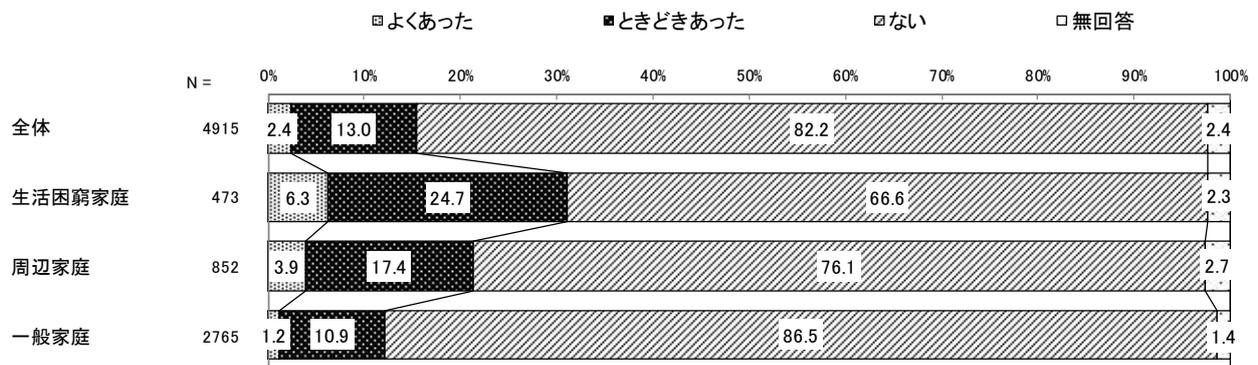


図表 2-21 自分は価値のない人間だと思う(保護者 問 17)



参考(全体調査)

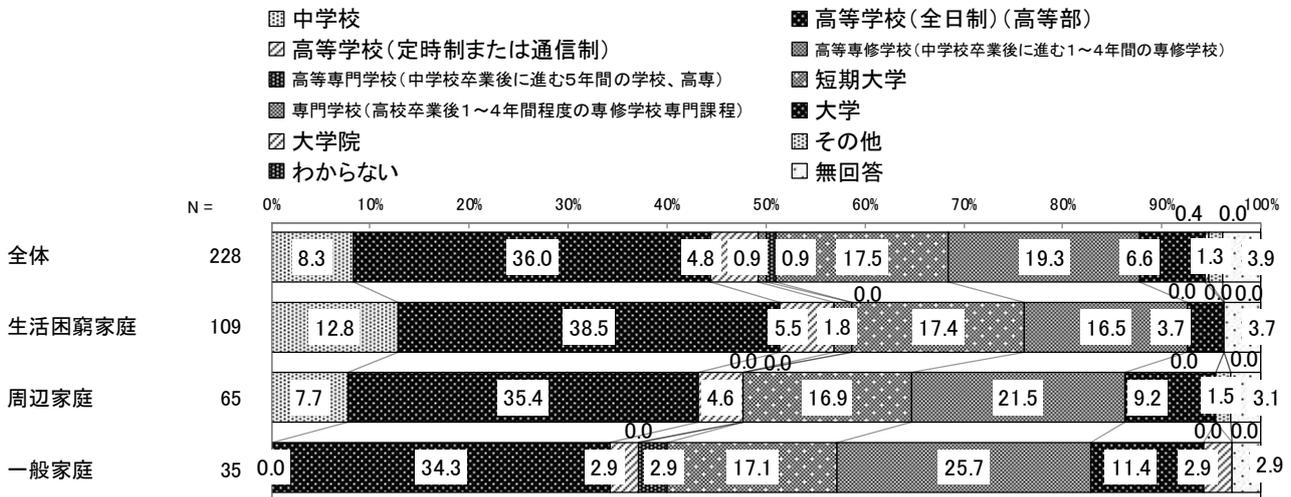
図表 2-22 自分は価値のない人間だと思う(保護者 問 17)



②学歴【保護者に対する就労の支援】

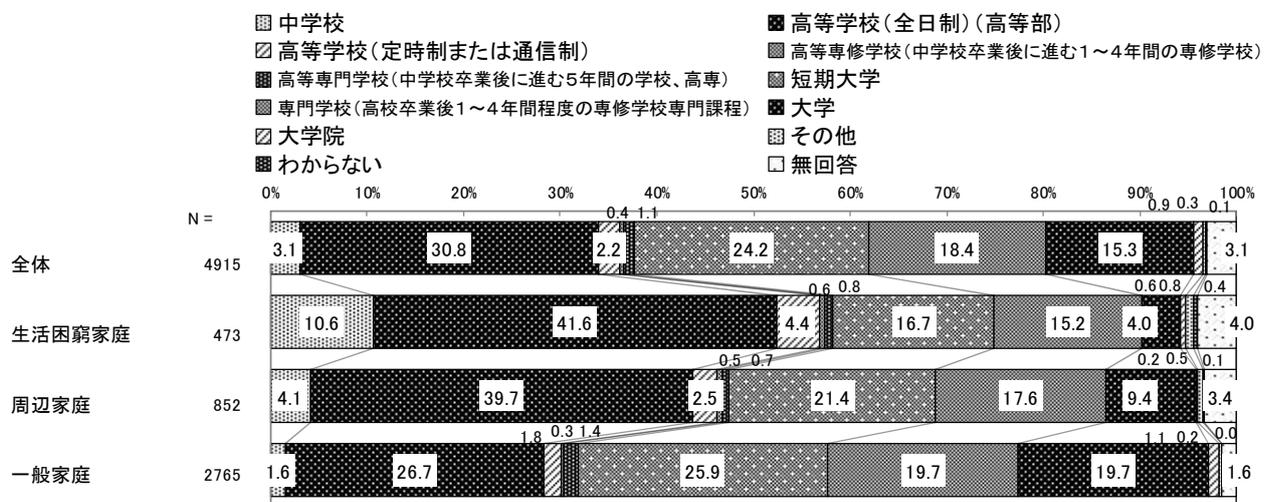
支援利用者調査の生活困窮家庭では、全体調査と同様に「高等学校(全日制)(高等部)」が最も高くなっている(図表 2-22・23)。

図表 2-22 母親の最終学歴(保護者 問 36)

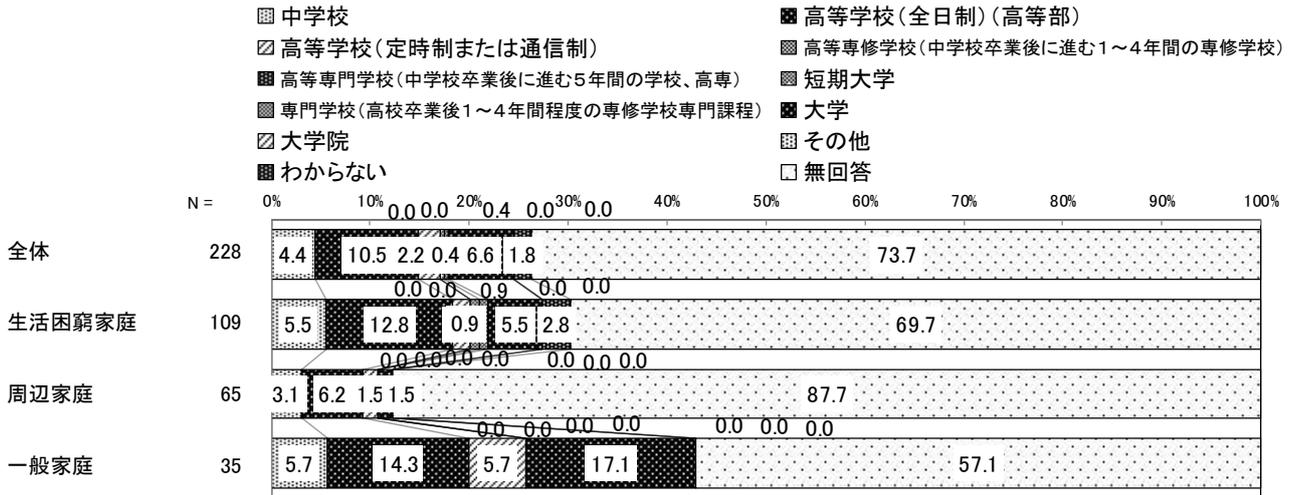


参考(全体調査)

図表 2-24 母親の最終学歴(保護者 問 35)

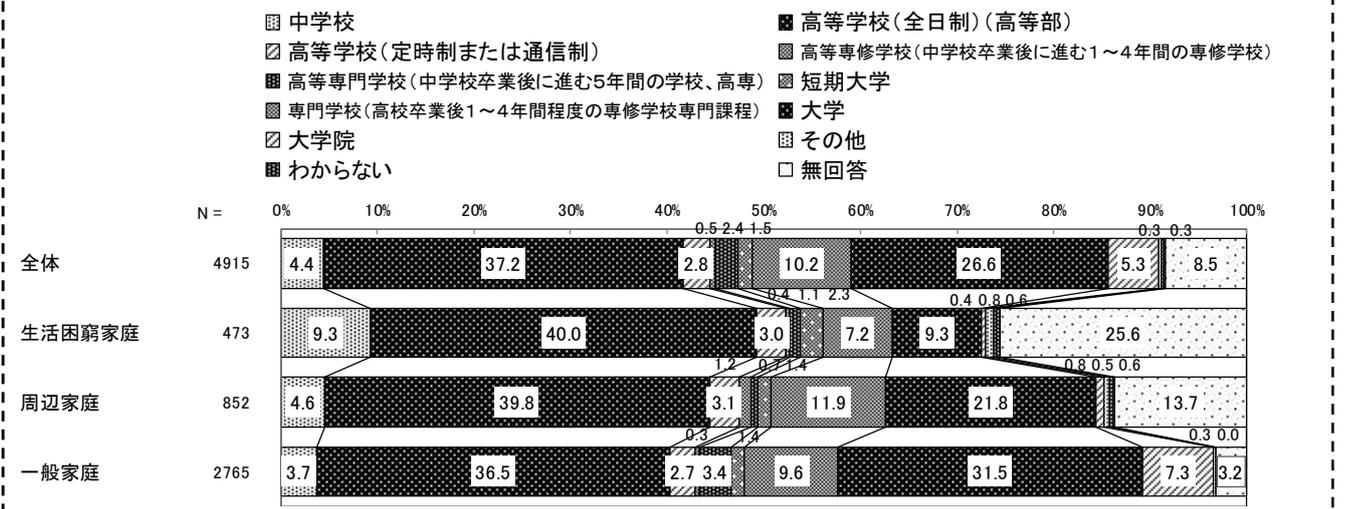


図表 2-23 父親の最終学歴(保護者 問 37)



参考(全体調査)

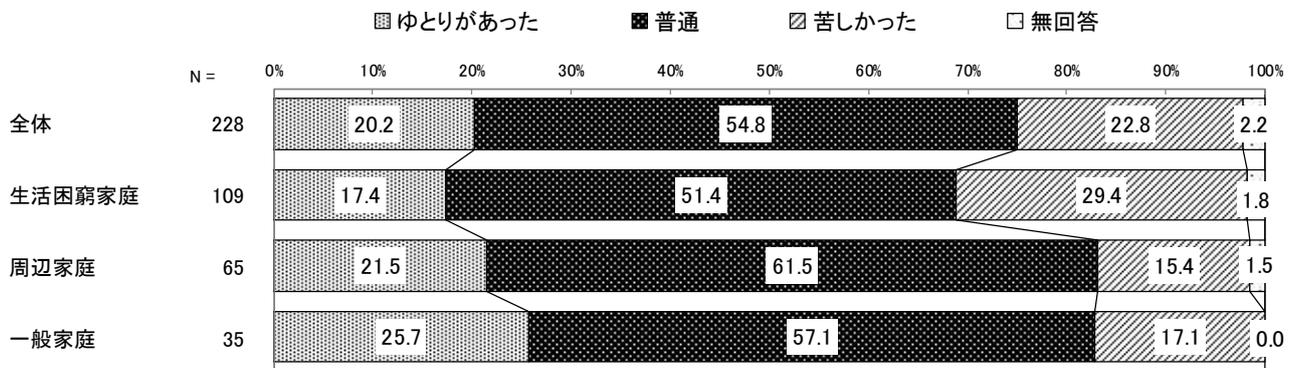
図表 2-25 父親の最終学歴(保護者 問 36)



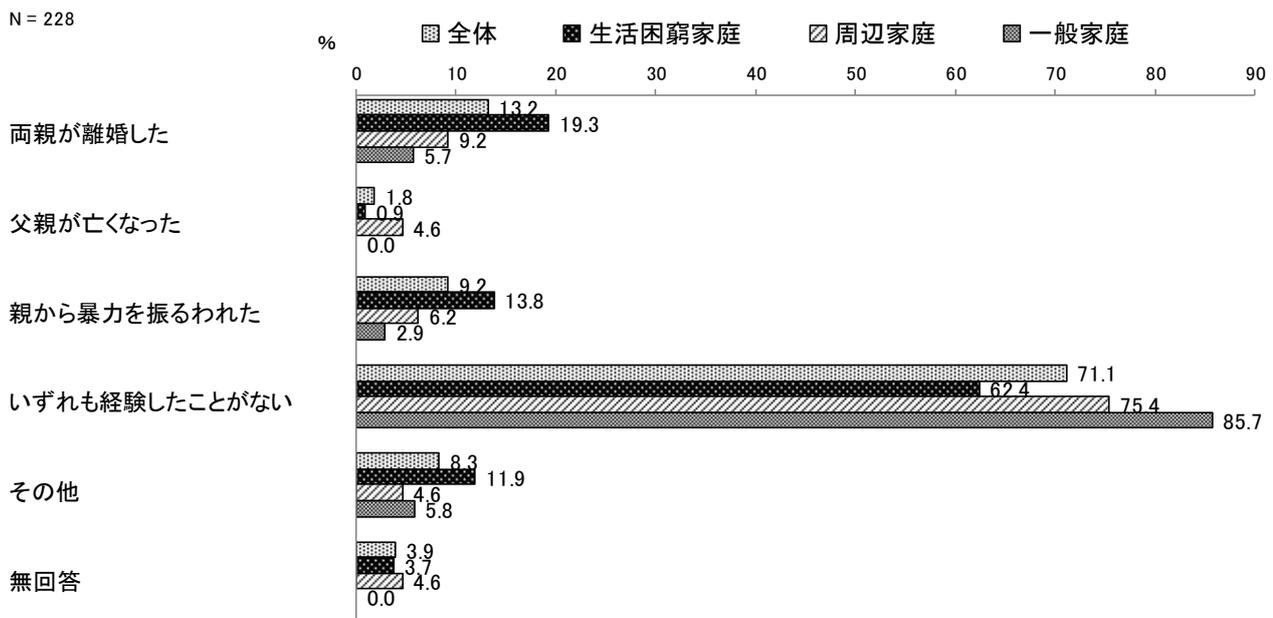
③ 成育環境【生活の支援】

『子育てに関わってからの体験』を全体調査と比較してみると、生活困窮家庭は、「お子さんに体罰を与えたことがある」を除いて、いずれの選択肢も高くなっている(図表 2-26)。

図表 2-24 15歳の頃の家庭の暮らし向き(保護者 問 39)

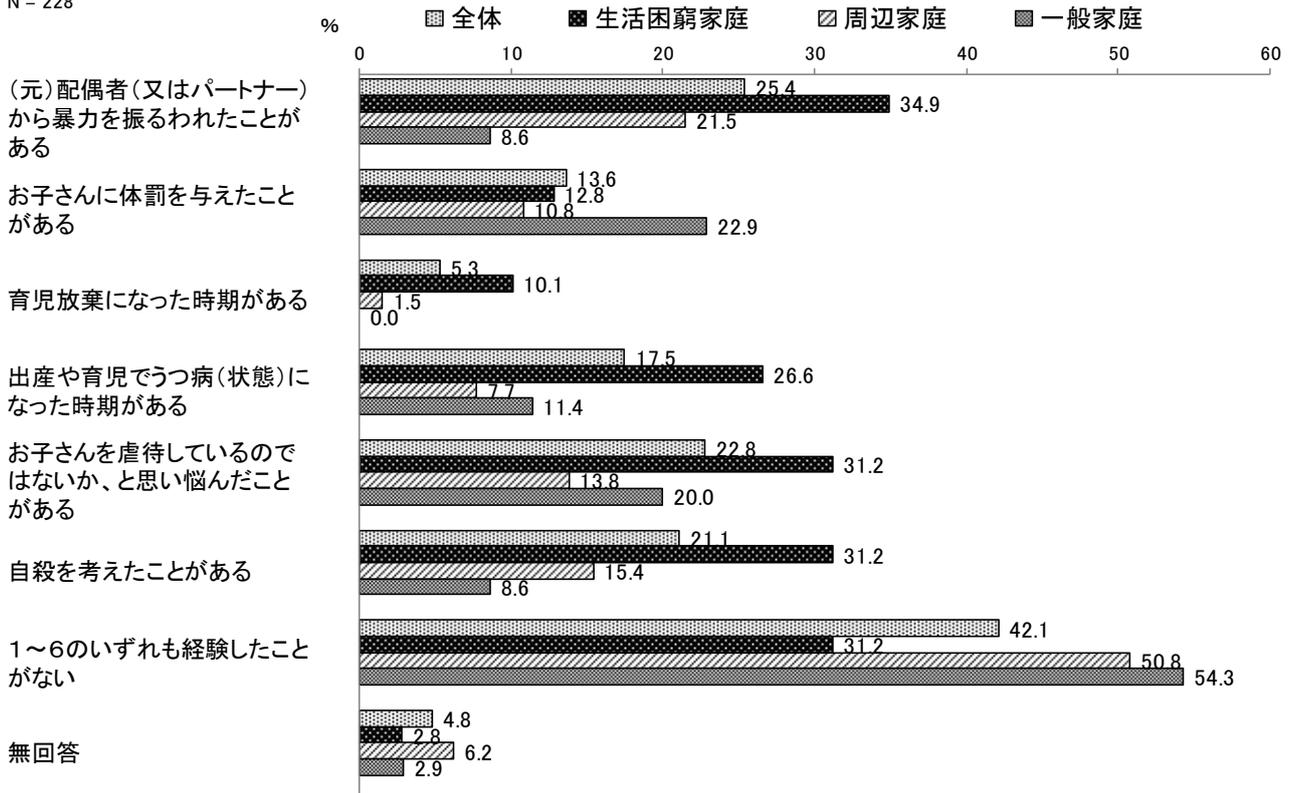


図表 2-25 成人する前にあった体験(保護者 問 40)



図表 2-26 子育てに関わってからの体験(保護者 問 41)

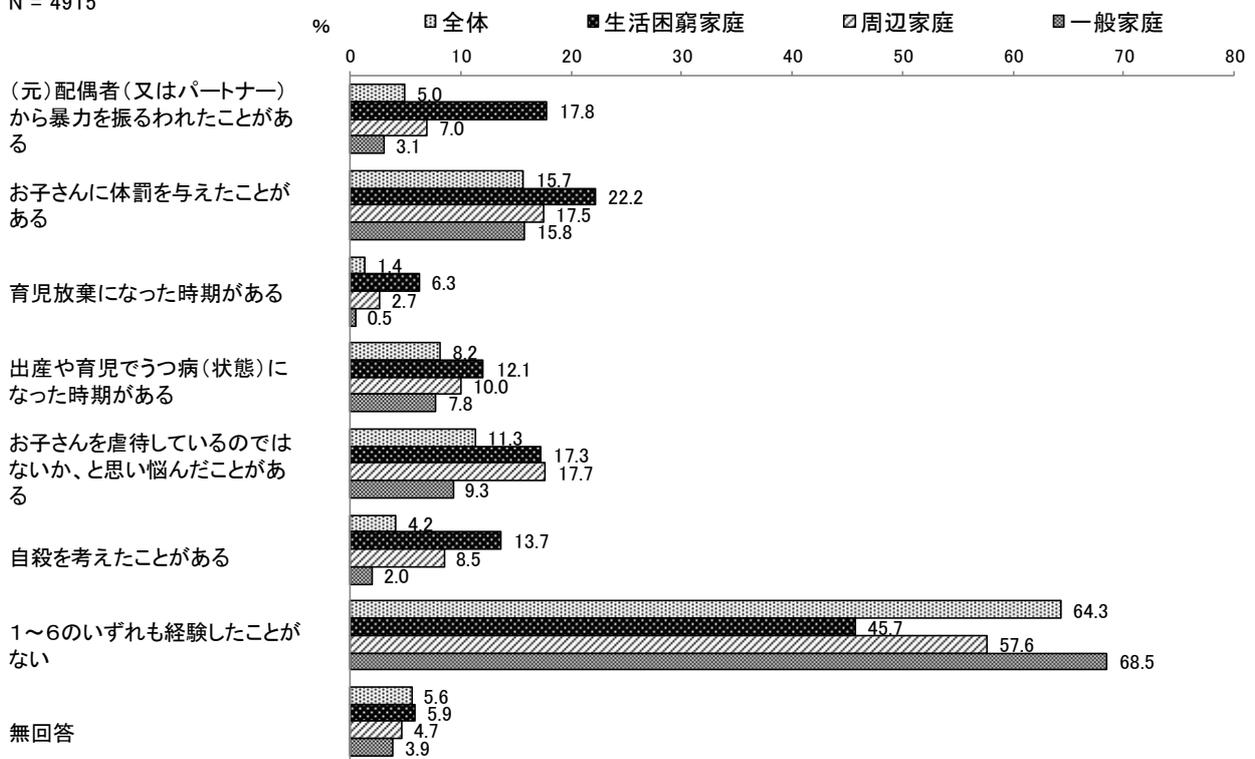
N = 228



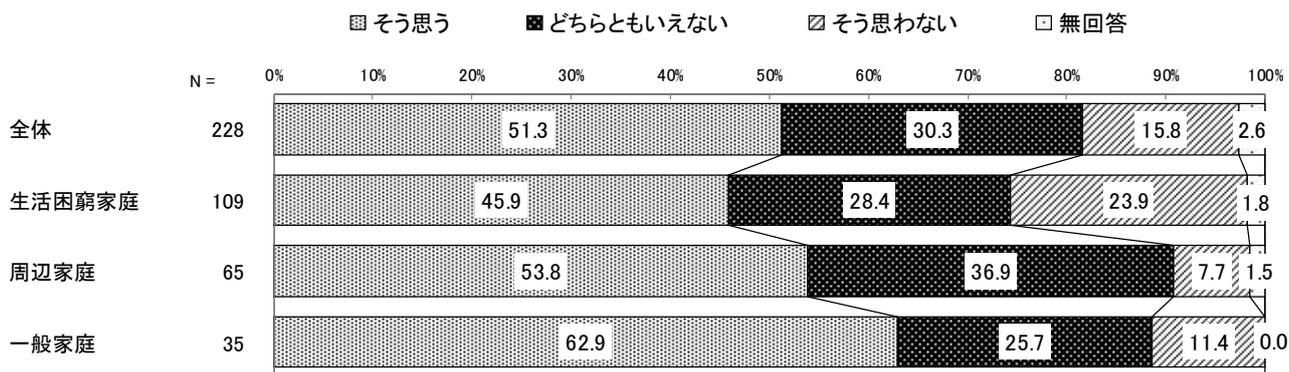
参考(全体調査)

図表 2-28 子育てに関わってからの体験(保護者 問 40)

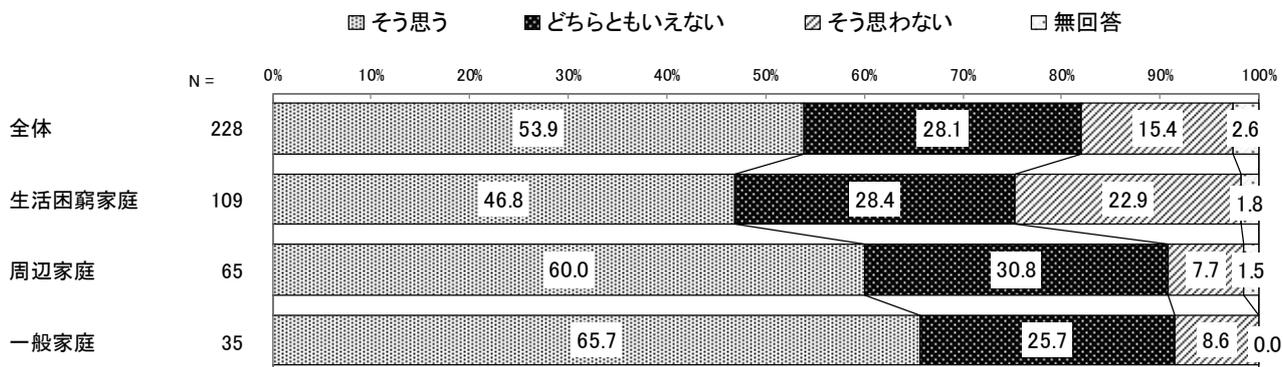
N = 4915



図表 2-27 親と一緒に楽しい時間を過ごしてくれた(保護者 問 42)



図表 2-28 親が自分の喜ぶことをしてくれた(保護者 問 42)

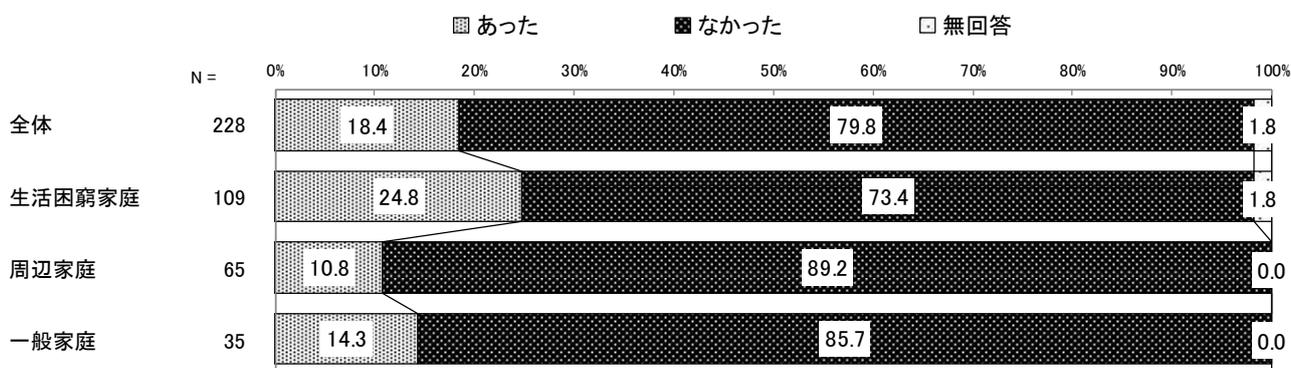


(3) 子どもの健康や教育、体験に関する現状・課題に関すること

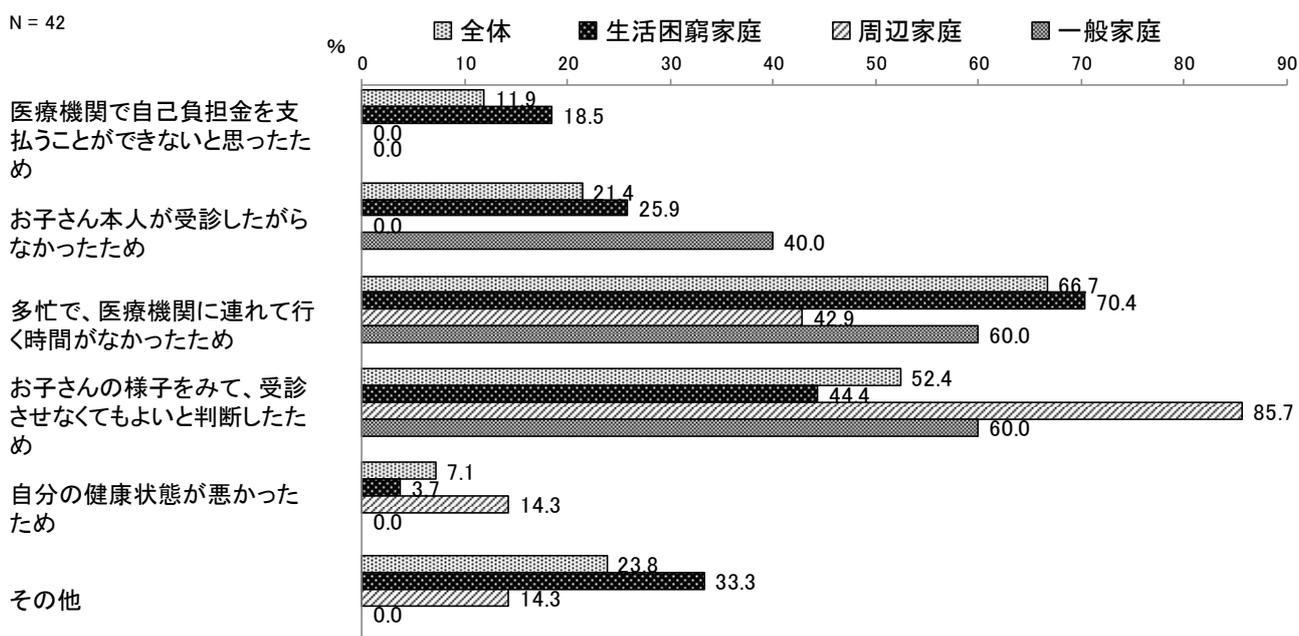
①病気の際の受診【生活の支援】

『医療機関を受診させなかった理由』を全体調査と比較すると、生活困窮家庭で「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」の割合が特に高くなっている(図表 2-30)。

図表 2-29 医療機関を受診させなかったことの有無(保護者 問 15)

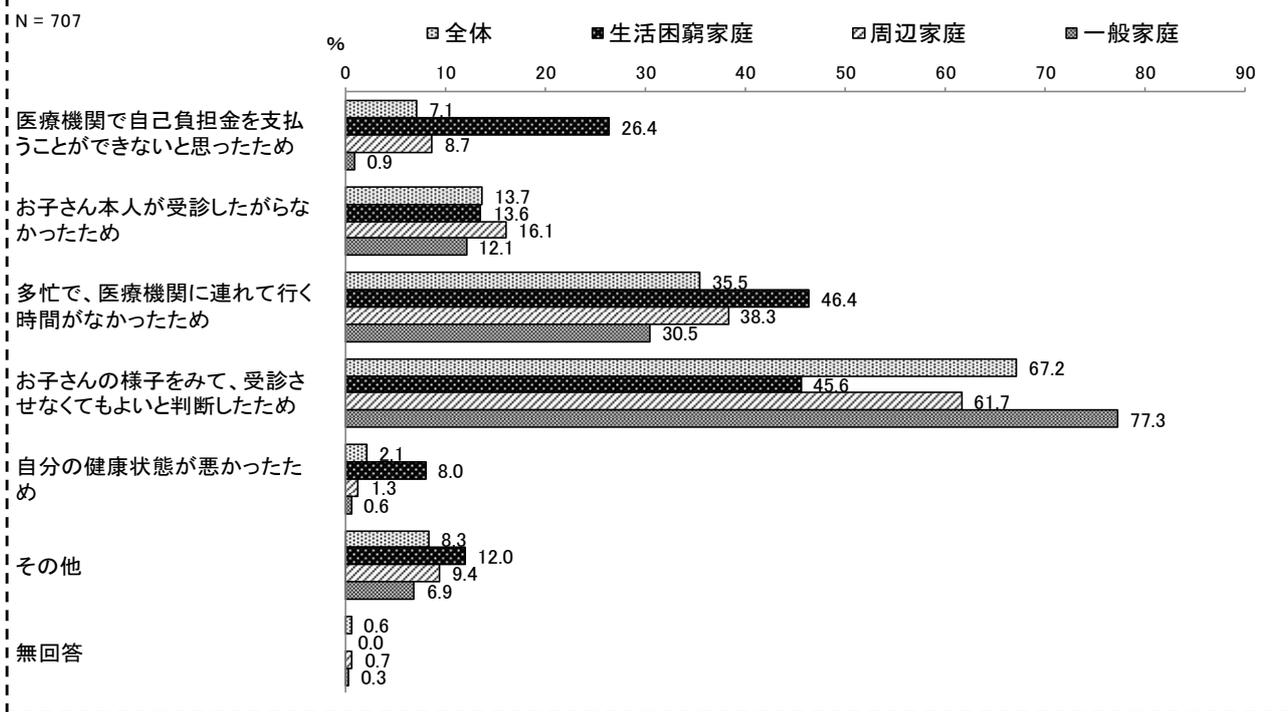


図表 2-30 受診させなかった理由(保護者 問 15-1)

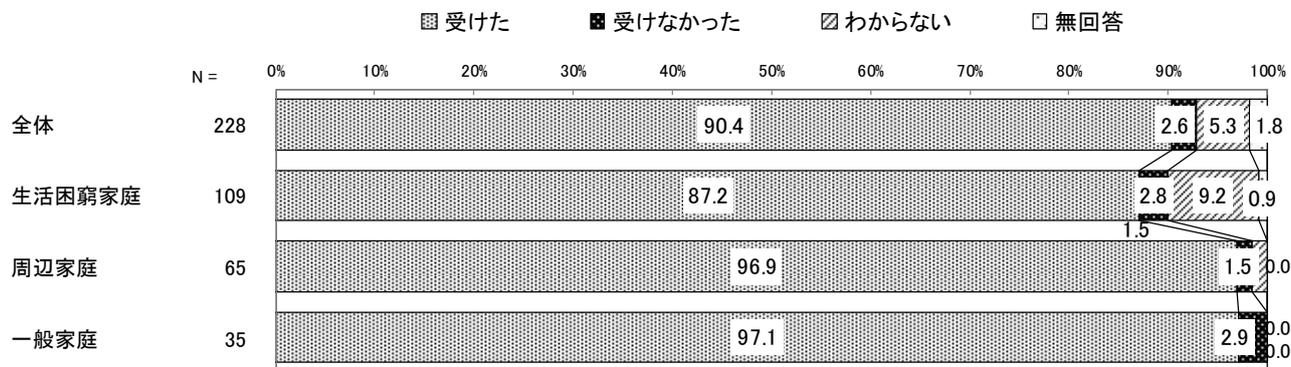


参考(全体調査)

図表 2-32 受診させなかった理由(保護者 問 15-1)

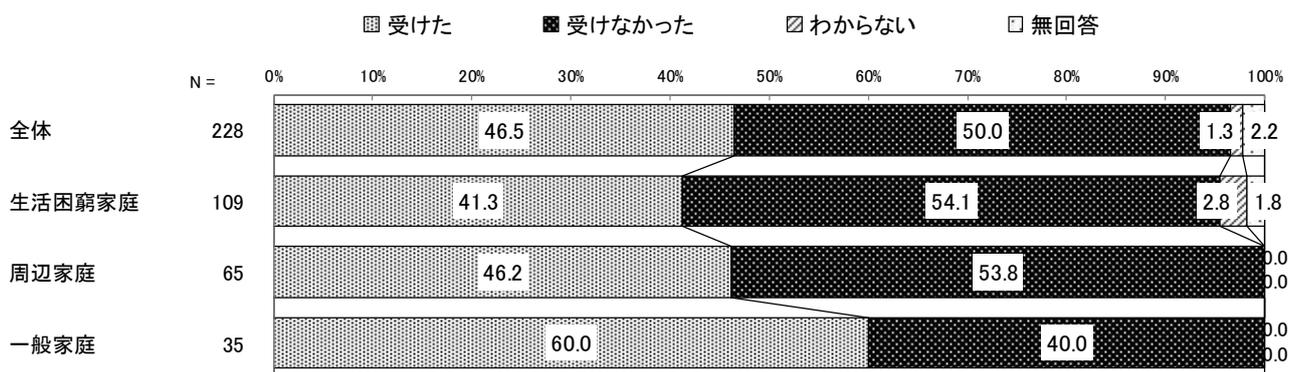


図表 2-31 予防接種(定期予防接種※)の接種状況(保護者 問 16)

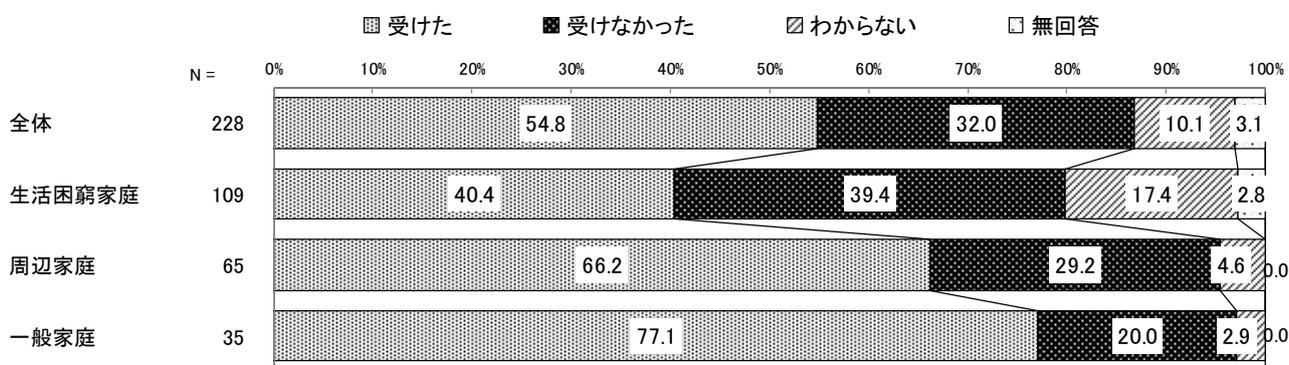


※定期予防接種: 法律によって公費負担で行われ、ワクチンの種類、対象者、期間などが定められている(四種混合、BCG、麻しん・風しんなど)。

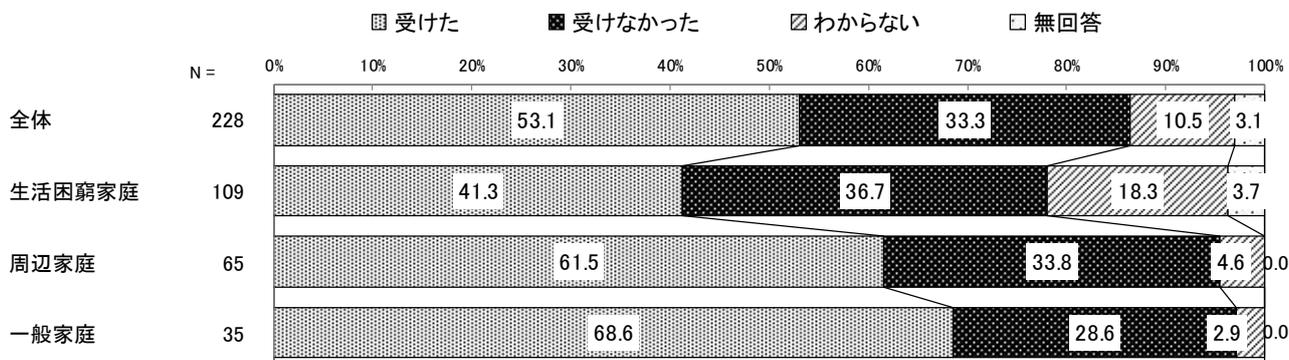
図表 2-32 予防接種(任意接種*)の接種状況(保護者 問 16)
任意接種(インフルエンザ)



任意接種(おたふくかぜ)



任意接種(みずぼうそう)

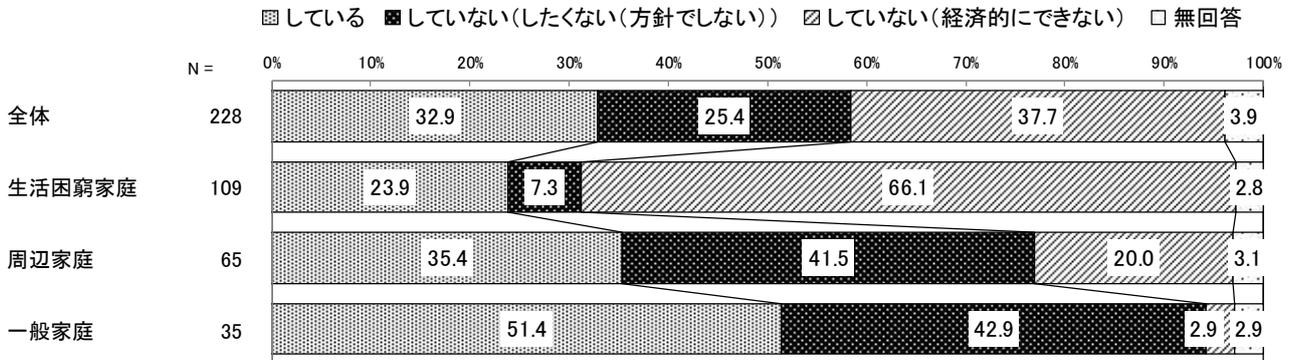


*任意接種: 法律によらず、自己負担で個人の希望で行うワクチン(インフルエンザ、おたふくかぜ、水ぼうそうなど)。

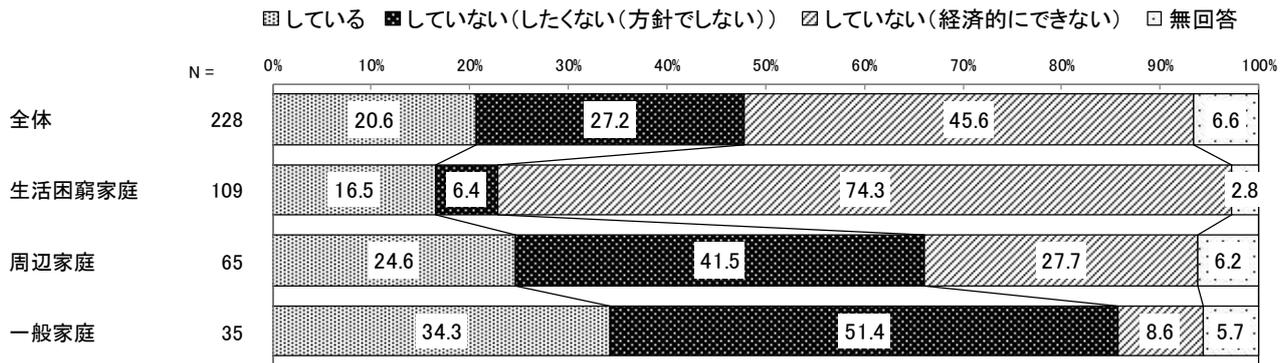
②習い事・家庭でしていること【学習の支援・生活の支援】

各項目いずれも、生活困窮家庭では「していない(経済的にできない)」が一般家庭、周辺家庭と比べると非常に高くなっている(図表 2-33~37)。

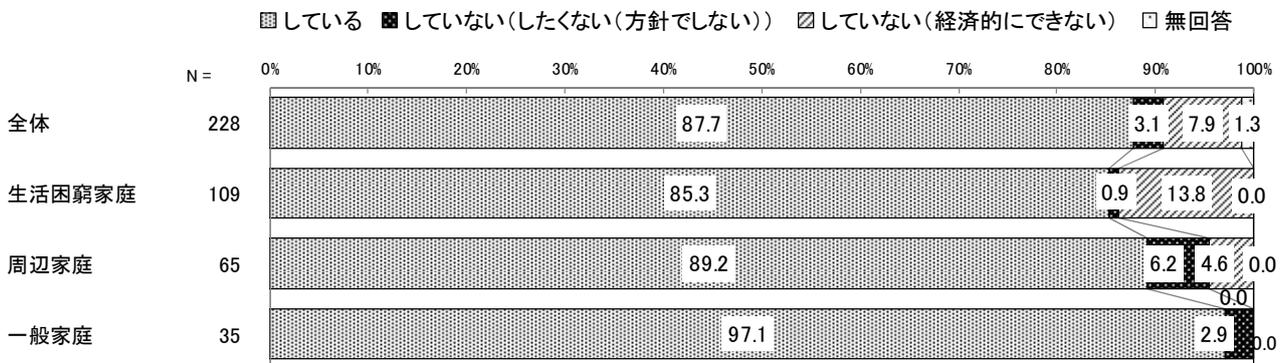
図表 2-33 習い事(音楽・スポーツ・習字等)に通わせる(保護者 問 34)



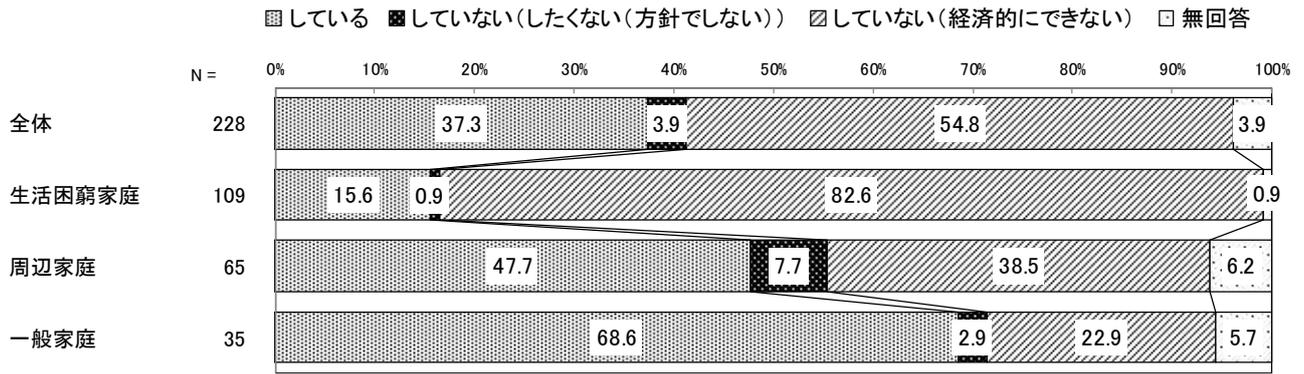
図表 2-34 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)(保護者 問 34)



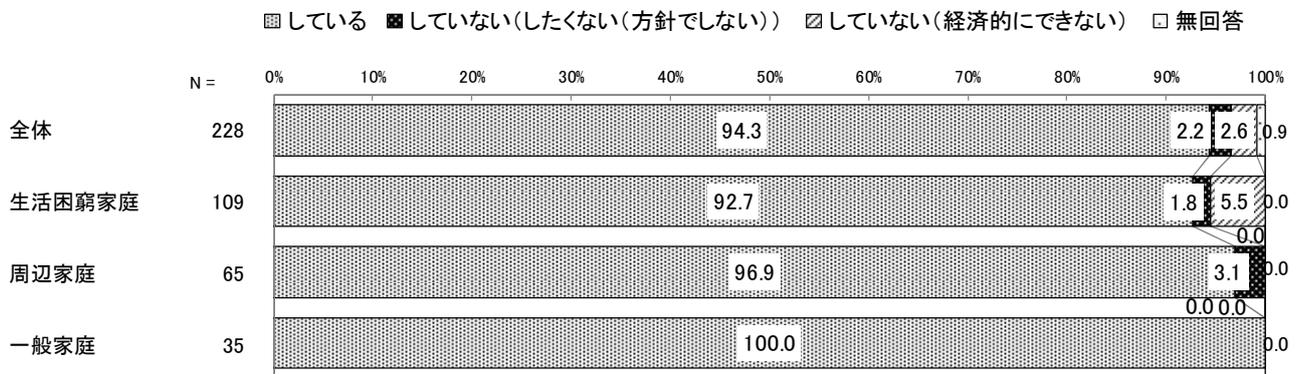
図表 2-35 クリスマスプレゼントやお年玉をあげる(保護者 問 34)



図表 2-36 1年に1回くらい家族旅行に行く(保護者 問 34)



図表 2-37 お誕生日のお祝いをする(保護者 問 34)

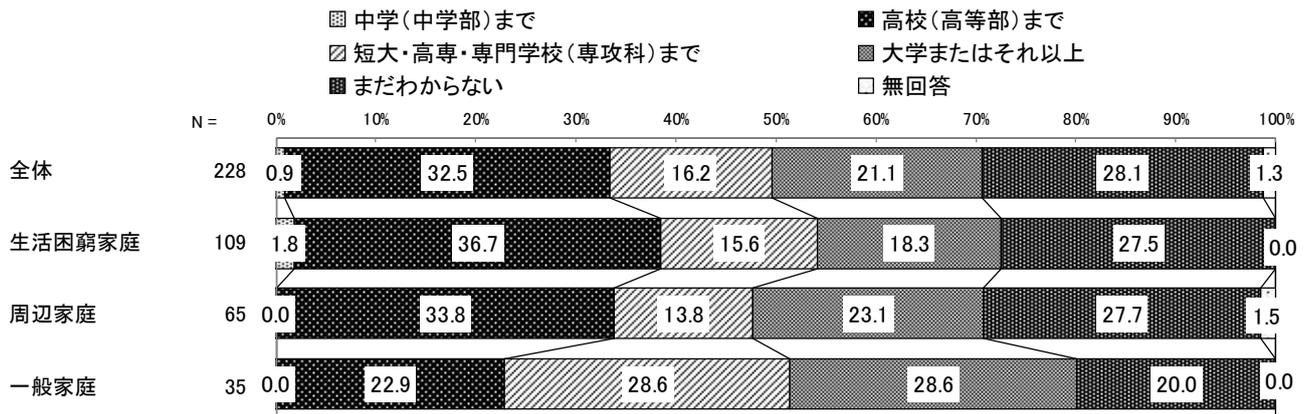


③受けさせたい教育段階【学習の支援】

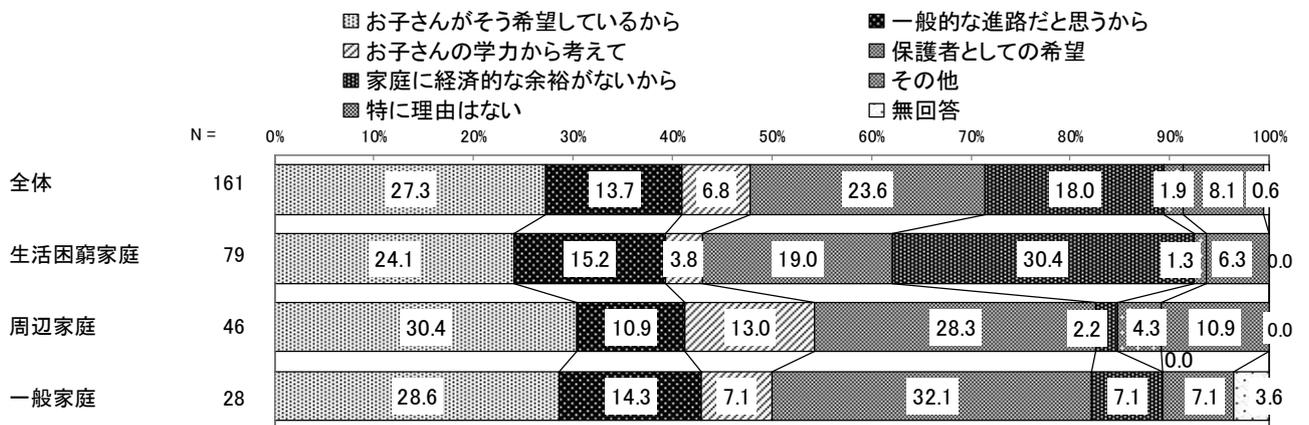
受けさせたい教育段階は、生活困難度が上がるにつれて「高校(高等部まで)」が高くなっている(図表 2-38)。

その理由として、「家庭に経済的な余裕がないから」が生活困窮家庭では、一般家庭と比べると高くなっており、経済的な理由から保護者の考える子どもの教育段階の選択肢が限定される傾向がみられる(図表 2-39)。

図表 2-38 受けさせたい教育段階(保護者 問 13)



図表 2-39 図表 2-38 の回答理由(保護者 問 13-1)

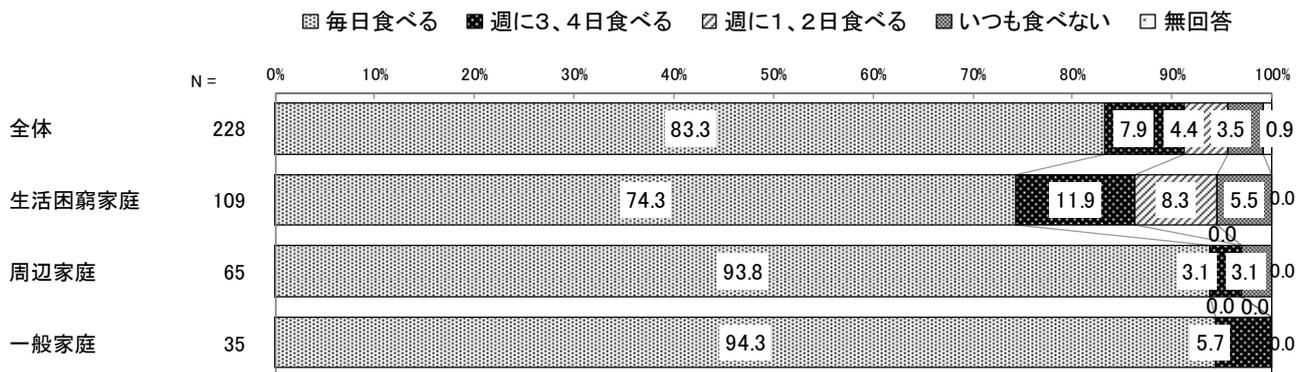


④生活習慣・日常生活【生活の支援】

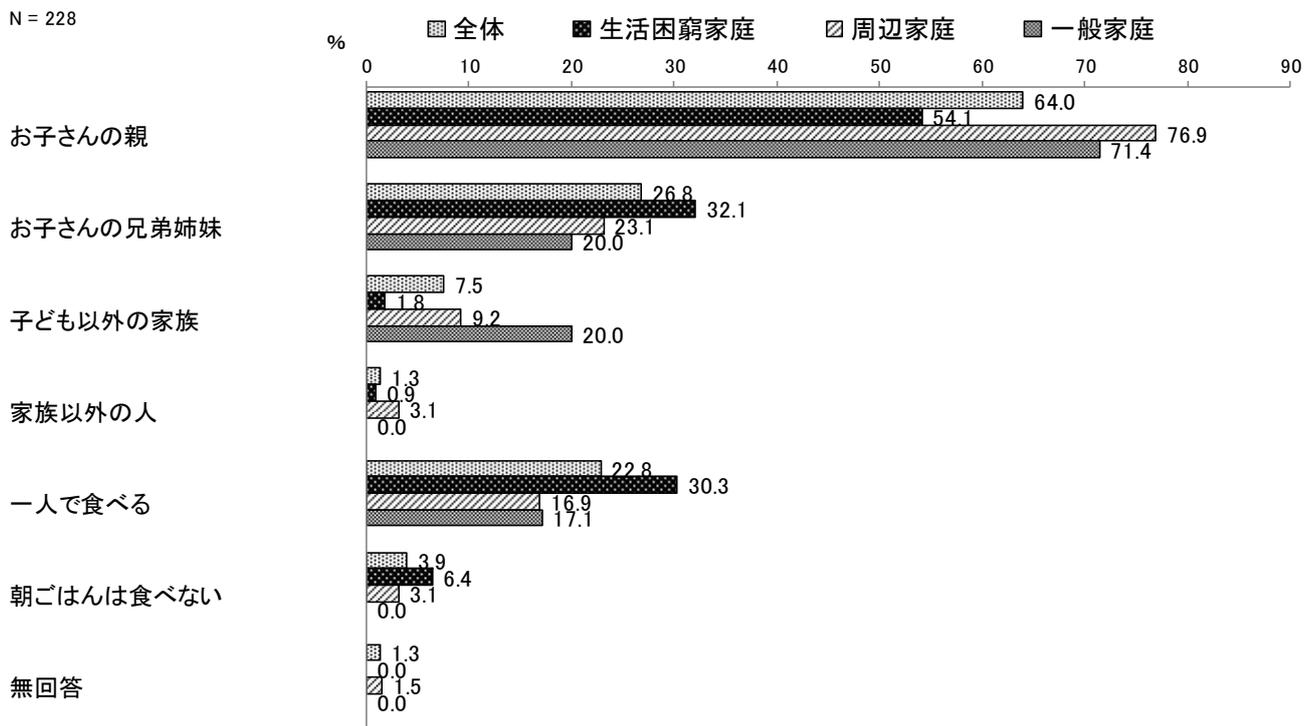
支援利用者調査においても、生活困窮家庭は、一般家庭と比べると欠食・孤食の傾向が強くなっている(図表 2-40・41)。

また、子どもとの関わりをみてみると、全体調査と比べると支援利用者調査では、生活困窮家庭だけでなく、全体的に「あまりしない」の割合が高くなっている(図表 2-42・43)。

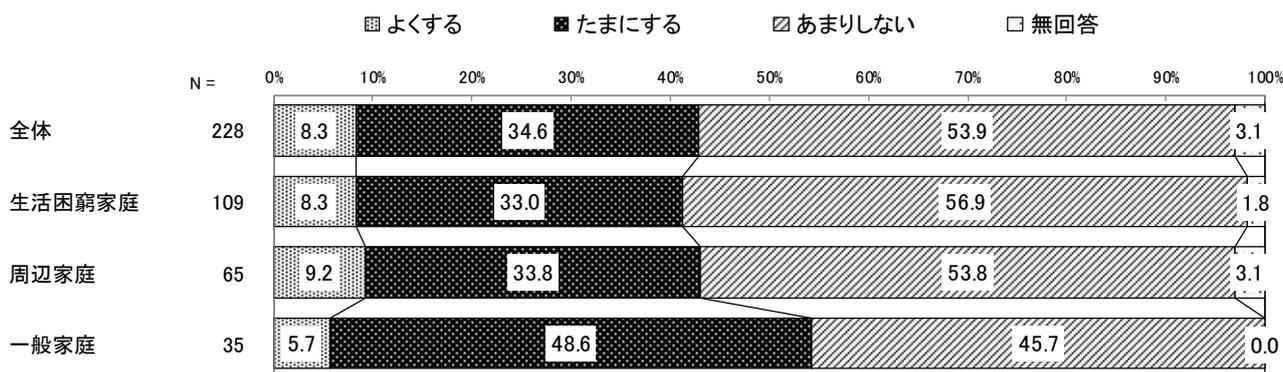
図表 2-40 平日の朝食の摂取頻度(保護者 問 22)



図表 2-41 平日に朝食を一緒に食べる人(保護者 問 23)

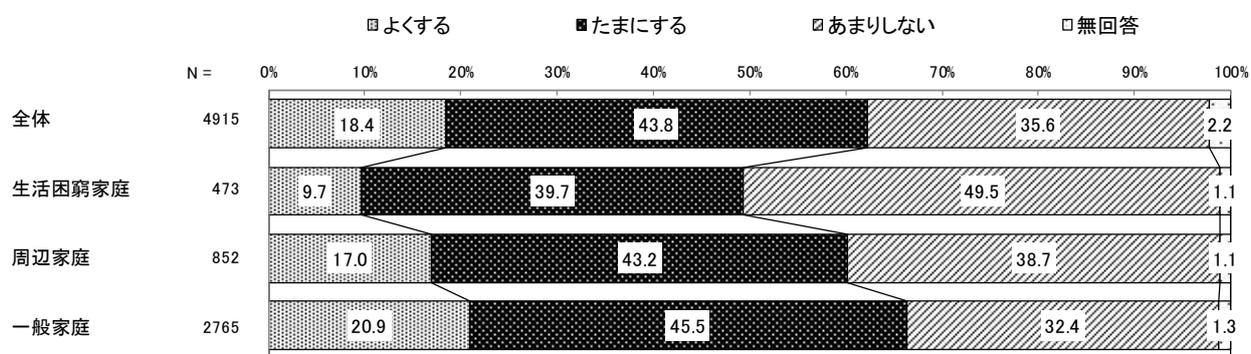


図表 2-42 お子さんと体を動かして遊ぶ(保護者 問 24)

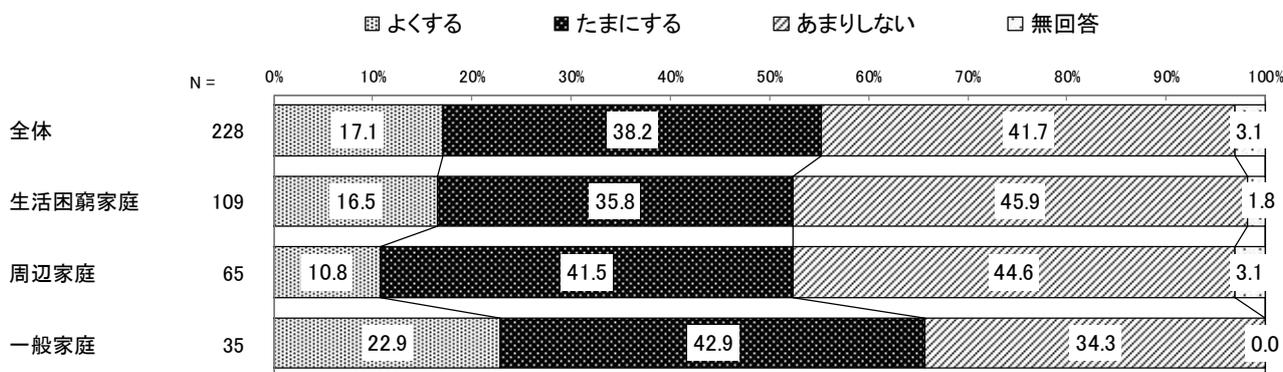


参考(全体調査)

図表 2-45 お子さんと体を動かして遊ぶ(保護者 問 24)

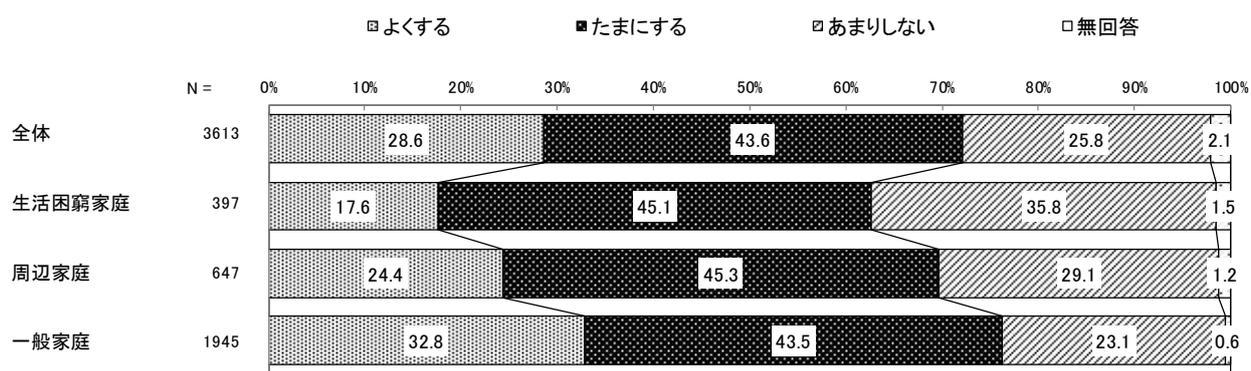


図表 2-43 お子さんの勉強をみる(保護者 問 24)



参考(全体調査)

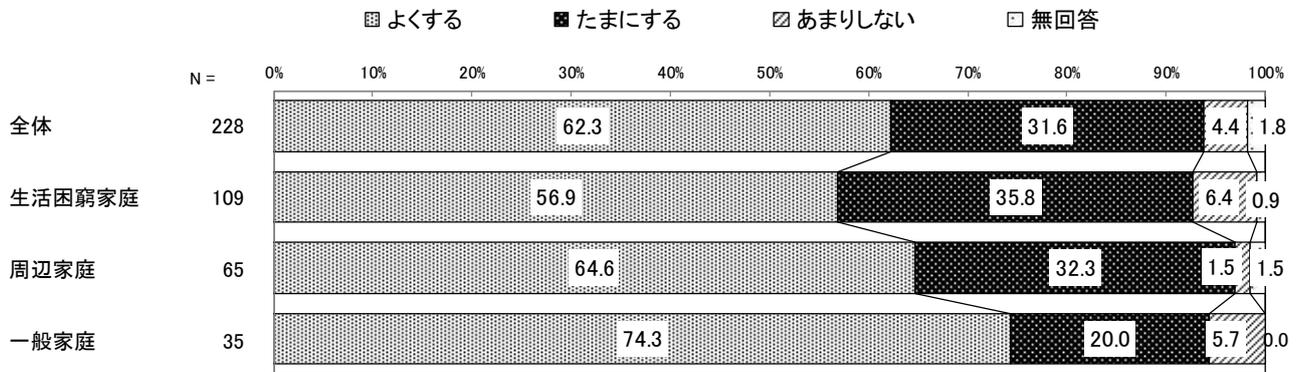
図表 2-46 お子さんの勉強をみる(保護者 問 24)



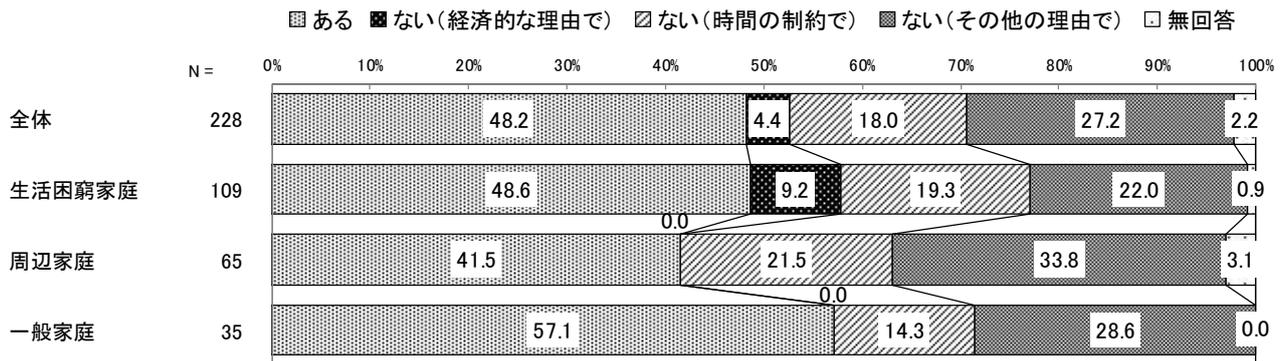
⑤体験活動・娯楽【生活の支援】

各種体験については、各項目で生活困窮家庭は機会が少ない傾向となっており、「ない(経済的な理由で)」という回答が多くみられる(図表 2-44~49)。

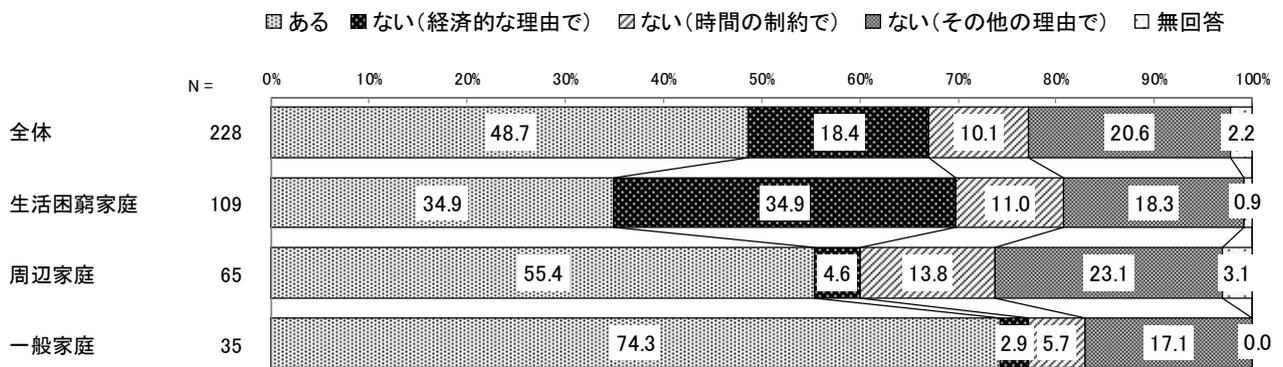
図表 2-44 お子さんと一緒に外出をする(保護者 問 24)



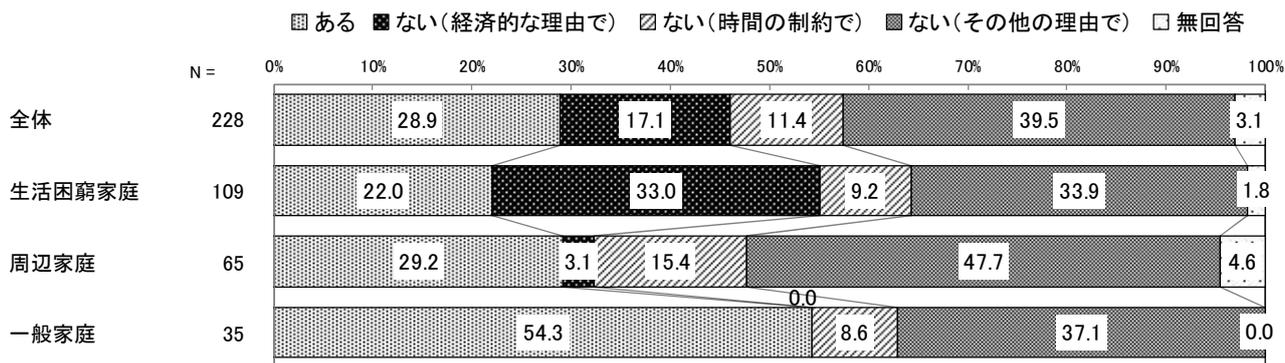
図表 2-45 海水浴・プールに行く(保護者 問 26)



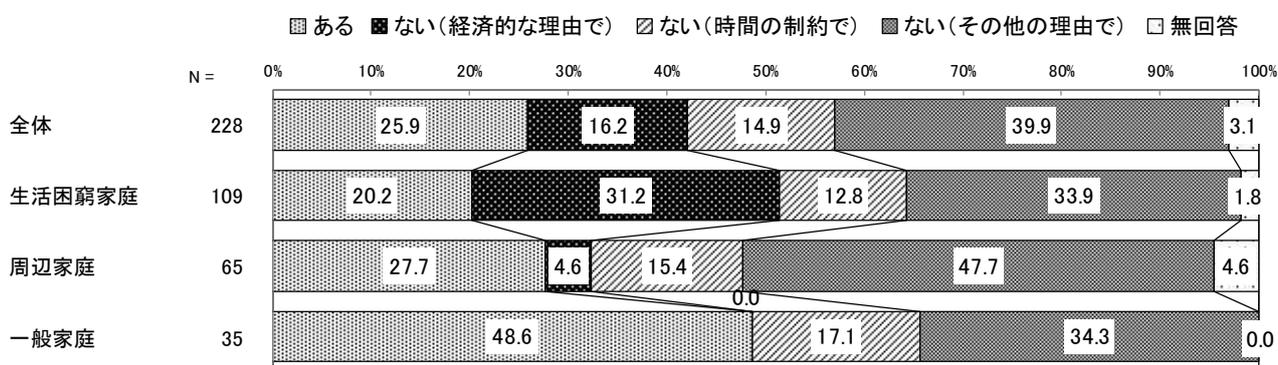
図表 2-46 動物園・遊園地やテーマパークに行く(保護者 問 26)



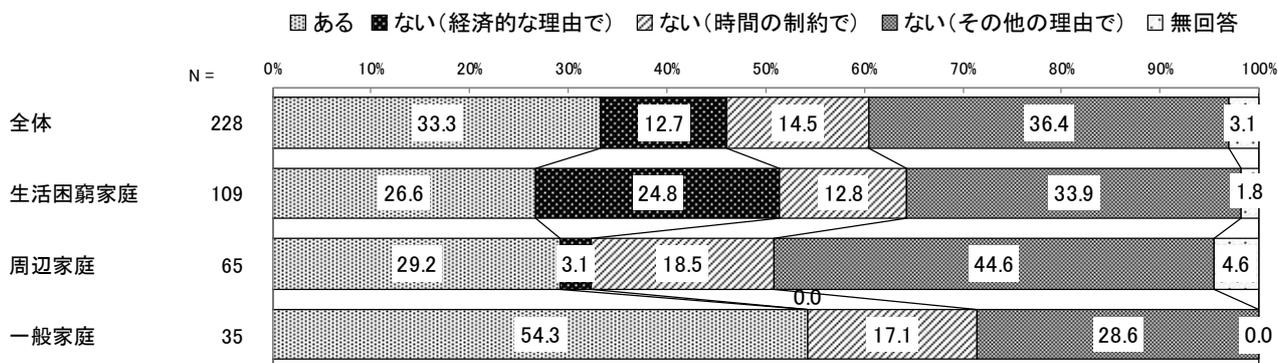
図表 2-47 スポーツ観戦や劇場に行く(保護者 問 26)



図表 2-48 キャンプやバーベキューに行く(保護者 問 26)



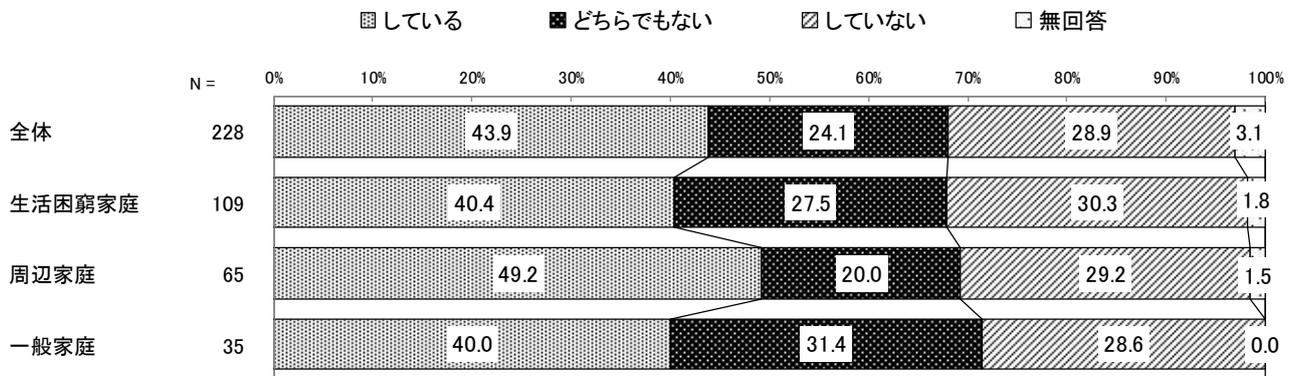
図表 2-49 博物館・科学館・美術館などに行く(保護者 問 26)



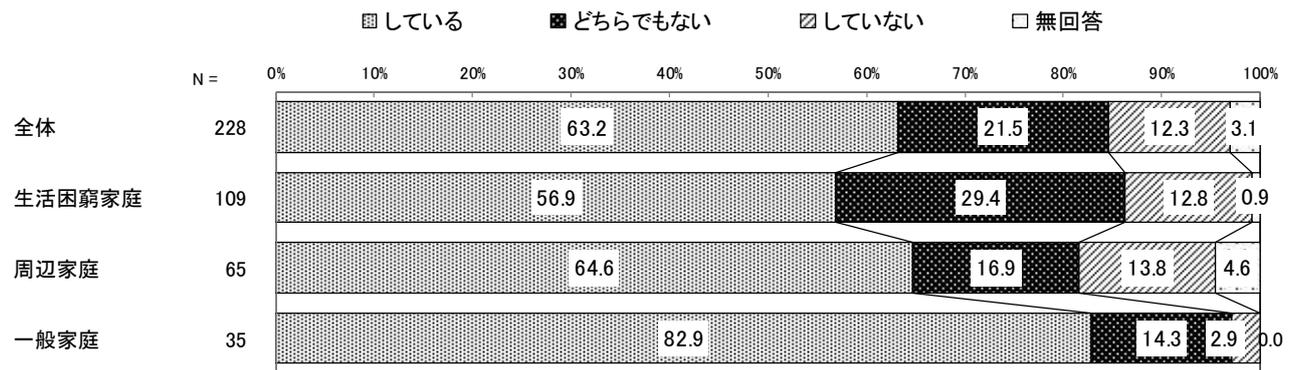
⑥家庭内での教育・働きかけ【学習の支援】

家庭内で行っていることでは、一般家庭と比べると、生活困窮家庭では各項目で「していない」割合が高くなっている。(図表 2-50~53)。

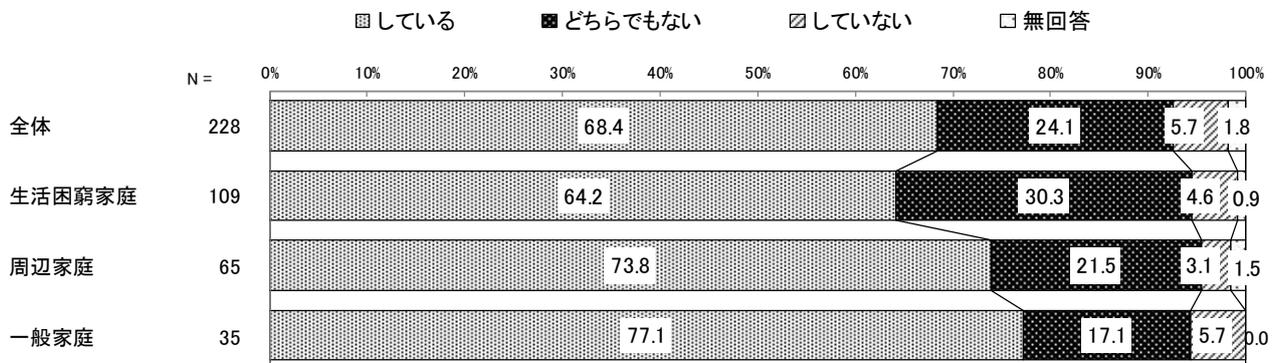
図表 2-50 計画的に勉強するよう、促している(保護者 問 27)



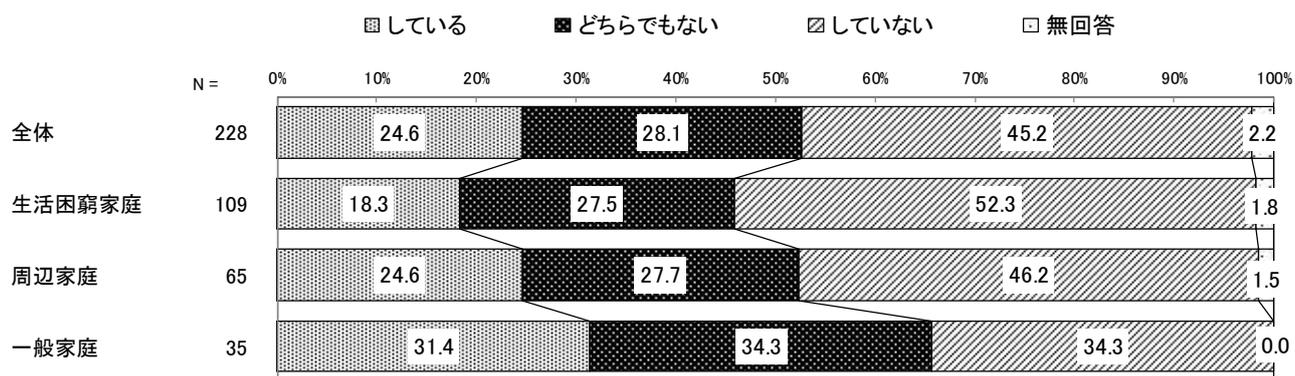
図表 2-51 小さい頃、絵本の読み聞かせをしていた(している)(保護者 問 27)



図表 2-52 褒めるなどして自信を持たせるようにしている(保護者 問 27)



図表 2-53 英語や外国の文化に触れるよう意識している(保護者 問 27)



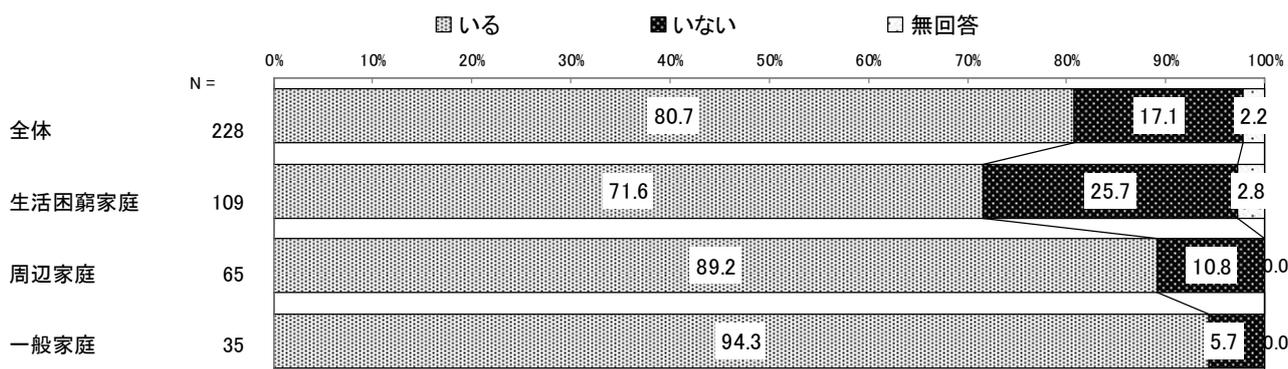
(4) 保護者や子どもに対する支援に関すること

①保護者の不安・相談【生活の支援】

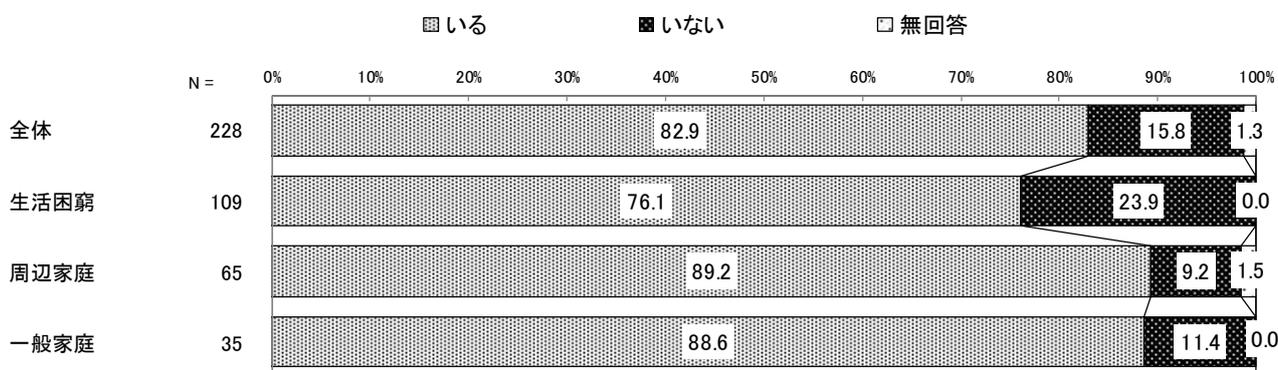
『頼れる親族・友人の有無』と『困ったときや悩み事を相談できる相手の有無』については、一般家庭と比べると、生活困窮家庭ではどちらも「いない」が高くなっている。(図表 2-54・55)。

相談相手は、「家族」、「友人」の回答が多く、『これまで相談したことがある公的機関』は、「市の窓口」、「学校・保育所・幼稚園の先生」の割合が高くなっている。(図表 2-56・57)

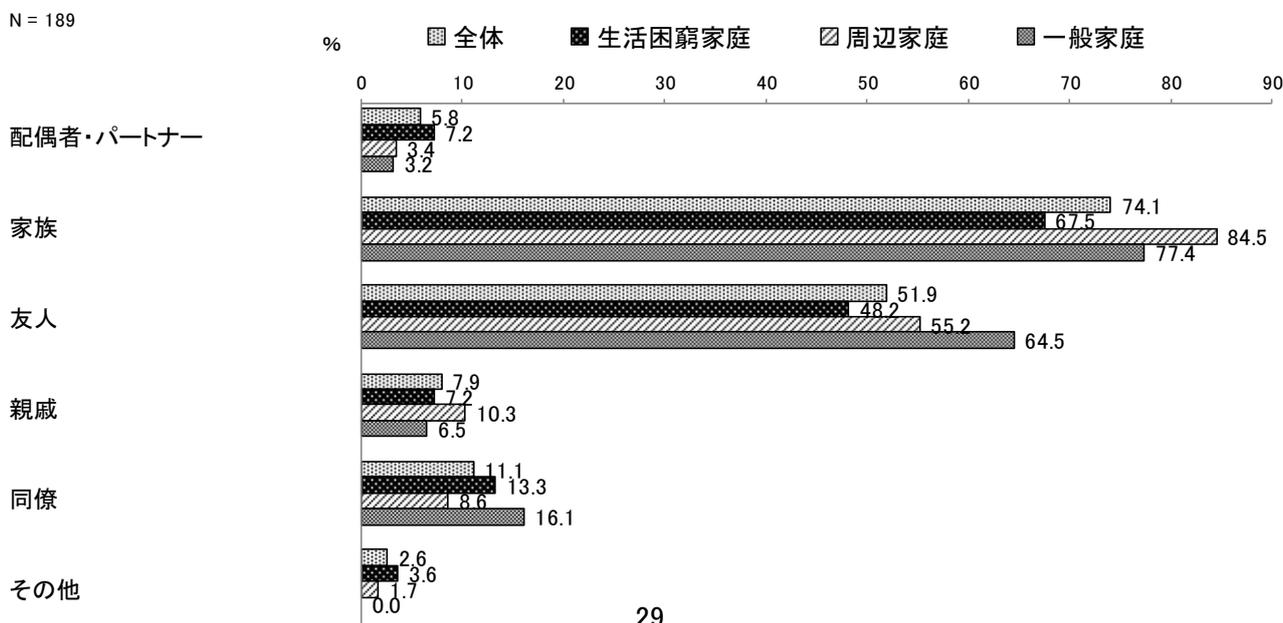
図表 2-54 頼れる親族・友人の有無(保護者 問8)



図表 2-55 困ったときや悩み事を相談できる相手の有無(保護者 問47)

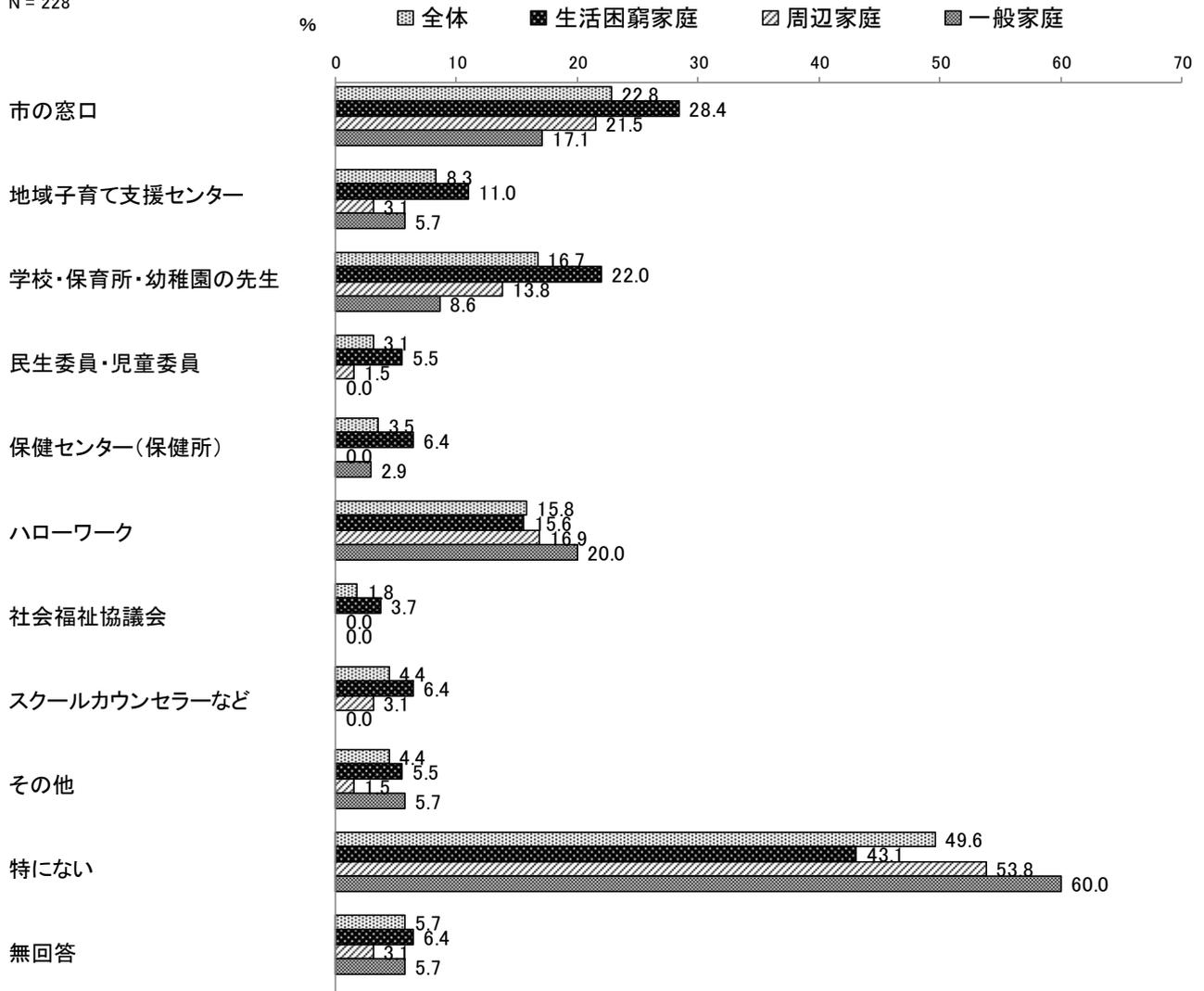


図表 2-56 相談できる相手は誰か(保護者 問47-1)



図表 2-57 これまで相談したことがある公的機関(保護者 問 48)

N = 228



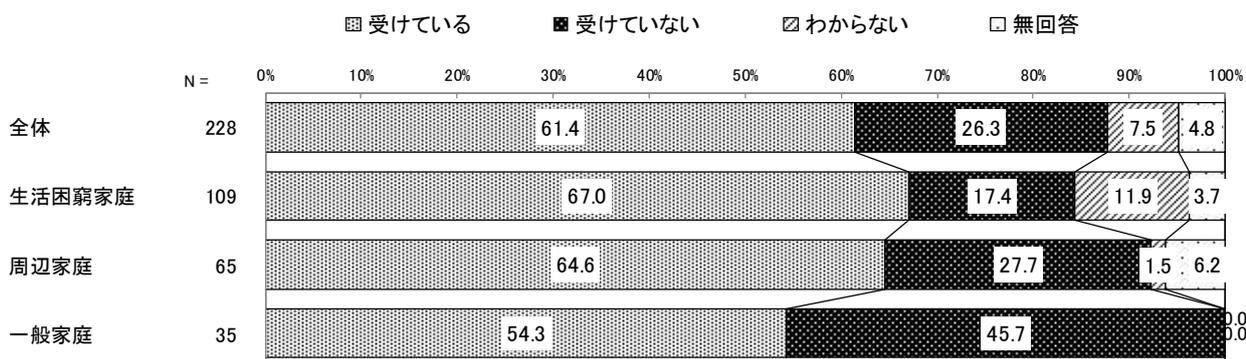
②子育て支援サービス等【学習の支援・生活の支援・経済的支援】

就園奨励※・就学援助支給※は、全体調査と比べて支援利用者調査では、全体的に「受けている」割合が高くなっている(図表 2-58)。

『今後利用したいサービス』は、全体調査と比べて概ね同様の傾向にあるが、「こども食堂」や「フードバンクによる食料支援」、「学校以外が実施する学習支援」の割合が高くなっており、食事や学習に対するニーズが高くなっていることが伺える(図表 2-59)。

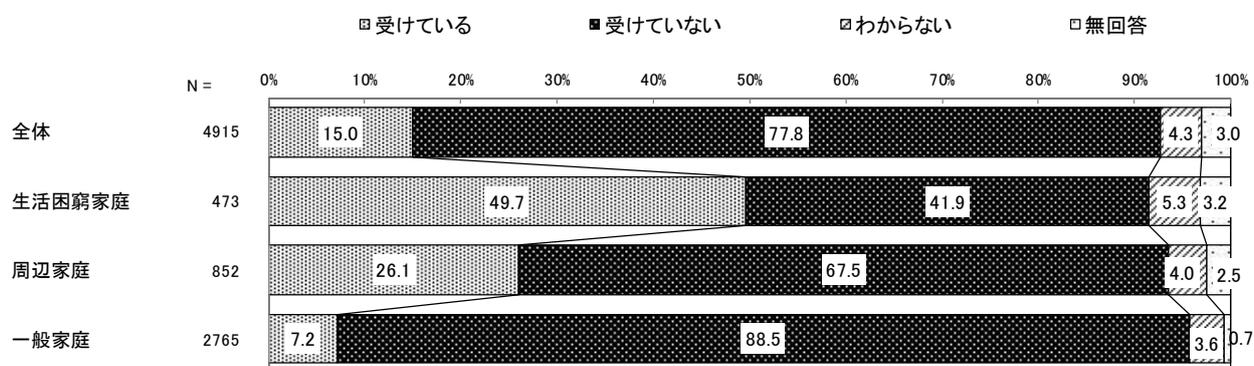
また、支援利用者が『今後充実を希望する子育て支援サービス』は、就学にかかる費用や無料の学習塾、住宅確保の支援が高くなっている(図表 2-60)。

図表 2-58 就園奨励・就学援助支給の有無(保護者 問 19)



参考(全体調査)

図表 2-63 就園奨励・就学援助支給の有無(保護者 問 19)

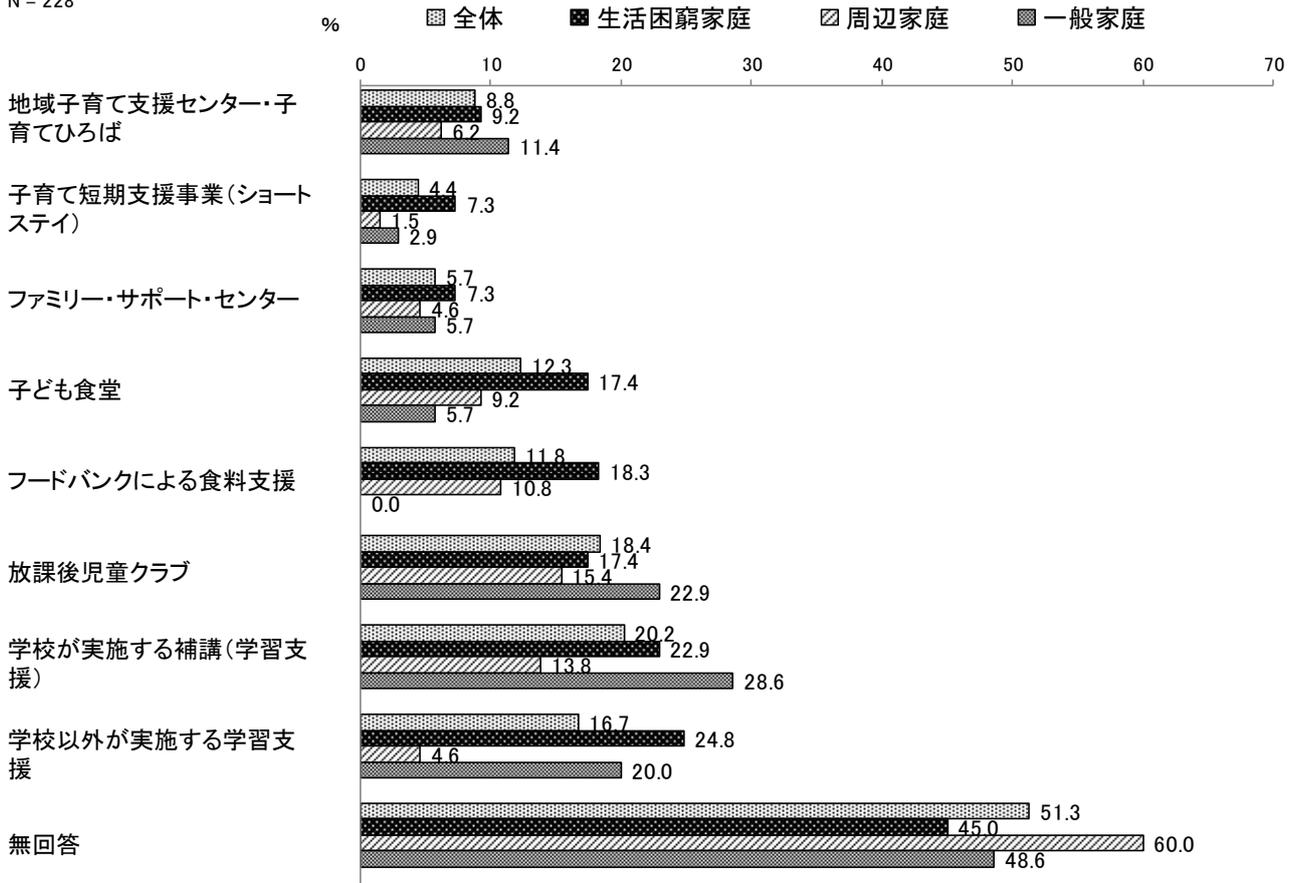


※就園奨励:私立幼稚園就園奨励費補助金(制度)。私立幼稚園に就園する園児(子ども)の保護者に補助金を交付する(制度)。

※就学援助支給:就学奨励金(制度)。児童(子ども)の就学が困難な事情のある保護者に必要な費用を援助する(制度)。

図表 2-59 今後利用したいサービス(保護者全体)(保護者 問 45)

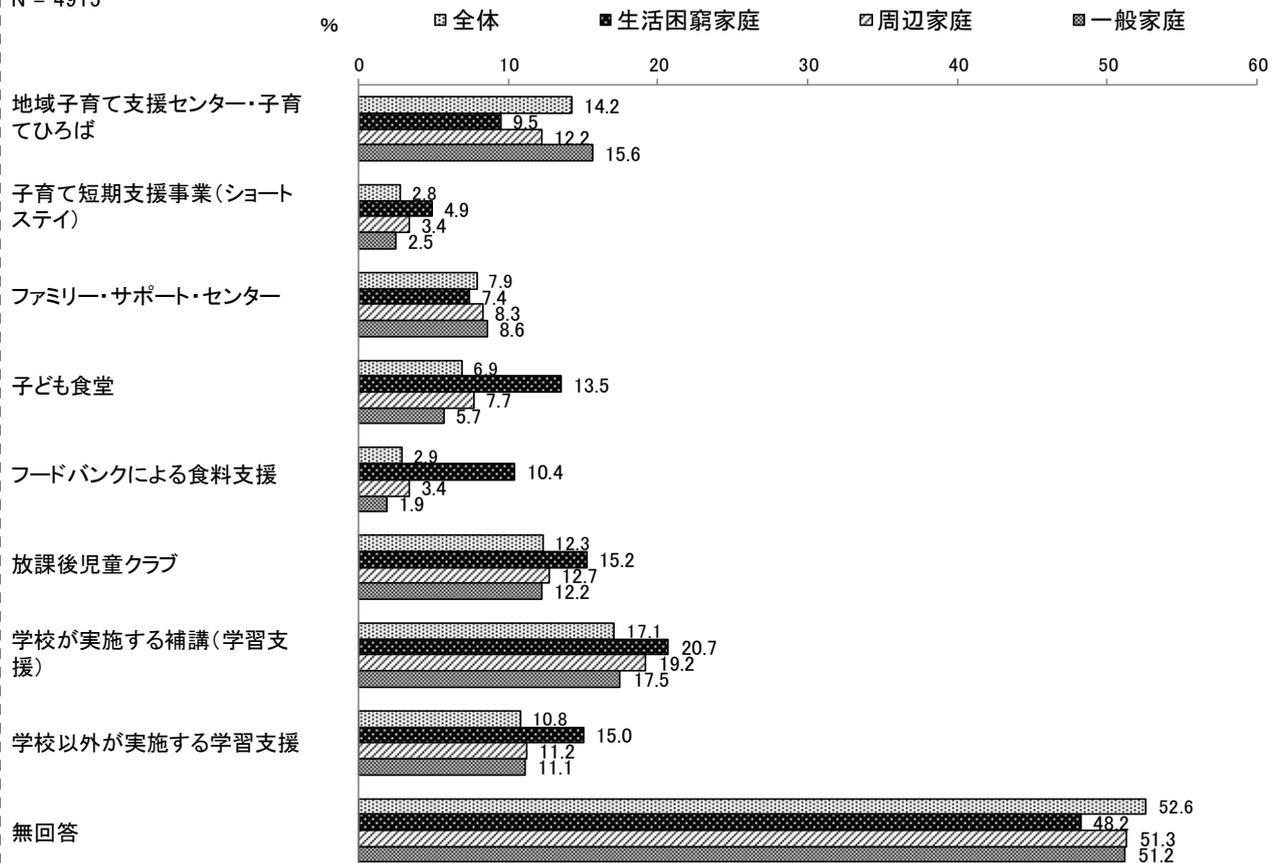
N = 228



参考(全体調査)

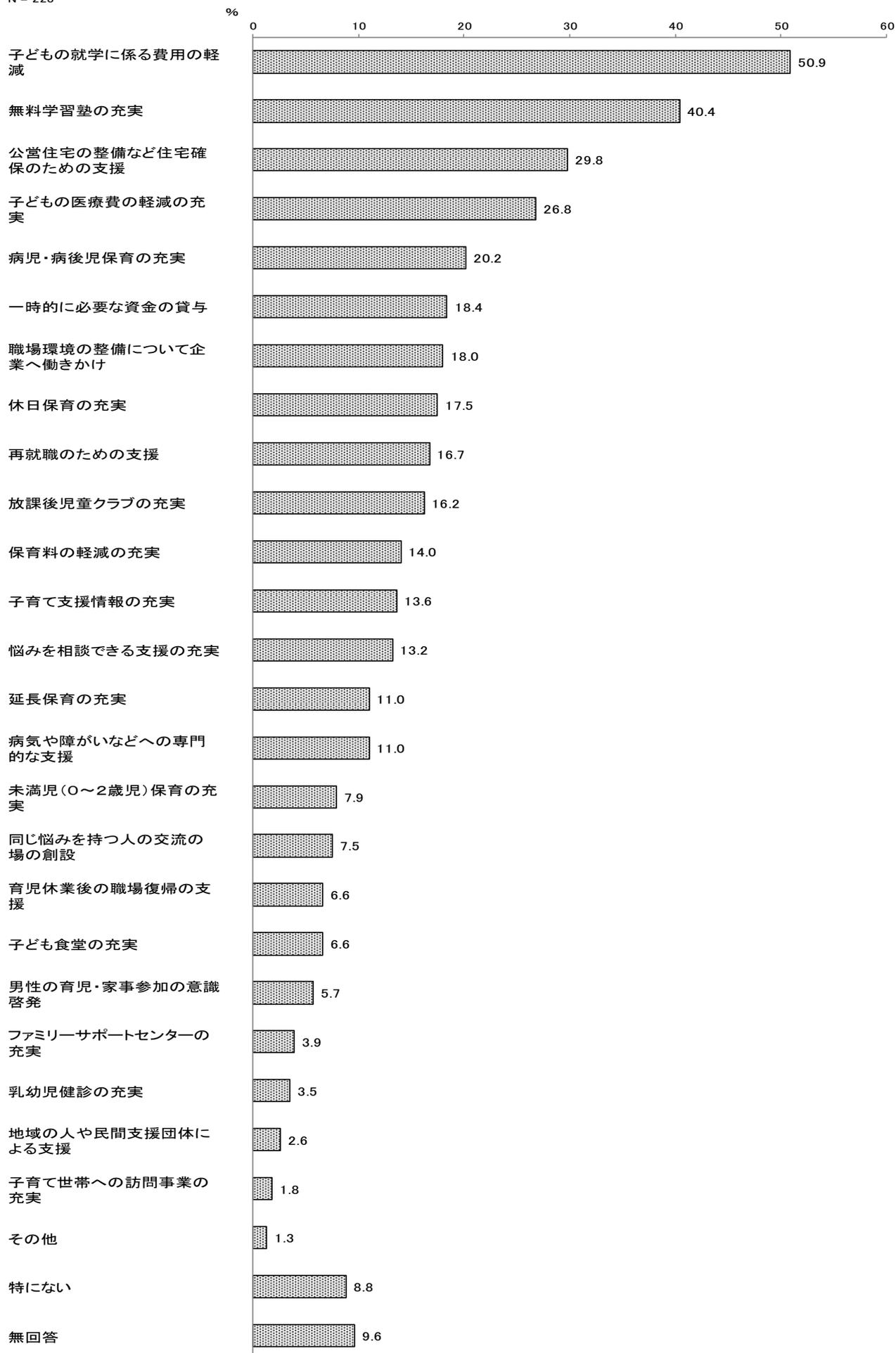
図表 2-61 今後利用したいサービス(保護者全体)(保護者 問 44)

N = 4915



図表 2-60 今後充実を希望するサービス(保護者 問 49)

N = 228



3. 子ども本人の状況（子ども調査から）

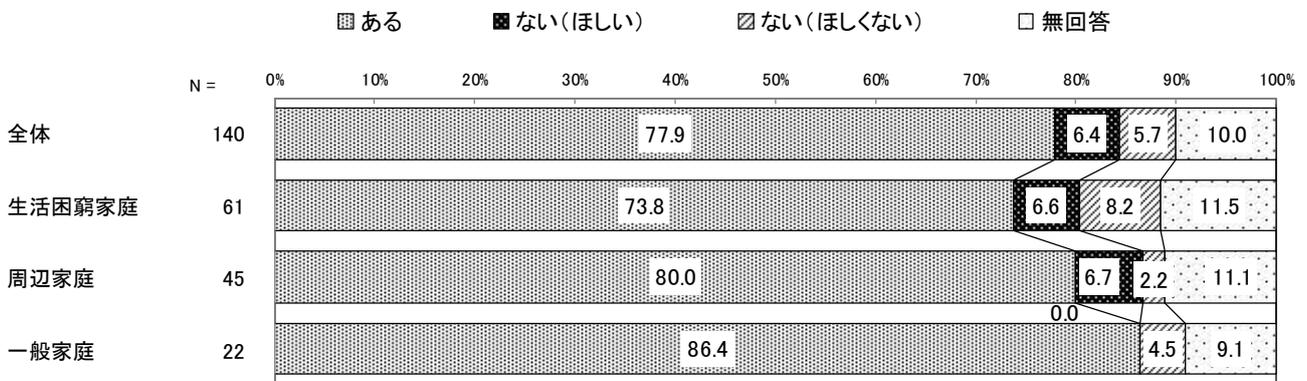
(1) 持ち物・所有物に関すること

①持ち物・所有物【生活の支援】

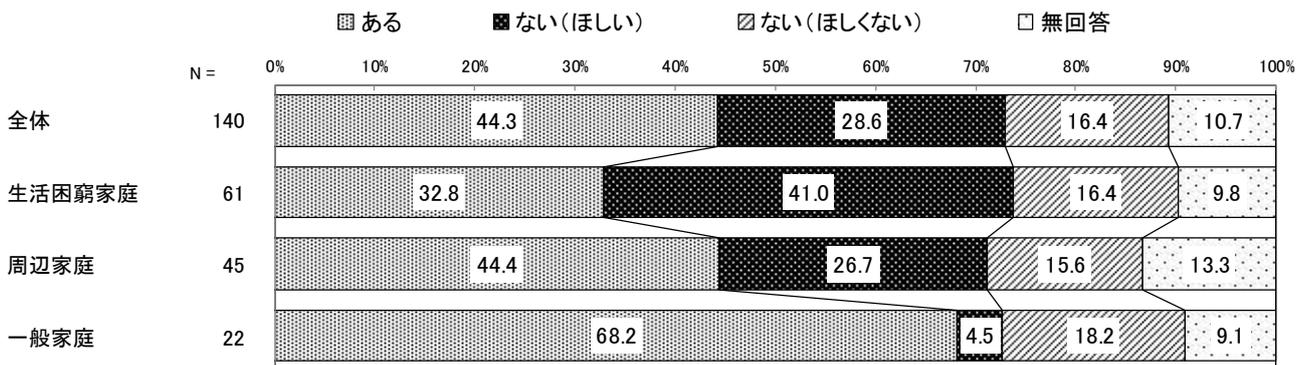
子どもの持ち物・所有物として、『自分が使うことができるもの』の回答をみると、各項目において生活困窮家庭で「ある」の割合が一般家庭より低い傾向がみられる。（図表 3-1～10）。

これらの物質的剥奪指標^{*}の項目の所有状況で、わが国の子どもの所有率が低い項目は、『インターネットにつながるパソコン』、『宿題のできる部屋』の順といわれている。本市の調査結果においても『インターネットにつながるパソコン』の所有率は低く、全体調査と比べると支援利用者調査では、「ない(ほしい)」がより高くなっている。

図表 3-1 自分が使うことのできるもの 自分だけの本(子ども 問3)



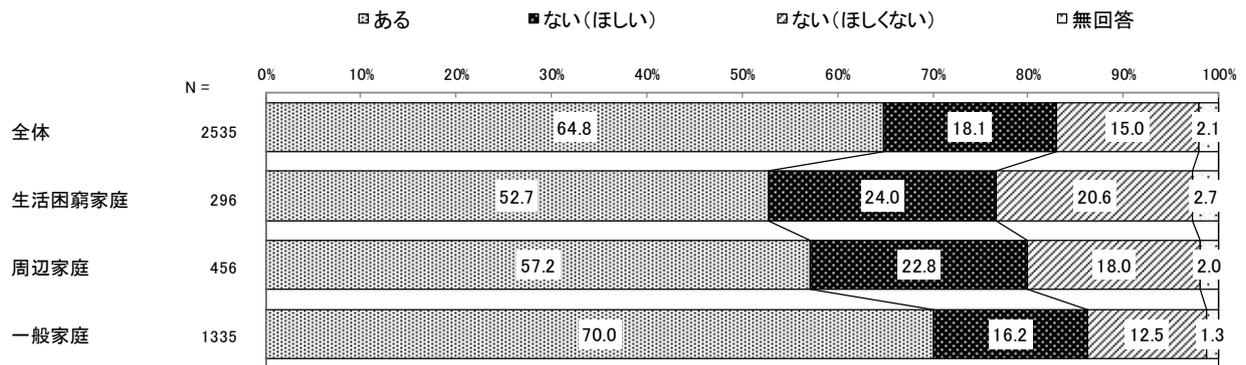
図表 3-2 自分が使うことのできるもの インターネットにつながるパソコン(子ども 問3)



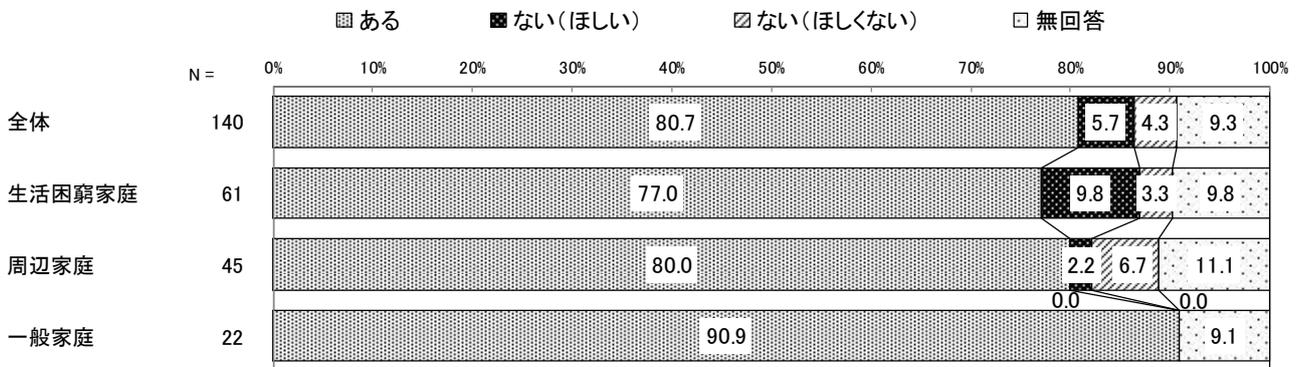
^{*}物質的剥奪指標:ユニセフの子どもの剥奪率の算出では8品目の欠如状況から算出しており、OECD等の国際機関に公的な貧困指標として用いられている。①子どもの年齢等にあった本、②屋外レジャー用品、③屋内ゲーム、④修学旅行や学校行事の参加費、⑤宿題をするために十分な広さと照明のある静かな場所、⑥インターネットへの接続、⑦新品の洋服、⑧誕生日などのお祝い

参考(全体調査)

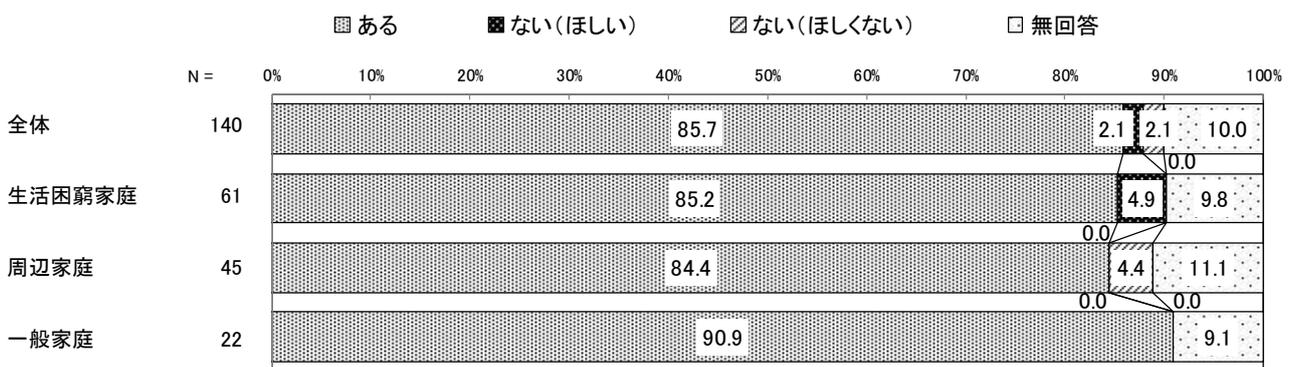
図表 3-2 自分が使うことのできるもの インターネットにつながるパソコン(子ども 問 3)



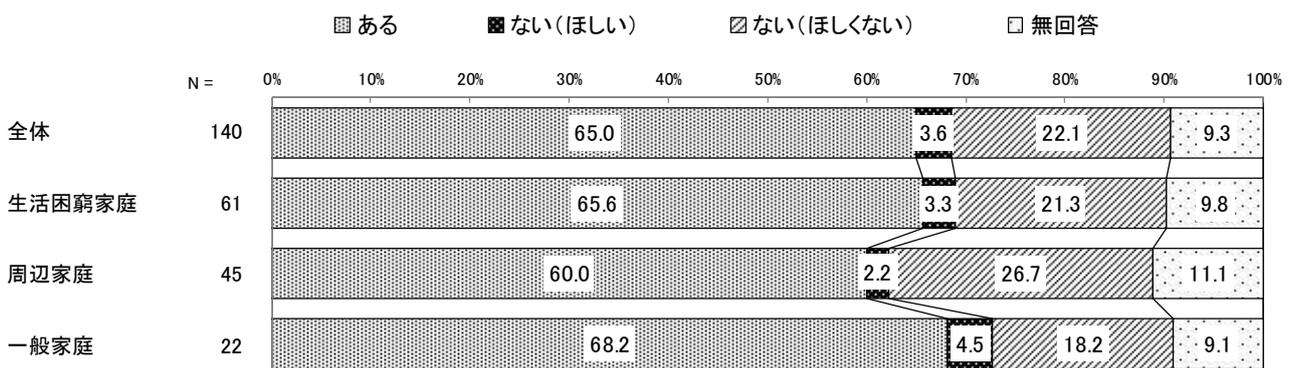
図表 3-3 自分が使うことのできるもの 自分専用の勉強机(子ども 問 3)



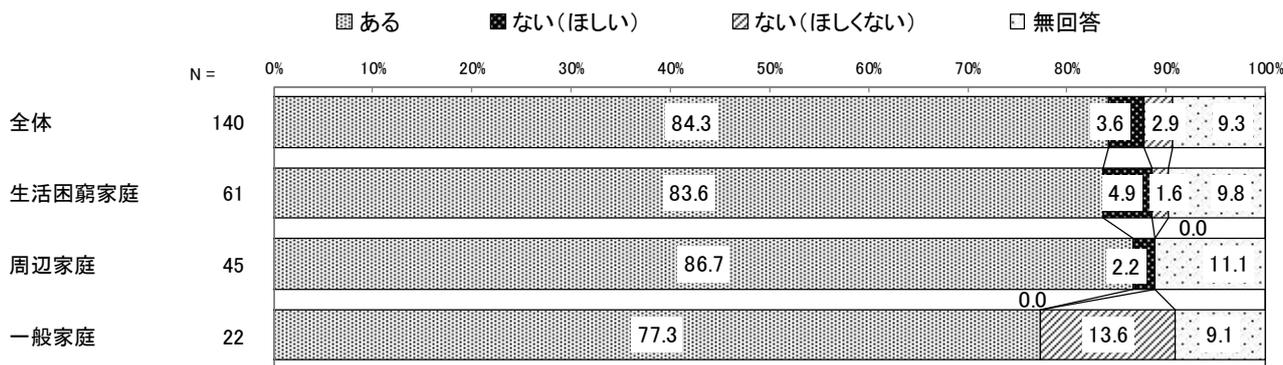
図表 3-4 自分が使うことのできるもの 自宅で宿題をすることのできる場所(子ども 問 3)



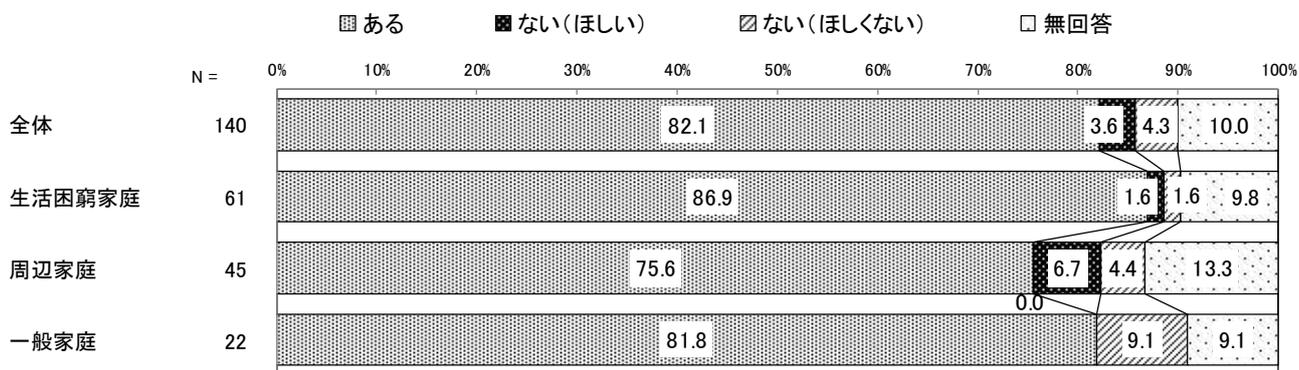
図表 3-5 自分が使うことのできるもの スポーツ用品(子ども 問 3)



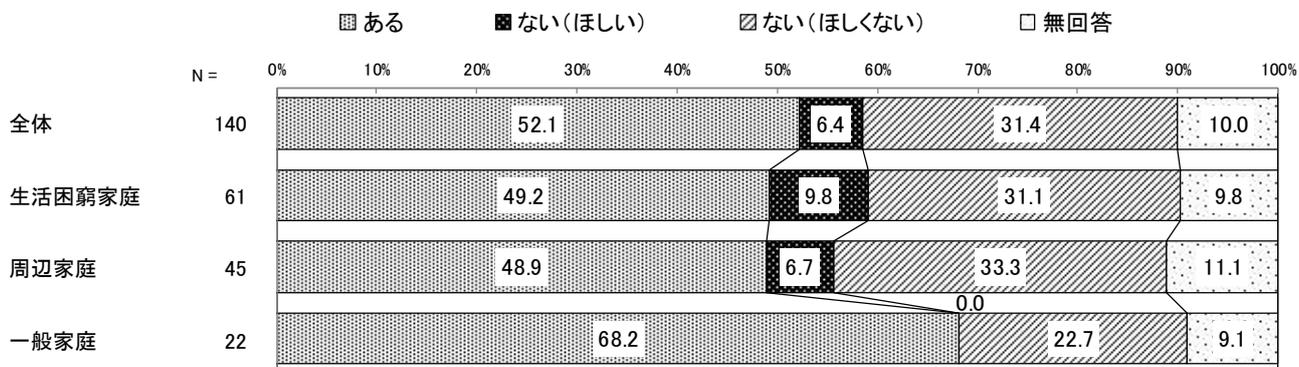
図表 3-6 自分が使うことのできるもの 自転車(子ども 問3)



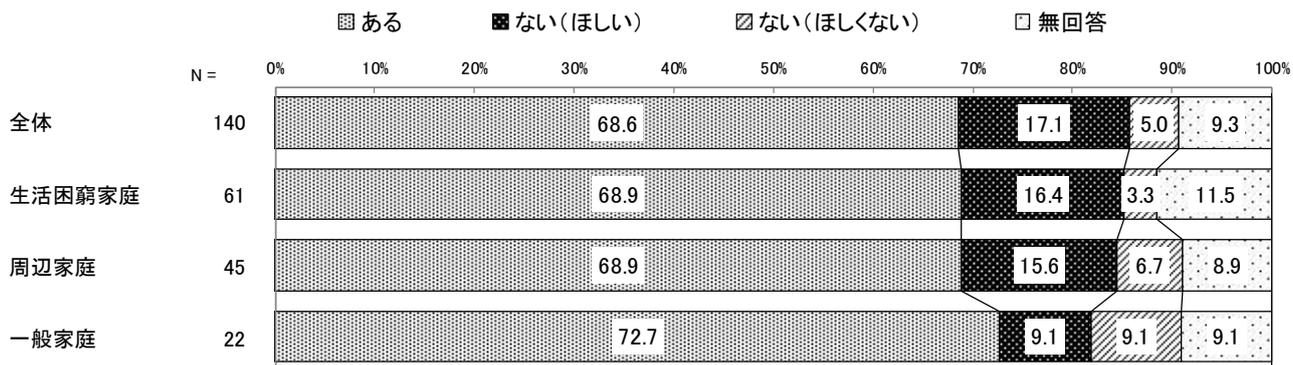
図表 3-7 自分が使うことのできるもの 2足以上のサイズの合う靴(子ども 問3)



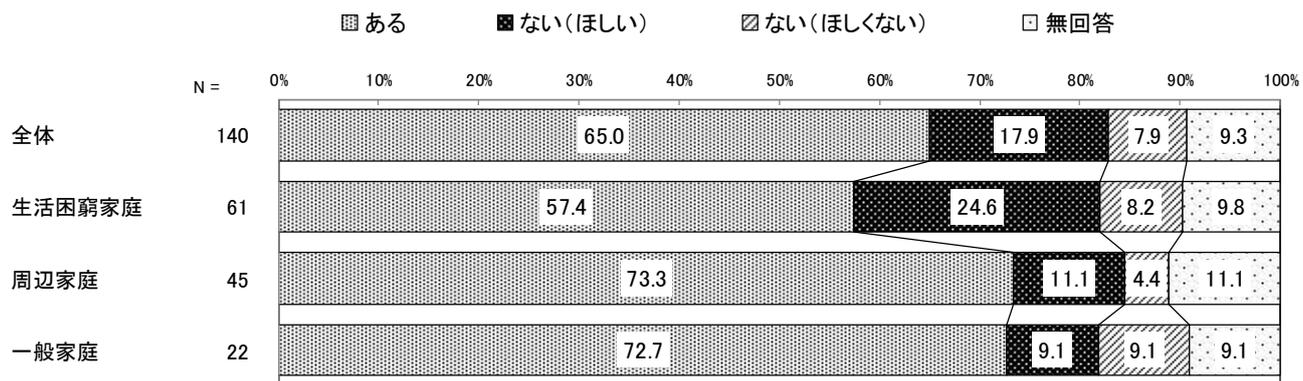
図表 3-8 自分が使うことのできるもの 友達が着ているのと同じような服(子ども 問3)



図表 3-9 自分が使うことのできるもの 携帯電話・スマートフォン(子ども 問3)



図表 3-10 自分が使うことのできるもの おやつやちょっとした玩具を買うおこづかい(子ども 問 3)

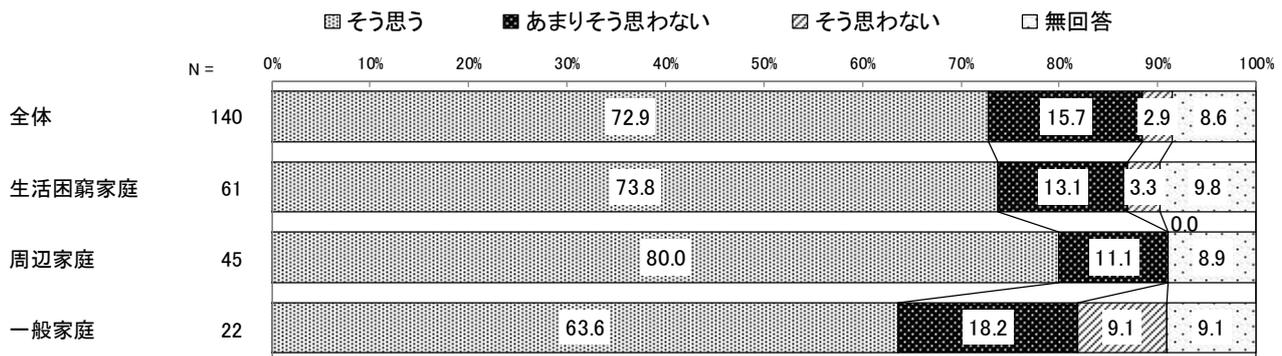


(2) 家庭生活に関すること

①親との関わり【生活の支援】

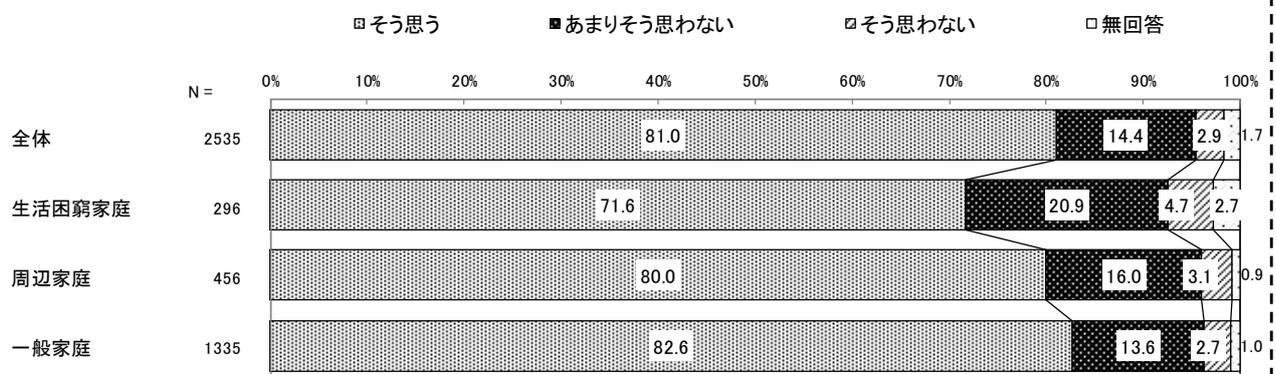
子どもからみた家族、親の接し方として、『一緒に楽しい時間を過ごしてくれる』、『自分が喜ぶことをしてくれる』は、全体調査の全体と支援利用者調査の全体を比較すると、各項目で「そう思う」の割合が低くなっている(図表 3-11~13)。

図表 3-11 あなたの家族は、あなたにいつもどのようにしていますか 一緒に楽しい時間を過ごしてくれる(子ども 問 4)

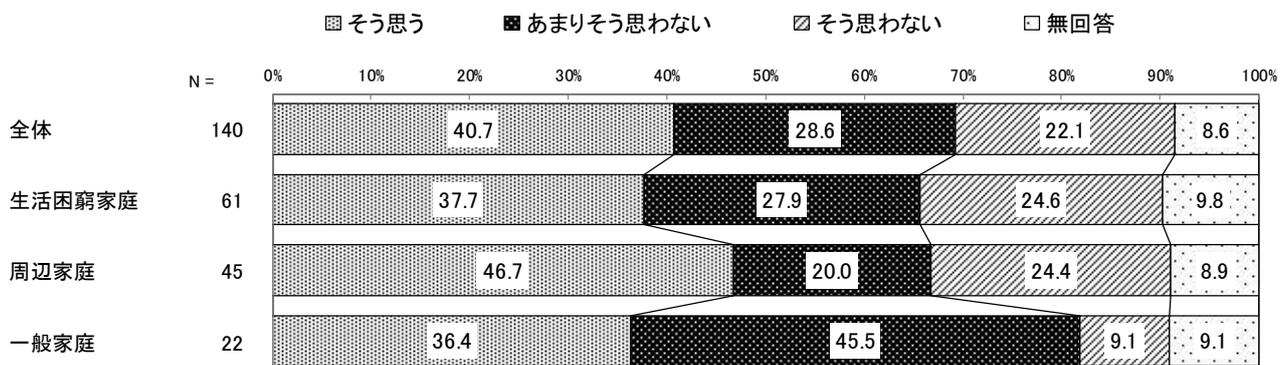


参考(全体調査)

図表 3-12 あなたの家族は、あなたにいつもどのようにしていますか 一緒に楽しい時間を過ごしてくれる(子ども 問 4)

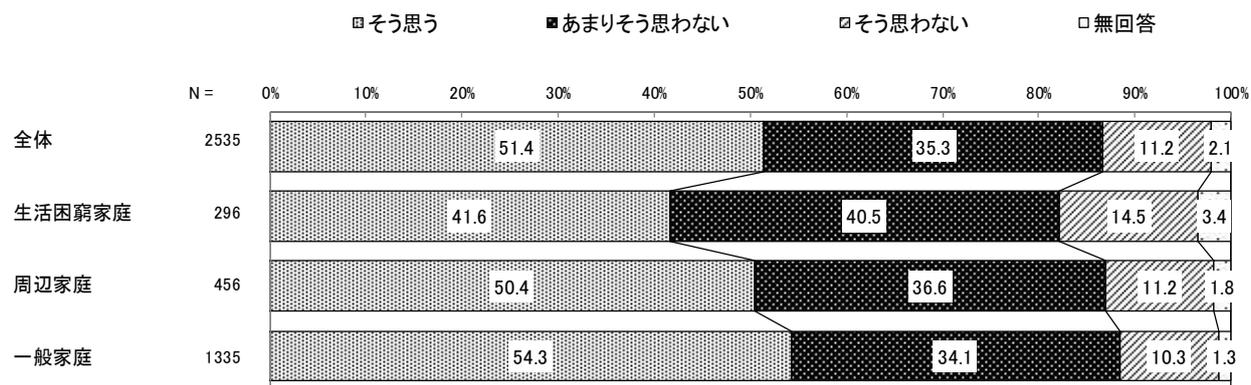


図表 3-12 あなたの家族は、あなたにいつもどのようにしていますか 決まりを作って厳しく言われる(子ども 問 4)

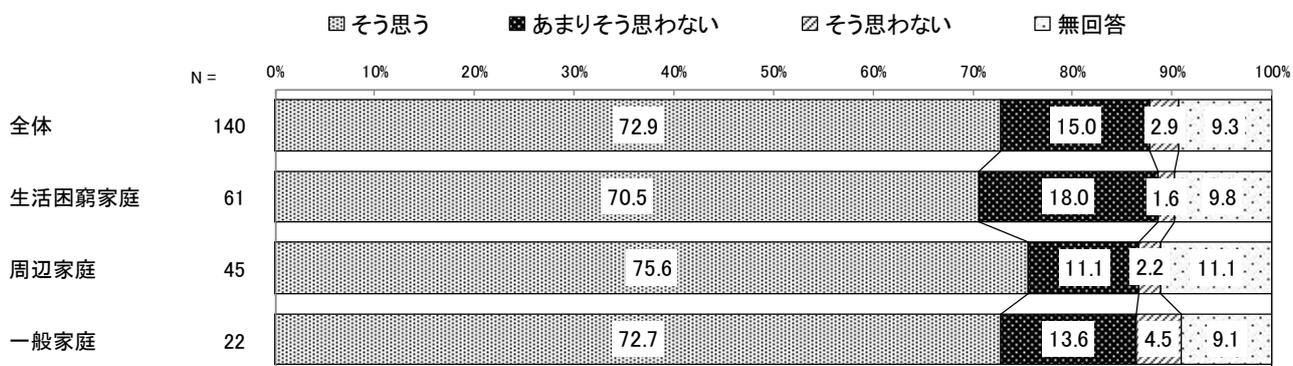


参考(全体調査)

図表 3-13 あなたの家族は、あなたにいつもどのようにしていますか 決まりを作って厳しく言われる(子ども 問 4)

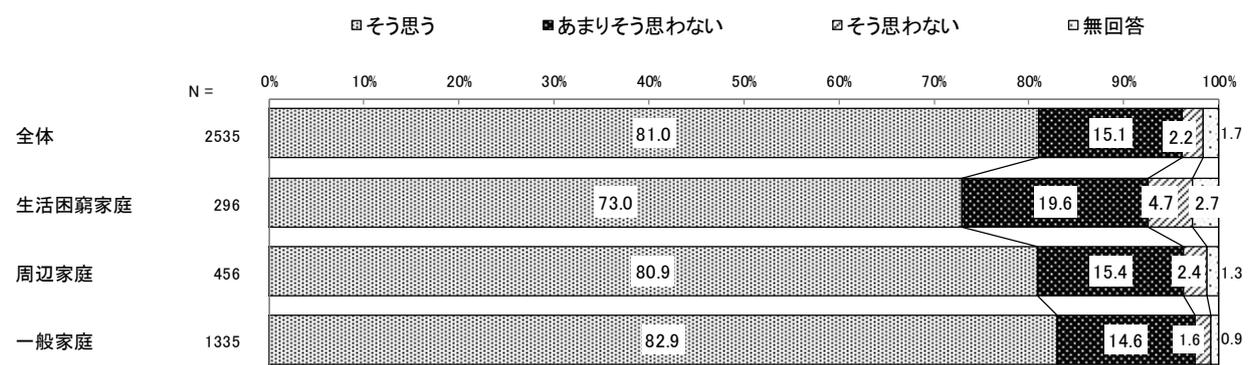


図表 3-13 あなたの家族は、あなたにいつもどのようにしていますか 自分が喜ぶことをしてくれる(子ども 問 4)



参考(全体調査)

図表 3-14 あなたの家族は、あなたにいつもどのようにしていますか 自分が喜ぶことをしてくれる(子ども 問 4)



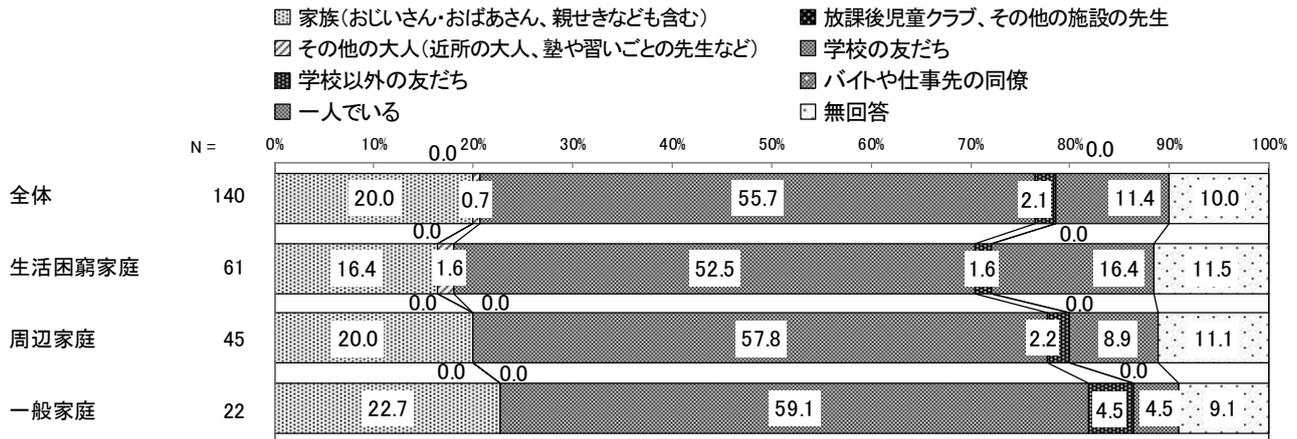
②放課後の過ごし方【生活の支援】

『平日の放課後、一緒に過ごす人』は、全体調査と比べて支援利用者調査は、「家族」と過ごしている割合が少なくなっている。

生活困難度別でみると、生活困窮家庭では「一人でのいる」が高くなっている。

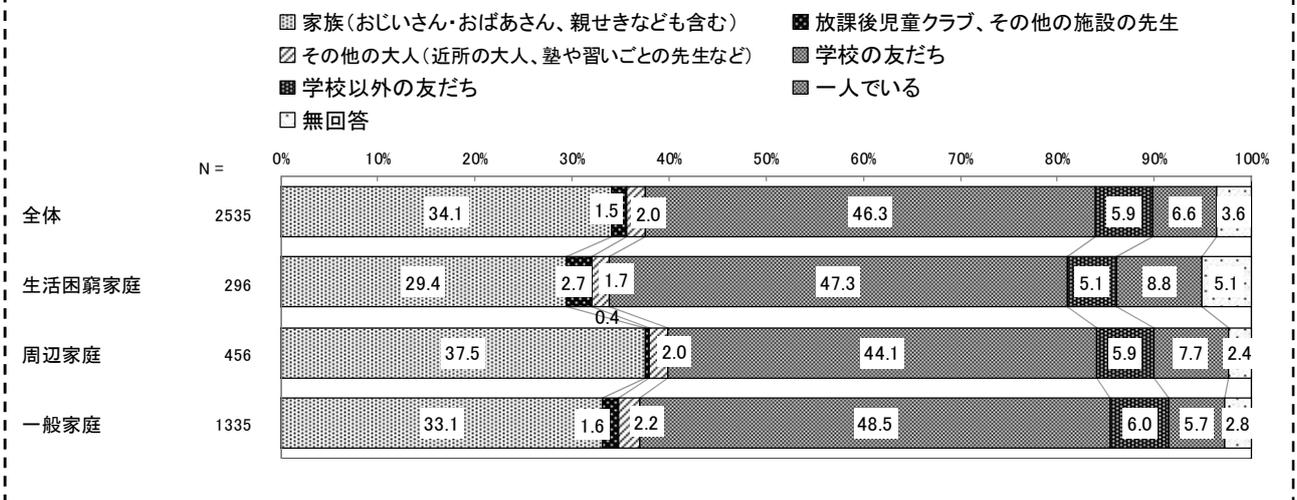
また、『平日夕方過ごす場所』では、「自分の家」が高くなっており、自宅で一人で過ごす子どもが多いことが伺える(図表 3-14・15)。

図表 3-14 平日の放課後、一緒に過ごす人(子ども 問7)

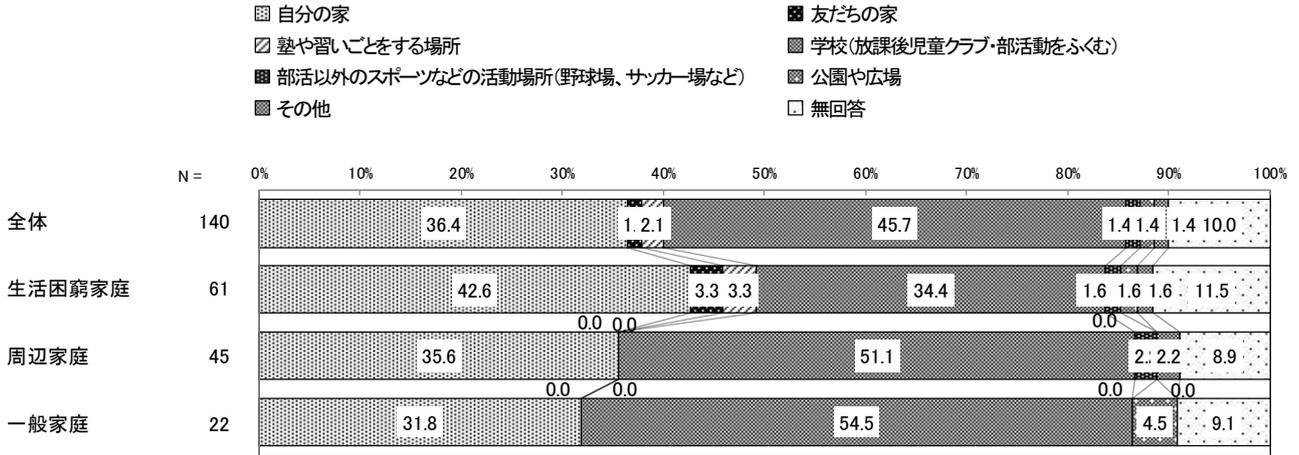


参考(全体調査)

図表 3-15 平日の放課後、一緒に過ごす人(子ども 問7)

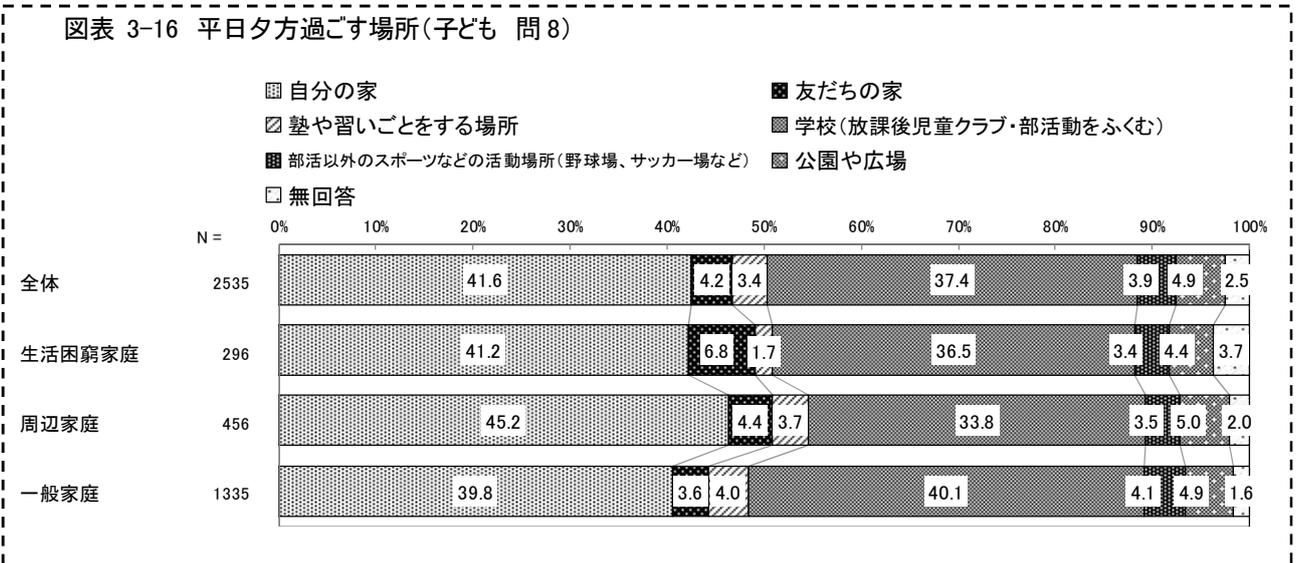


図表 3-15 平日夕方過ごす場所(子ども 問 8)



参考(全体調査)

図表 3-16 平日夕方過ごす場所(子ども 問 8)

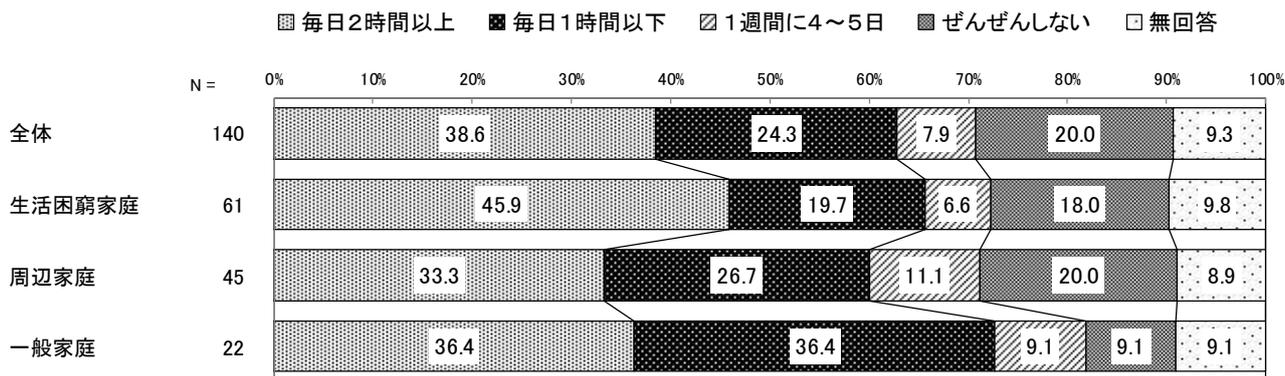


(3) 生活習慣・毎日の生活に関すること

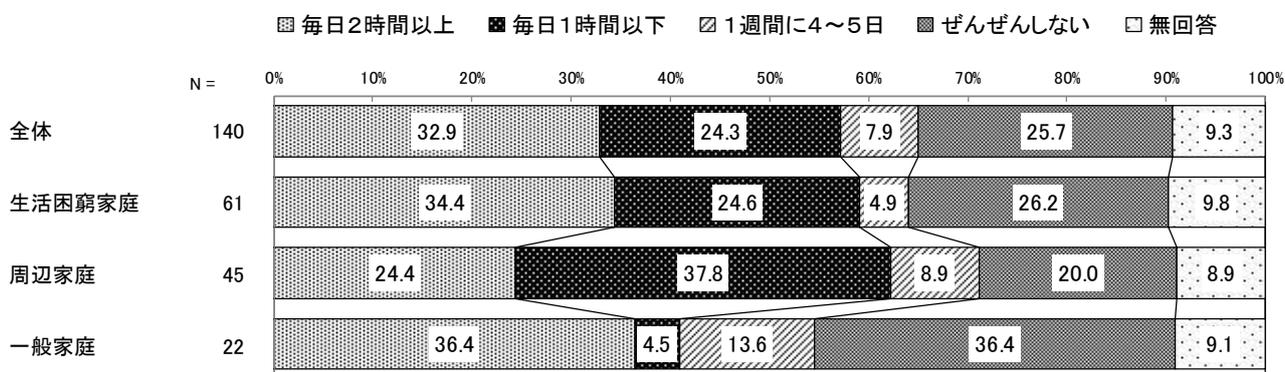
① 毎日の過ごし方【生活の支援】

生活困窮家庭では、『ゲーム機で遊ぶ』、『インターネット・SNS を見る』で、「毎日2時間以上」という回答の割合が高い(図表 3-16・17)。『30分以上の運動の頻度』では、「ほとんどしない・全くしない」の回答の割合が高い(図表3-19)。『この1か月の読書数』では、「読まなかった」の回答の割合が高い(図表 3-20)。

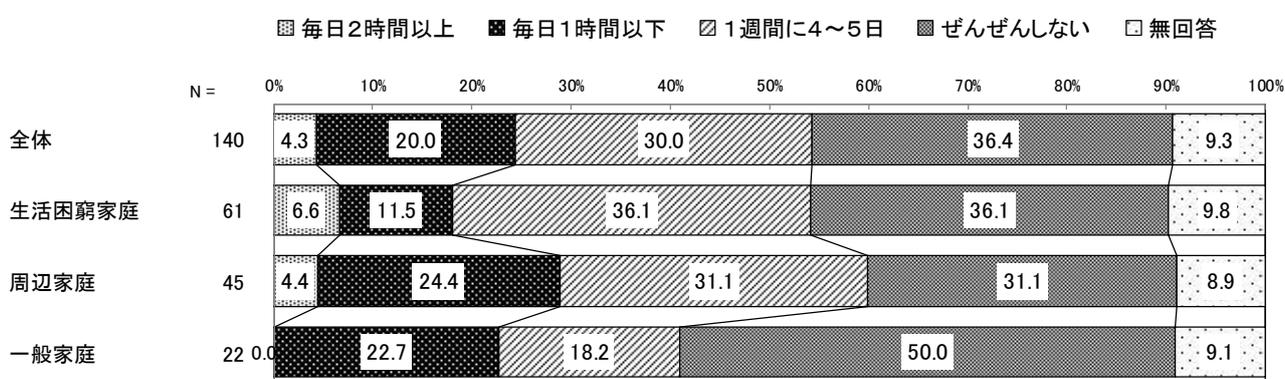
図表 3-16 ゲーム機で遊ぶ(子ども 問 12)



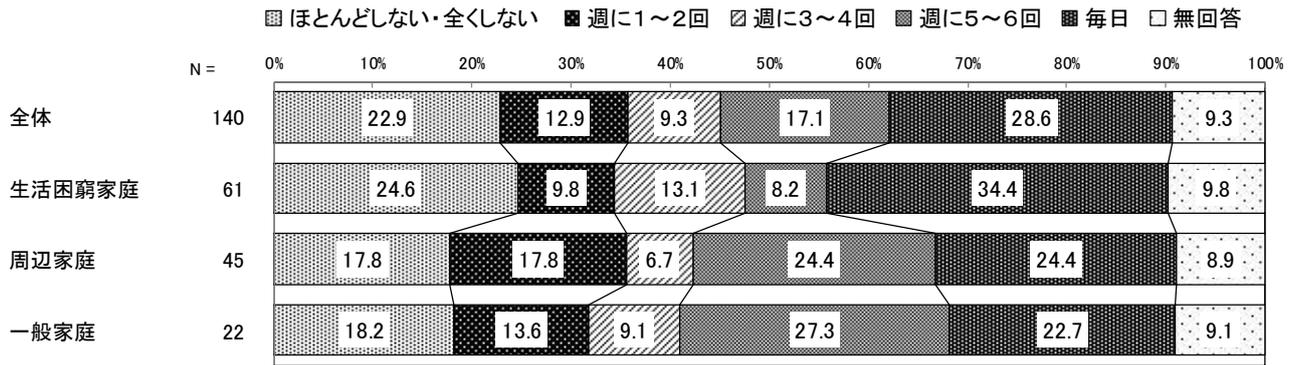
図表 3-17 インターネット・SNS を見る(子ども 問 12)



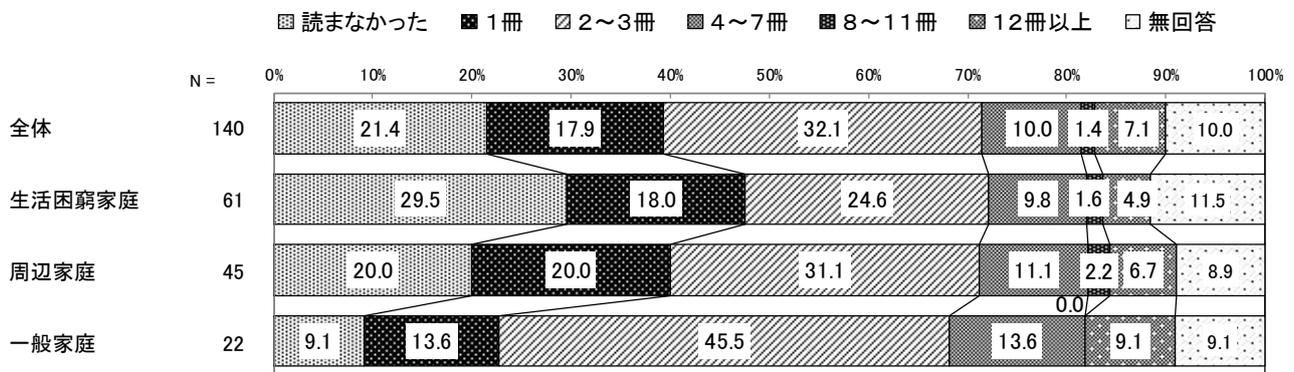
図表 3-18 家事(子ども 問 12)



図表 3-19 30分以上の運動の頻度(子ども 問13)



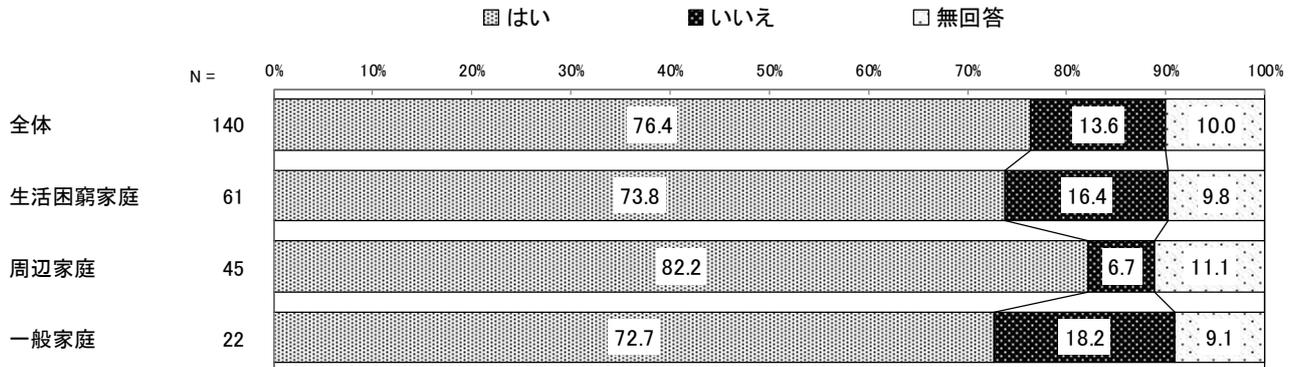
図表 3-20 この1か月の読書数(子ども 問14)



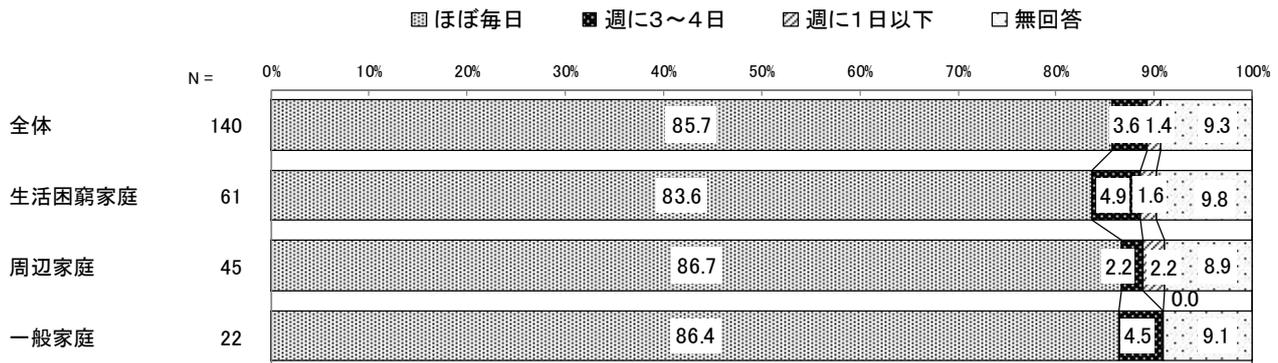
②生活習慣【生活の支援】

生活習慣については、全体調査の全体に比べて支援利用者調査の全体では『ほぼ毎日歯磨きをしている』がやや低くなっており、むし歯の有無についても、全体調査と比べて支援利用者調査では、むし歯が多くなっている(図表 3-22・23)。

図表 3-21 起床時間が決まっている(子ども 問 17)

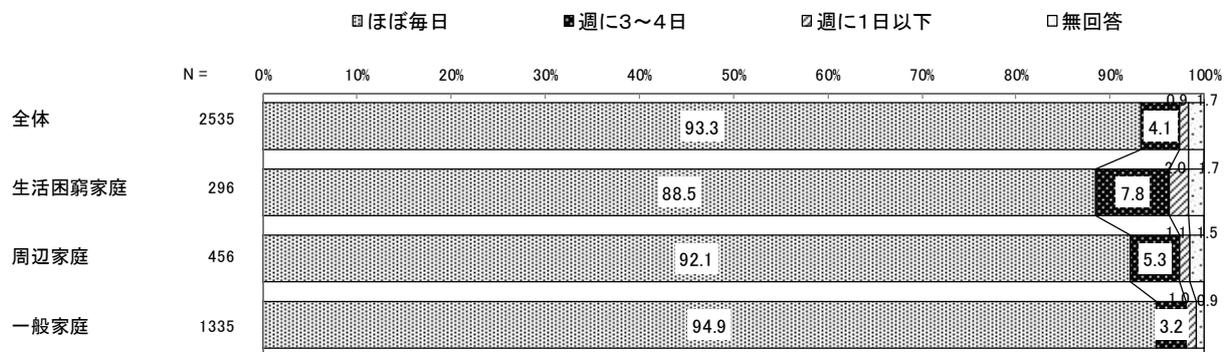


図表 3-22 毎日歯磨きをしている(子ども 問 18)

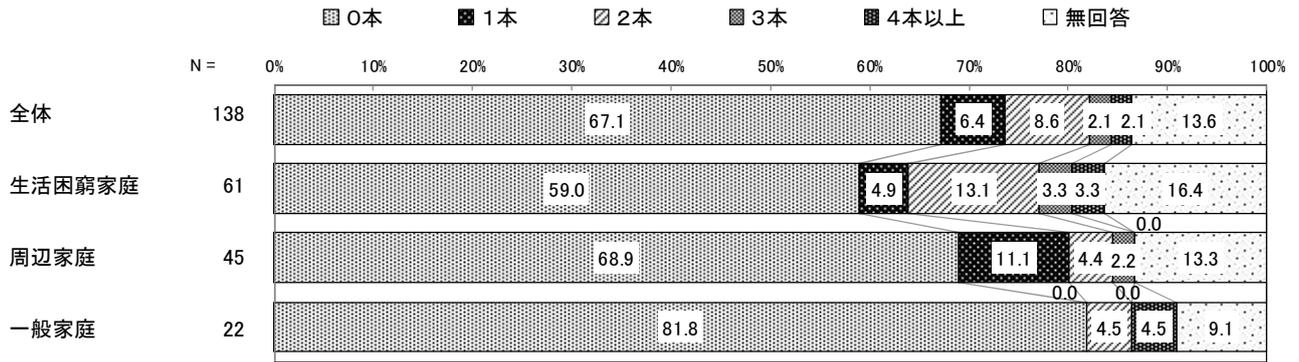


参考(全体調査)

図表 3-23 毎日歯磨きをしている(子ども 問 18)

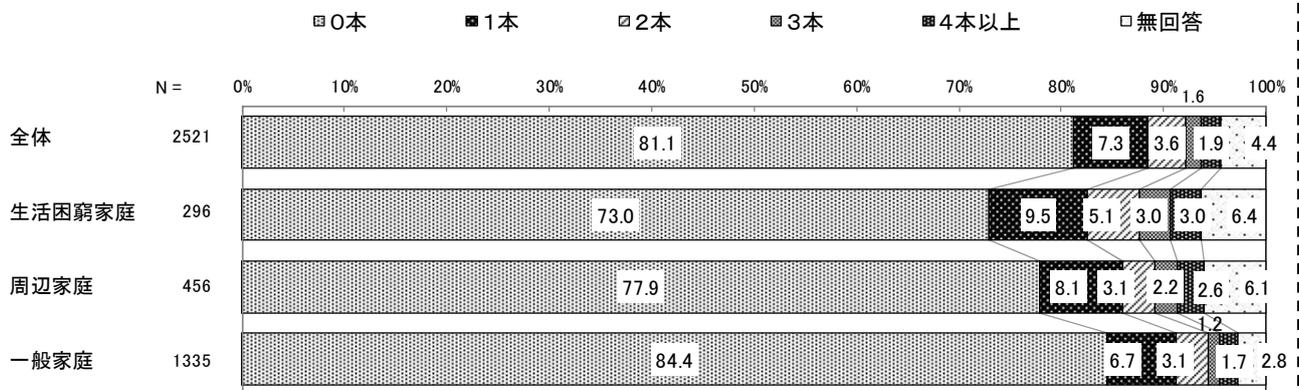


図表 3-23 虫歯の有無(子ども 問 24)



参考(全体調査)

図表 3-24 虫歯の有無(子ども 問 24)

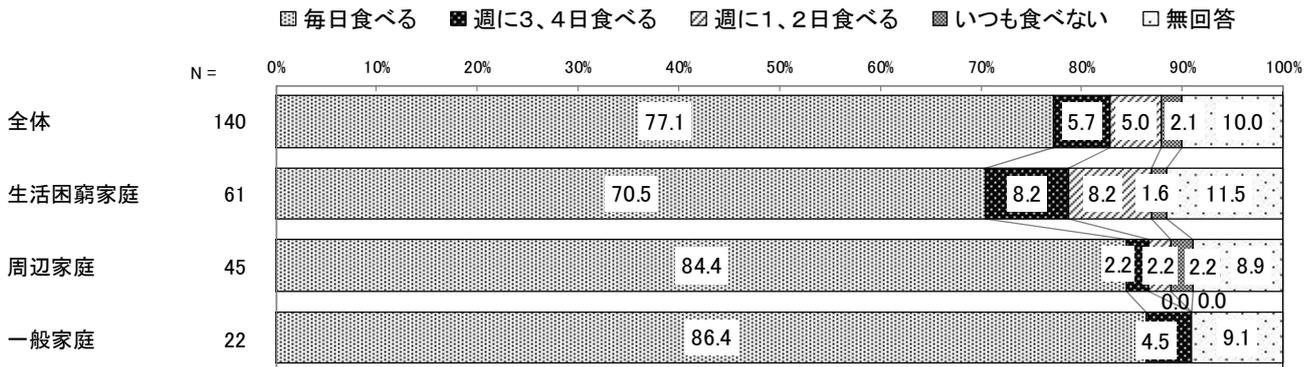


③朝食欠食・孤食【生活の支援】

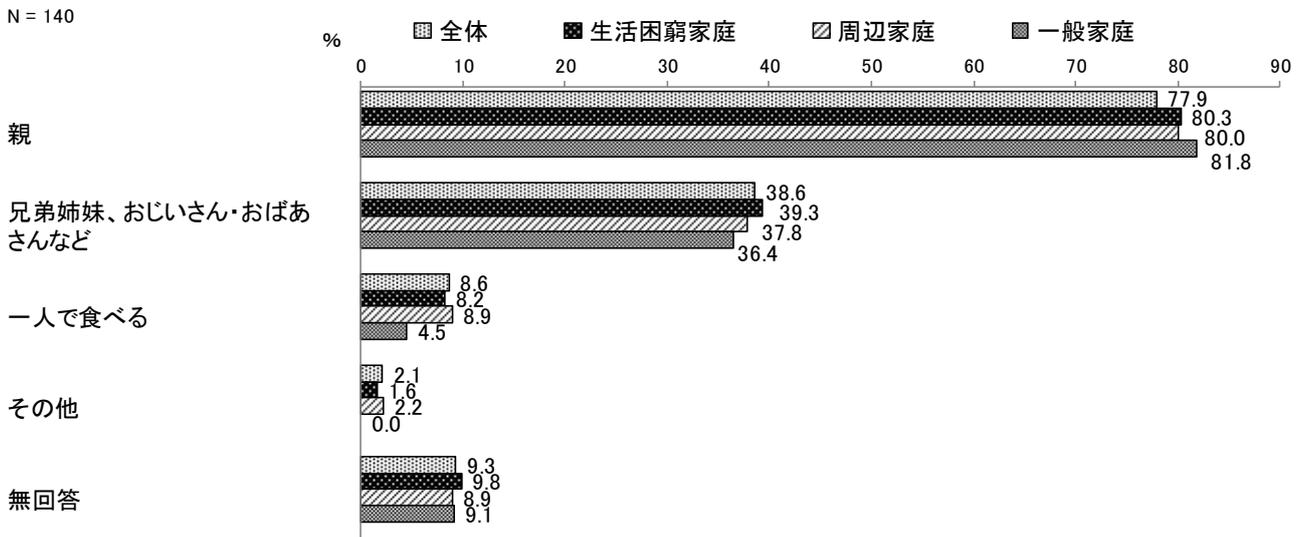
保護者調査と同様に生活困窮家庭では、一般家庭と比べると欠食・孤食の傾向が強くなっている(図表 3-24・25)。

食生活についても一般家庭と比べると、生活困窮家庭では『野菜』、『果物』の摂取頻度が低く、『コンビニのおにぎり・お弁当』、『カップ麺・インスタント麺』の摂取頻度は高くなっている(図表 3-26～29)。

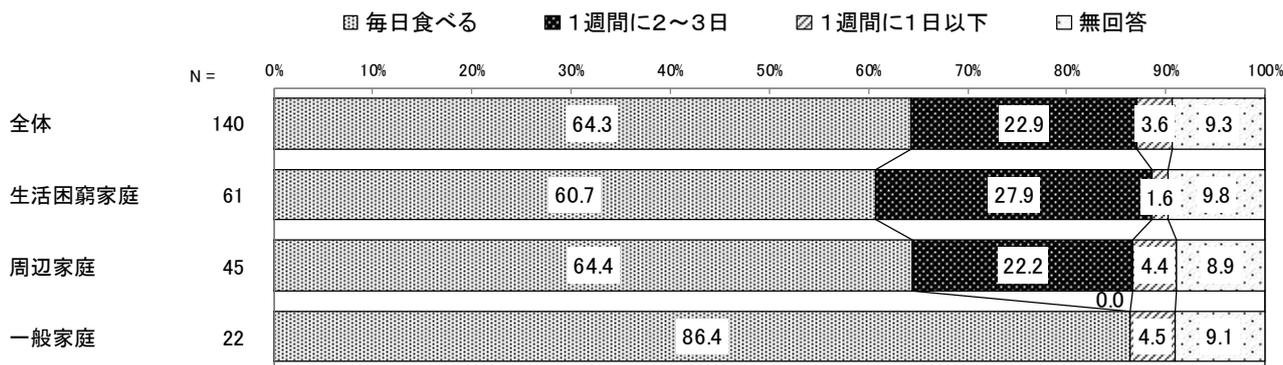
図表 3-24 平日の朝食の摂取頻度(子ども 問 19)



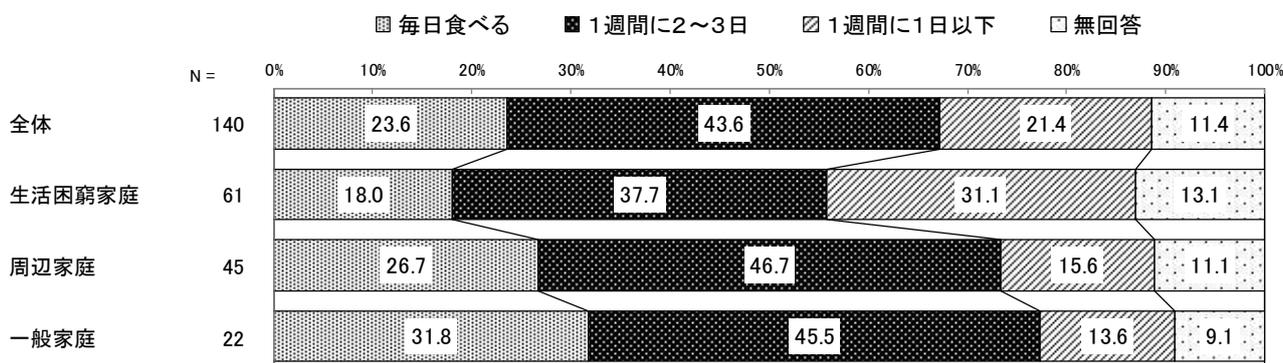
図表 3-25 平日の夕食を一緒に食べる人(子ども 問 21)



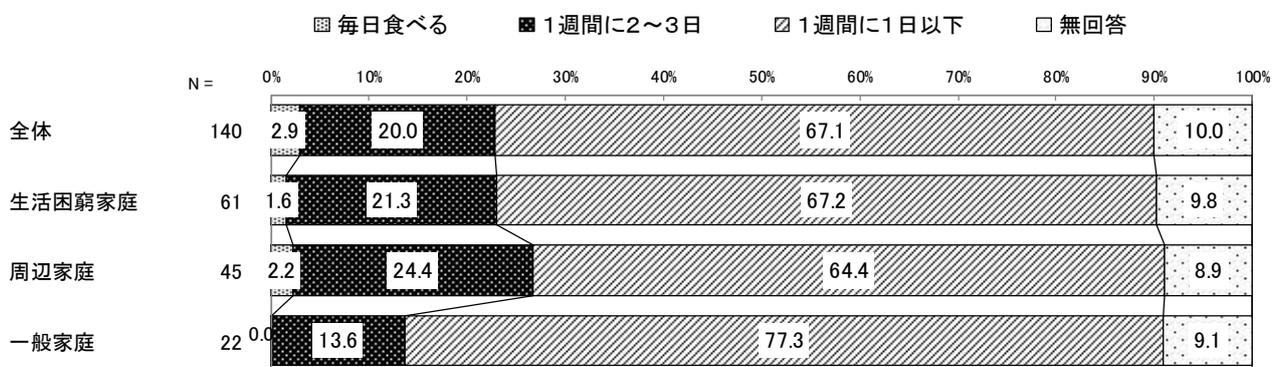
図表 3-26 野菜をふだんどのくらい食べているか(子ども 問 22)



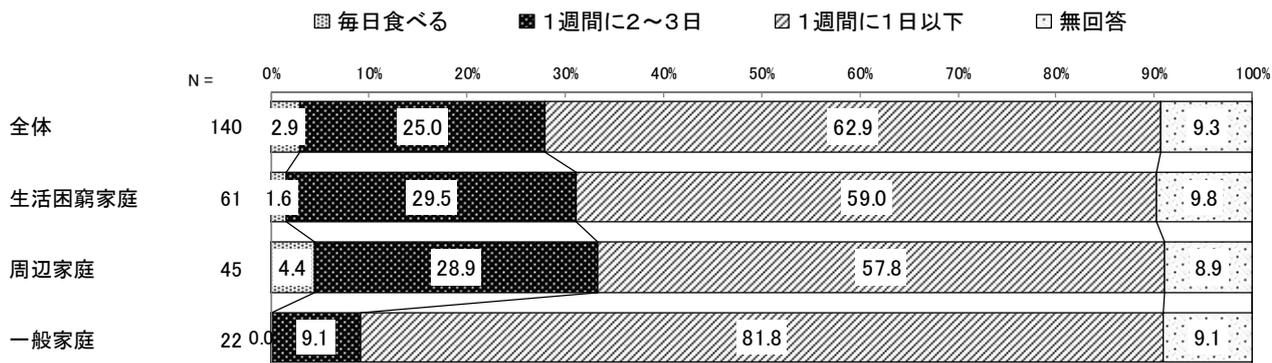
図表 3-27 果物をふだんどのくらい食べているか(子ども 問 22)



図表 3-28 コンビニのおにぎり・お弁当をふだんどのくらい食べているか(子ども 問 22)



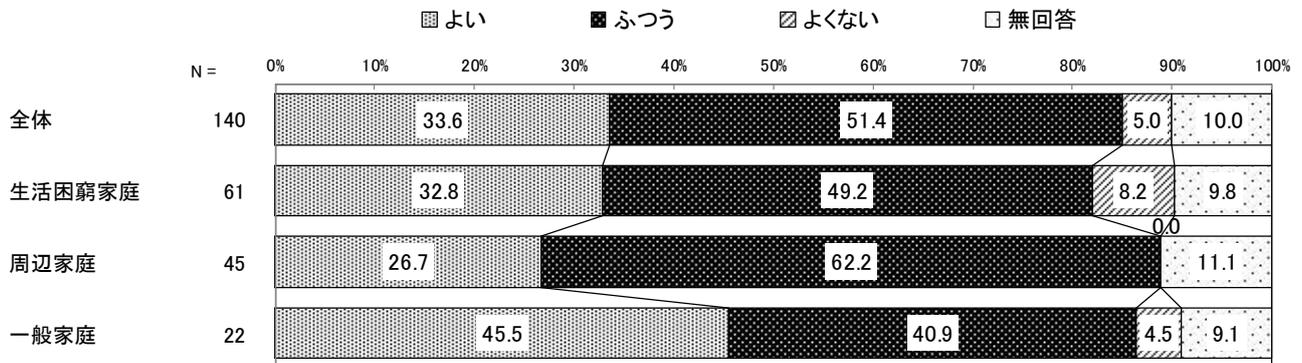
図表 3-29 カップ麺・インスタント麺をふだんどのくらい食べているか(子ども 問 22)



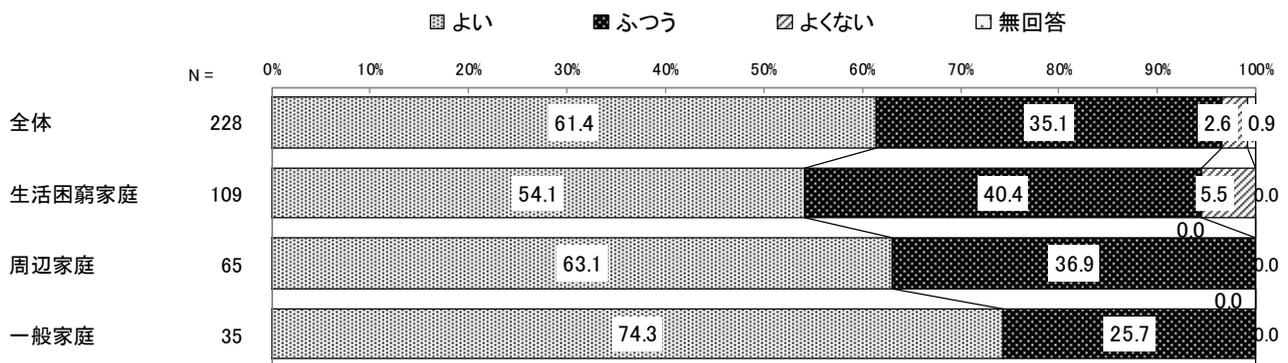
④健康状態【生活の支援】

生活困難層では、子ども自身の健康状態は「よい」という回答が低い(図表 3-30)。一方、保護者からみた子どもの健康状態は、子どもの回答よりも親の方が健康だと思っている割合が全体的に高く、保護者と子どもで健康感が乖離している(図表 3-31)。

図表 3-30 子どもの健康状態(子ども 問 23)



図表 3-31 保護者からみた子どもの健康状態(保護者 問 14)

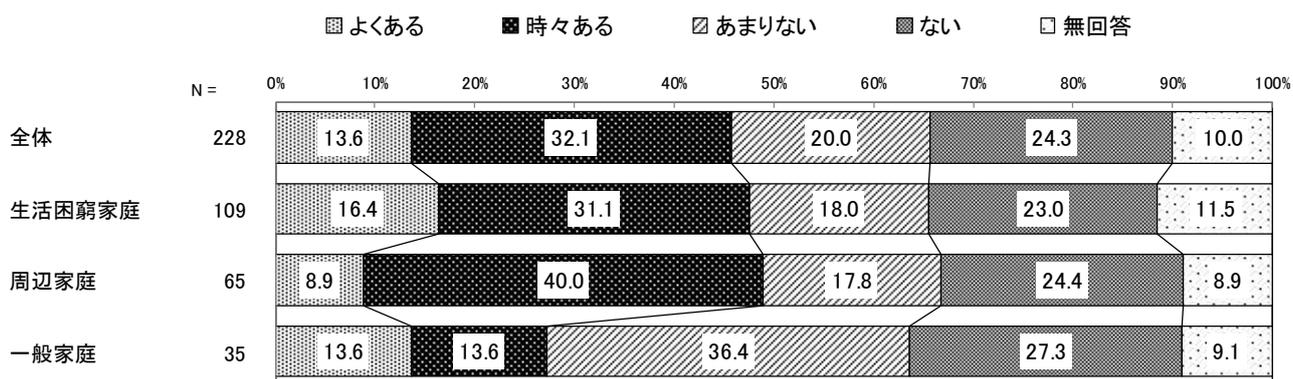


(4) 学び・学習・学校生活に関すること

①学校生活【学習の支援】

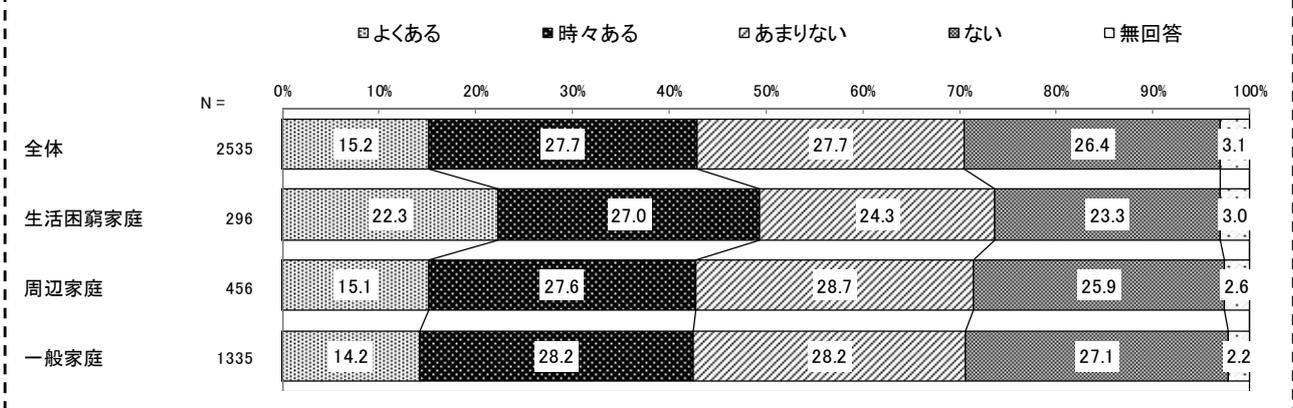
生活困難層では『学校に行きたくないと思った』で「よくある」「時々ある」という割合が一般家庭と比べて高くなっている。(図表 3-32)。

図表 3-32 学校に行きたくないと思った(子ども 問 37)

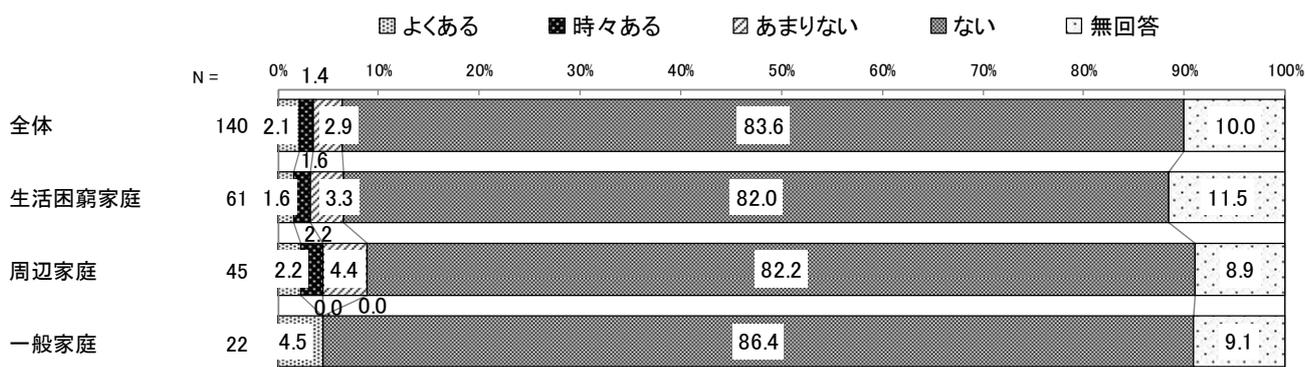


参考(全体調査)

図表 3-33 学校に行きたくないと思った(子ども 問 35)



図表 3-33 1か月以上学校を休んだ(病気を除く)(子ども 問 37)

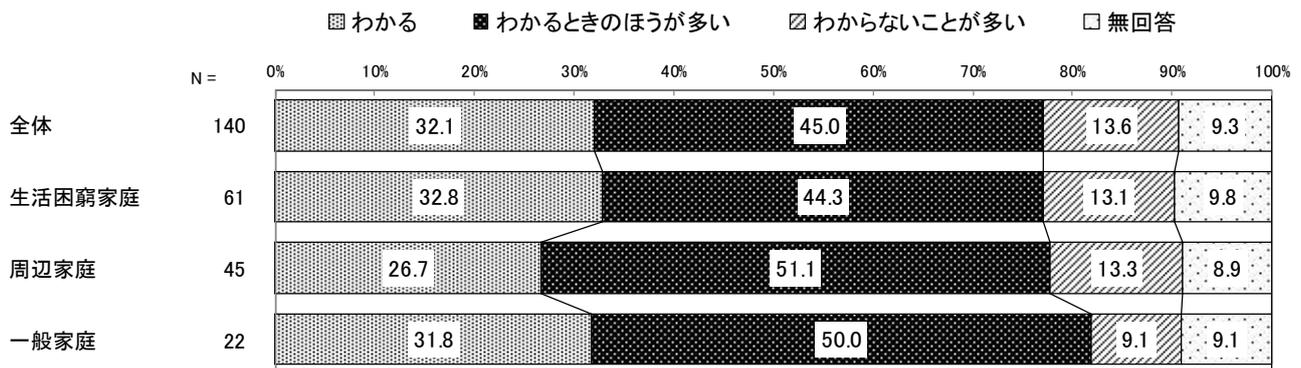


②学業・勉強【学習の支援】

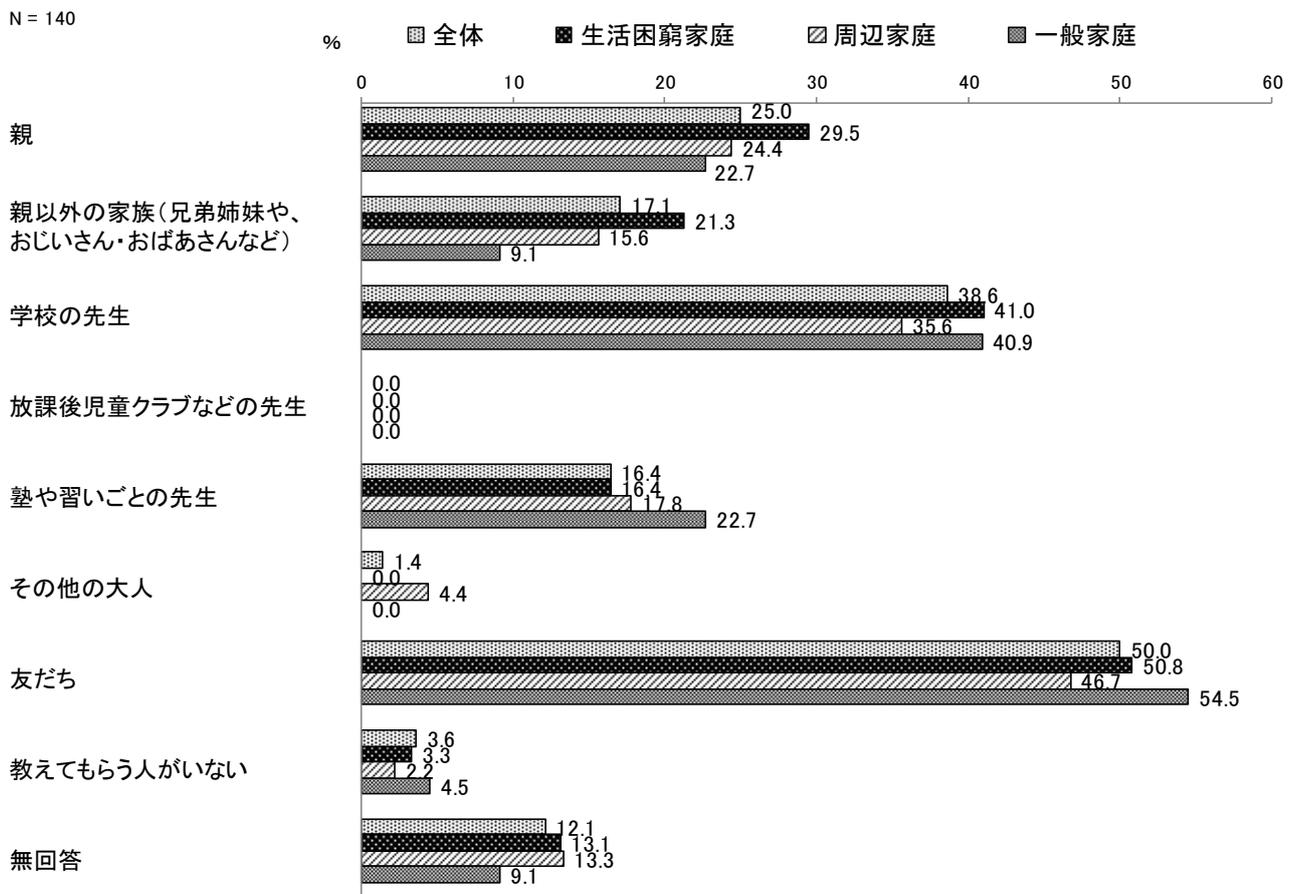
学習の理解度について「わからないことが多い」が一般家庭と比べて生活困難層の割合が高くなっている(図表 3-34)。

また、『勉強がわからないとき、勉強を教えてもらう相手』では、全体調査と比べて支援利用者調査では、「親」の回答の割合が低くなっている(図表 3-35)。

図表 3-34 学校の授業の把握度(子ども 問 26)

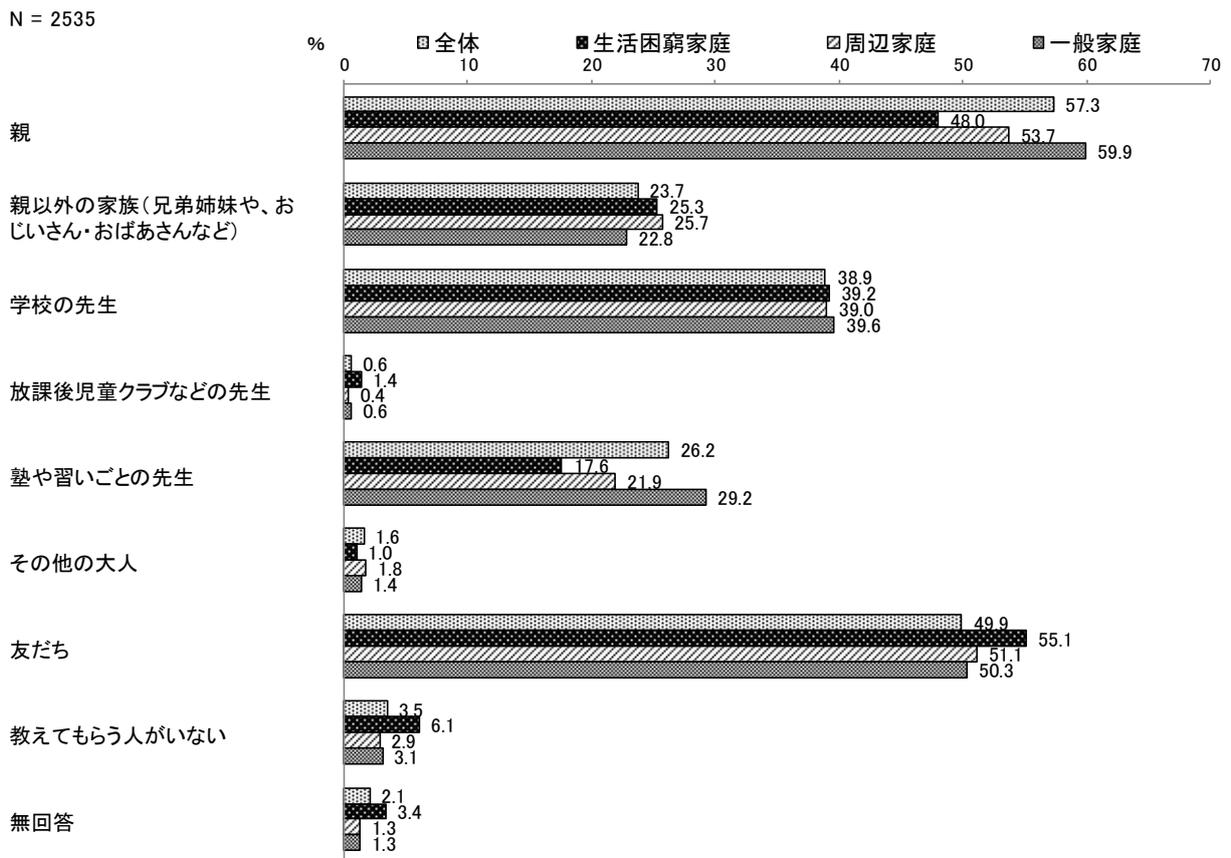


図表 3-35 勉強がわからないとき、勉強を教えてもらう相手(子ども 問 27)

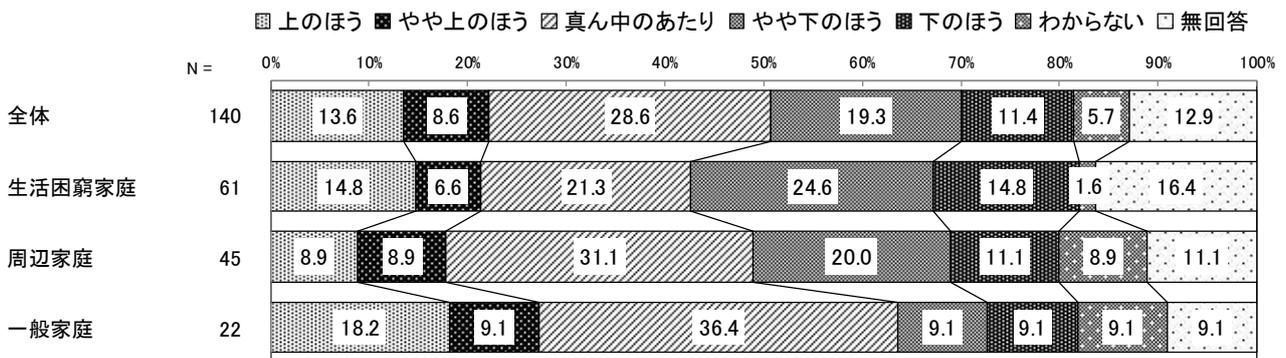


参考(全体調査)

図表 3-38 勉強がわからないとき、勉強を教えてもらう相手(子ども 問 26)



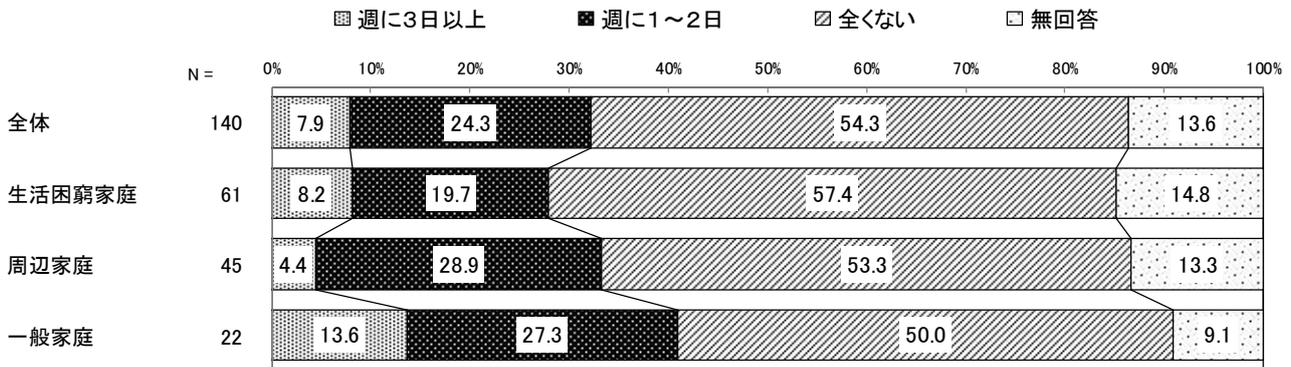
図表 3-36 クラス内での成績(子ども 問 28)



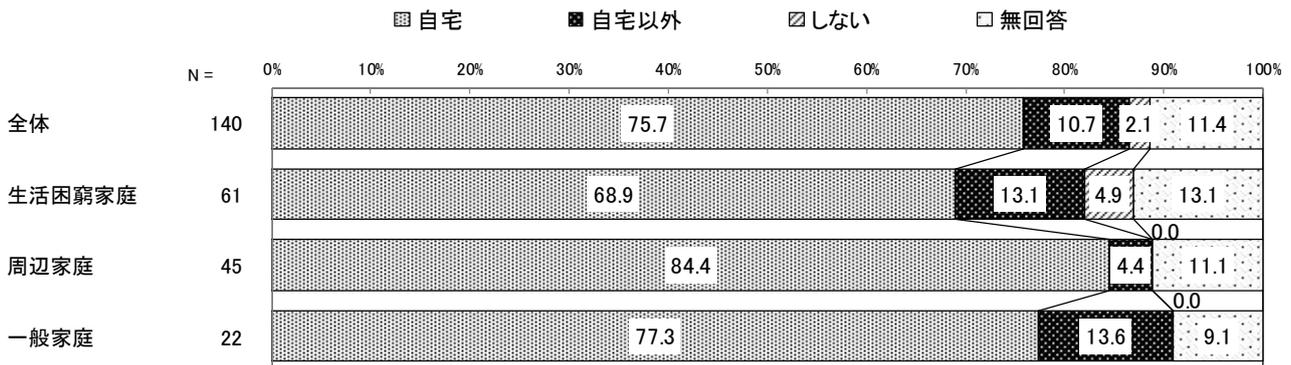
③学習環境【学習の支援】

学習塾・家庭教師の利用については、一般家庭と比べると生活困窮家庭では「全くない」の回答の割合がやや高くなっている。宿題をしている場所も一般家庭と比べると、「自宅」の回答の割合が生活困窮家庭ではやや低い(図表 3-37・38)。

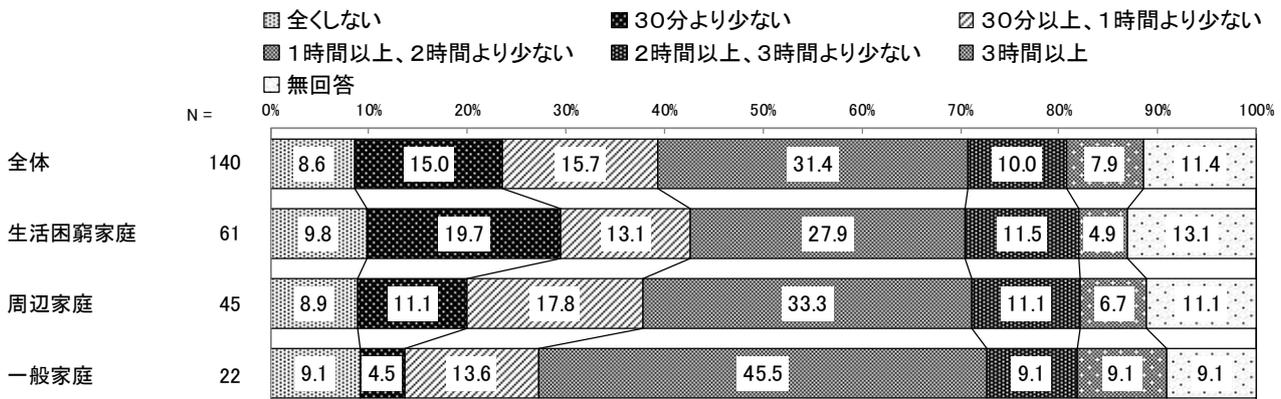
図表 3-37 学習塾・家庭教師の有無(子ども 問 30)



図表 3-38 宿題をしている場所(子ども 問 33)



図表 3-39 学校の授業以外での勉強の頻度(子ども 問 29)

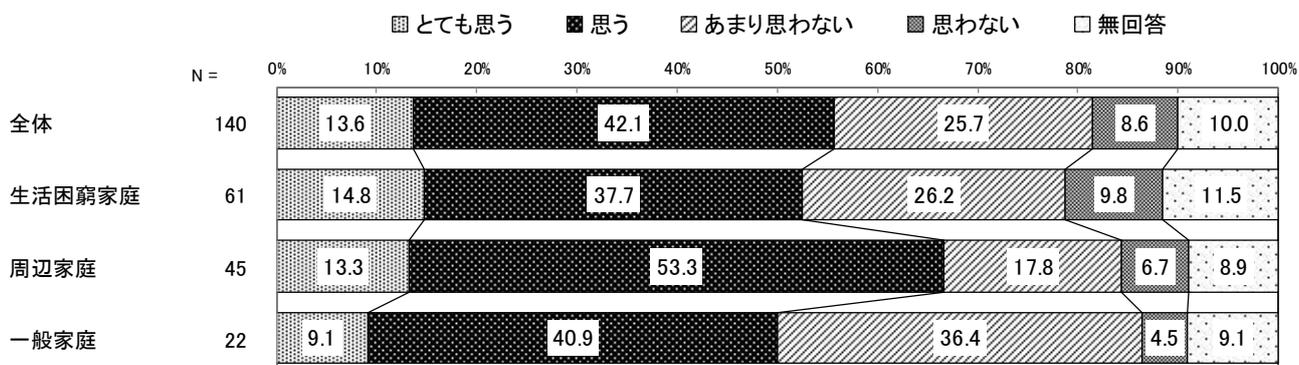


(5) 自分のこと、進路・自立に関すること

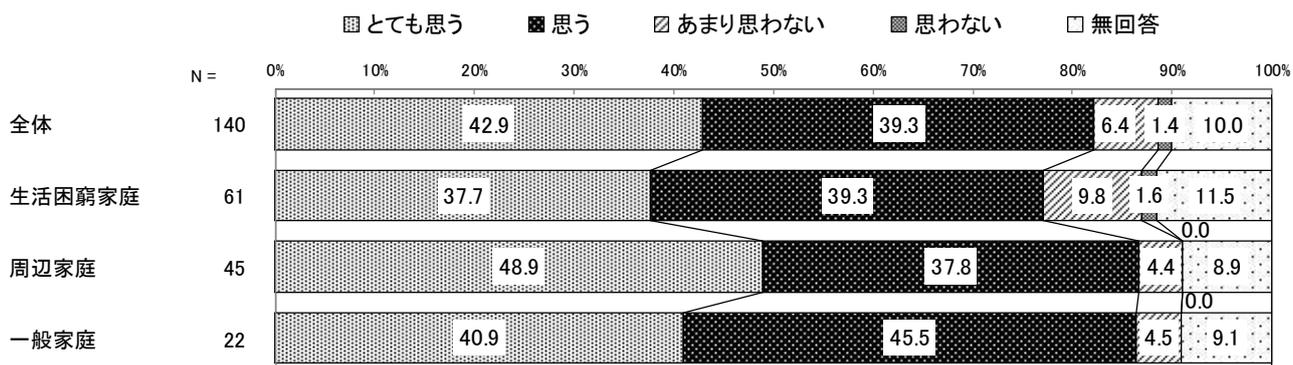
① 自己肯定感※【学習の支援】

この項目は、全体的に「とても思う」「思う」の割合が高くなっている(図表3-40~42)。

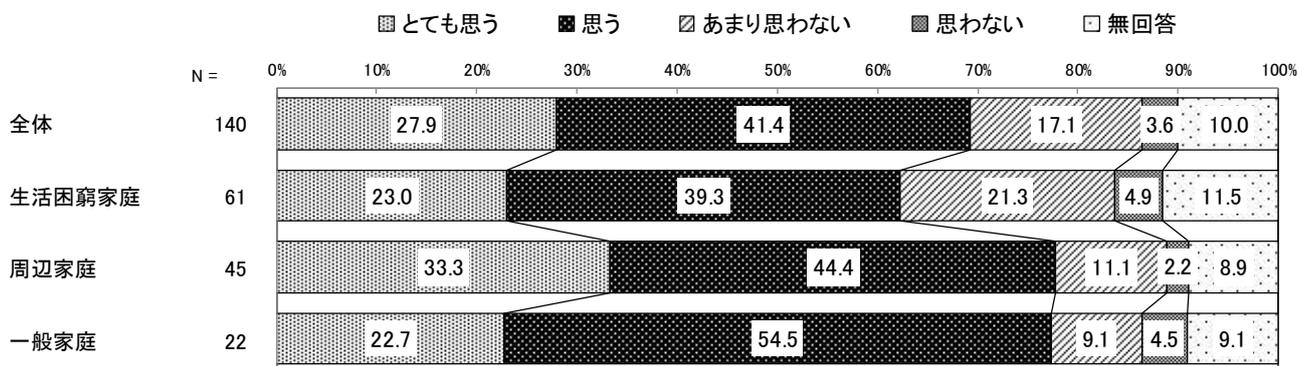
図表 3-40 自分は価値のある人間だ(子ども 問 36)



図表 3-41 自分は家族に大切にされている(子ども 問 36)



図表 3-42 自分は友達に好かれている(子ども 問 36)



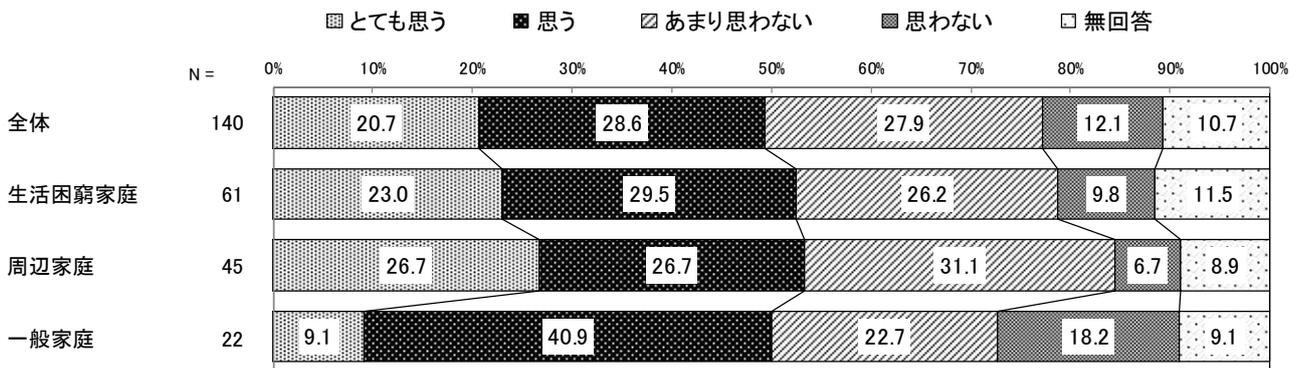
※自己肯定感:「自分は大切な存在だ」「自分はいかぬ存在だ」と思える心の状態。自分を肯定している感覚、感情などを指す。

②将来について【学習の支援】

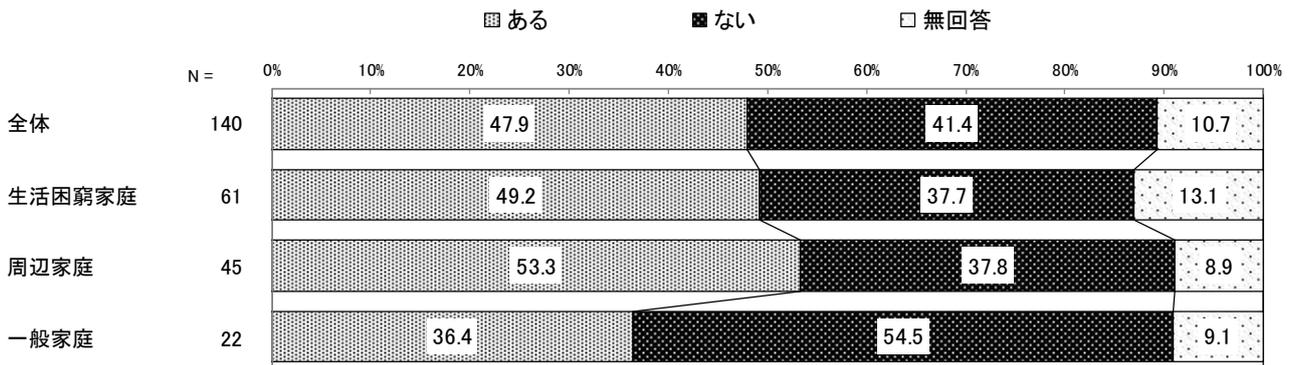
全体調査の全体と比べて支援利用者調査の全体では、『将来の夢やつきたい職業がある』の「ある」の回答の割合が低くなっており、将来に対する期待感が低いことが伺える(図表 3-44)。

また、『将来どの段階まで進学したいか』は、全体調査と同様に生活困難度が上がると「高校まで」の割合が高くなっている(図表 3-45)。

図表 3-43 自分の将来が楽しみだ(子ども 問 36)

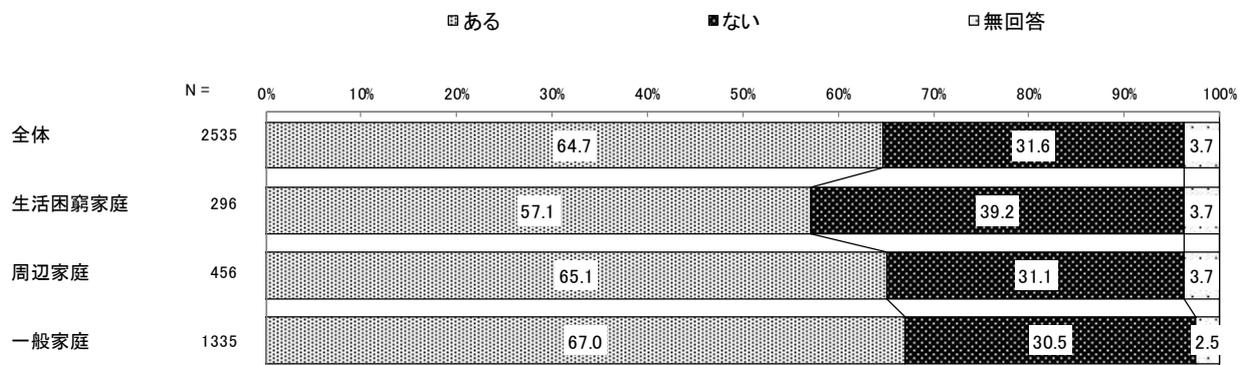


図表 3-44 将来の夢やつきたい職業がある(子ども 問 39)

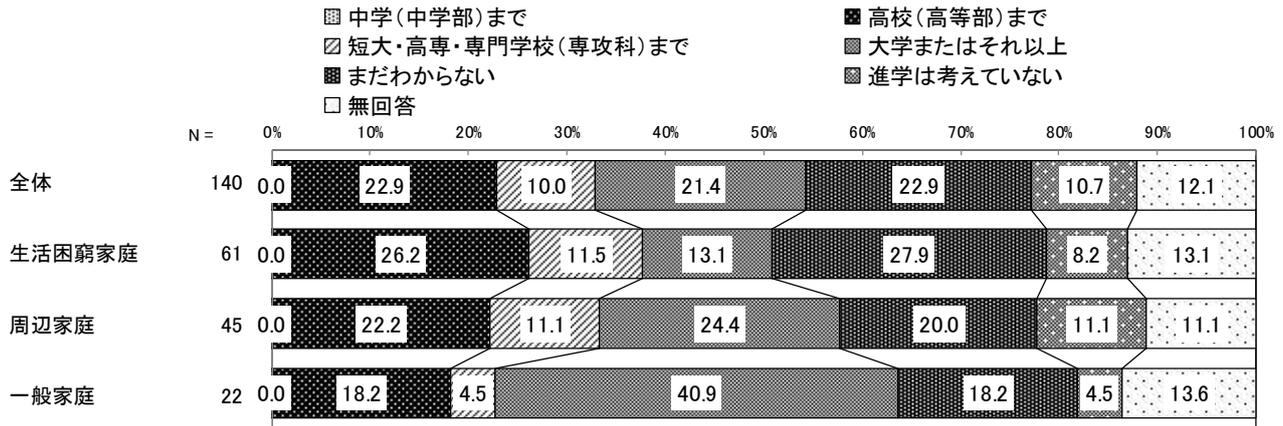


参考(全体調査)

図表 3-47 将来の夢やつきたい職業がある(子ども 問 37)



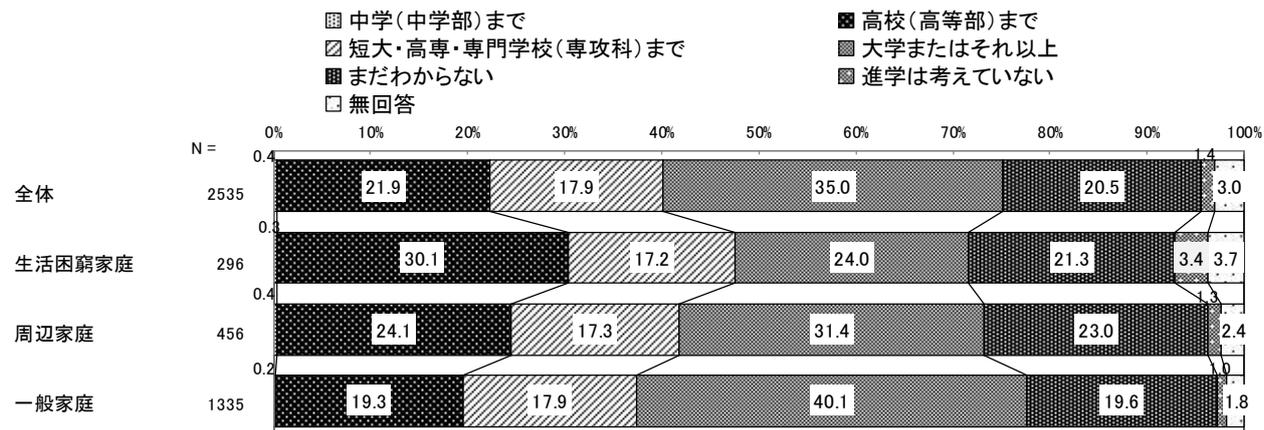
図表 3-45 将来どの段階まで進学したいか(子ども 問 40)



※支援利用者調査では、「中学(中学部)まで」の選択肢は設けていないため、割合が「0%」になっている。

参考(全体調査)

図表 3-48 将来どの段階まで進学したいか(子ども 問 38)



周南市子どもの生活に関する実態調査
結果報告書（別冊）
支援利用者編

平成30年3月

発行：周南市 こども健康部 次世代支援課

〒745-0032

山口県周南市銀座2丁目13番地

TEL 0834-22-8457

FAX 0834-22-8351